

SDGsの視点からの学習活動研究部会
—児童生徒・教職員・学校へのアンケート調査結果から—

中間報告書



令和6年9月

一般財団法人栃木県連合教育会

刊行にあたって

栃木県連合教育会では、先生方の要望などから設定した「SDGsの視点からの学習活動」をテーマとした研究部会を令和4年度に組織いたしました。また、幼稚園から高等学校まで完全実施になった現行学習指導要領には、「持続可能な社会の創り手」の育成がかかわれています。そこで、研究部会では令和7年度までの4年間の予定で、SDGsという考え方の中で、児童生徒にはどのような「持続可能な社会の創り手」としての資質・能力を育成するのか、また学校における取組はどうあるべきなのかなどについて調査・研究を進めているところです。この度、令和5年度までの研究成果を中間報告として先生方に還元することにいたしました。

さて、今でこそ様々な場で使われ、メジャーな言葉となりましたSDGs (Sustainable Development Goals 通称「グローバル・ゴールズ」)ですが、「2015年の国連サミットにおいて加盟国が合意した国際目標で貧困や飢餓、気候変動や環境破壊など、地球規模の課題を解決するため17のゴールとそれを達成するための169のターゲットから構成され、地球上の『誰一人取り残さない』ことを誓い、2030年までの達成を目指す。」というものです。

今回の中間報告では、前半の研究編は、令和5年度に各学校にご協力をいただいたSDGsに関する調査結果に基づく考察が中心となっております。後半の資料データ編では、児童生徒及び教職員からのアンケート調査結果を掲載いたしました。栃木県の先生方には、この研究成果を少しでも栃木県の子供たちのために生かしていただければ有難く存じます。

更には、現在、教科等横断的な学習の視点などからのカリキュラム・マネジメントの充実が望まれております。そうしたことも踏まえて、SDGs 17のゴールと教育課程及び各種指導計画との関連などについても、中間報告を参考にいただければ幸いです。

なお、今後は、研究委員の先生方に実際の授業実践を通して更に研究を深めていただくなどして、令和7年度に最終報告を取りまとめる予定になっております。

最後になりましたが、中間報告をまとめていただいた部会長の宇都宮大学の出口明子先生、指導助言者の栃木県教育委員会・栃木県総合教育センター・宇都宮市教育委員会の先生方、具体的な指導に即した形で調査・研究を進めていただいた小・中・高・特別支援学校の研究委員の先生方に、衷心より感謝申し上げます。

目 次

I 研究編

刊行にあたって	
1	研究・調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2	調査の方法・内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3	校種毎の調査結果に基づいた考察
	・小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
	・中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
	・高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
	・特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
4	資料
	・「SDG s の視点からの学習活動研究部会」設置と活動の経過 21
	・研究スタッフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

II 資料データ編（アンケート調査結果）

1	小学校（児童・教員・学校） 25
2	中学校（生徒・教員・学校） 44
3	高等学校（生徒・教員・学校） 63
4	特別支援学校（児童・生徒・教員・学校） 79

ホームページへの掲載

下記のファイル（PDF）をホームページに掲載します
必要な場合はファイルをダウンロードご利用ください。

- 1 「研究編 小学校」・「研究編 中学校」・「研究編 高等学校」・「研究編 特別支援学校」
- 2 「資料データ編 小学校」
- 3 「資料データ編 中学校」
- 4 「資料データ編 高等学校」
- 5 「資料データ編 特別支援学校」

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 研究編

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

「SDGs の視点からの学習活動研究部会」 中間報告

栃木県連合教育会「SDGs の視点からの学習活動研究部会」
部会長 出口 明子（宇都宮大学）

1. 研究・調査の目的

本報告書は、栃木県連合教育会「SDGs の視点からの学習活動研究部会」による令和4年度からの研究活動の一つとして、栃木県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒、教員、及び学校を対象に行ったSDGsに関する調査結果をまとめたものです。

SDGsは「持続可能な開発目標」として2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を実現するために設定された以下の17の目標です。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 貧困をなくそう | 2 飢餓をゼロに |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 4 質の高い教育をみんなに |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 8 働きがいも経済成長も |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 11 住み続けられるまちづくりを | 12 つくる責任つかう責任 |
| 13 気候変動に具体的な対策を | 14 海の豊かさを守ろう |
| 15 陸の豊かさも守ろう | 16 平和と公正をすべての人に |
| 17 パートナリシップで目標を達成しよう | |

これらの目標は、貧困の撲滅、教育の質の向上、ジェンダー平等の推進、気候変動への対策など、多岐にわたる課題に取り組むものであり、全ての国と地域、そして私たち一人ひとりが取り組むべき重要な課題です。

2015年以降、SDGsの考え方や、国や自治体、企業等による具体的な取り組みは、種々のメディア等を通して世間に広く浸透してきているところです。そうした動きは、学校教育においても例外ではありません。現行の学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手」を育成することが明記され、児童・生徒が持続可能な社会を実現するための知識や技能を身につけることが求められています。具体的には、環境教育の充実、社会参画や公民教育の充実、国際理解教育の推進などの取り組みが挙げられます。また探究的な学習活動を推進することにより、問題解決能力等をはじめとする「持続可能な社会の創り手」としての基盤的な能力の育成も期待されています。

これらの背景を受けて学校現場では以前からSDGsに関わる具体的な学習活動が展開されてきており、数多くの実践事例も報告されてきています。このような状況において、SDGsに対する現在の児童・生徒、及び教員の認識、各学校における取り組みの状況を調査することで、SDGsの視点からの学習活動に関する現在の成果や課題について明らかにすることが本調査の目的です。SDGsは2030年までの達成を目指した目標であるものの、持続可能な社会を創り続けることは、当然ながら今後も私たちに求められるものと考えられます。本調査を通して現状の成果と課題を明らかにすることで、次の時代に向けた「持続可能な社会の創り手」の育成の在り方についての示唆を得ることが期待されます。

2. 調査の方法・内容

(1) 調査方法

本調査は、令和5年6月～7月に栃木県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校とその

学校の教員、児童生徒を対象に実施されました。調査は、小学校・中学校・高等学校は Web フォームを活用し、特別支援学校は Web フォームと紙媒体の質問紙を使用して実施されました。回答数は、児童生徒計約 12000 名、教員計約 850 名、学校計 321 校でした。SDGs をテーマにしたこのような大規模の調査は全国的に見てもあまり例がなく、本調査の回答にご協力をいただいた関係の皆様がこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

(2) 調査内容

児童生徒を対象とした調査では、どのように SDGs を認識しどのような行動をとっているのかを問うために、SDGs の認知度、SDGs に関して日頃取り組んでいること、17 の目標の中で特に着目しているもの、日本の SDGs への取り組み状況への認識に関するもの、といった項目を設定しています。また、児童生徒らが現在や未来の地球の住みやすさについてどのように考え、SDGs に取り組むことで未来の地球がどのように変わると予測しているのかといった、未来指向の観点からも調査を行っています。さらに本調査では、教育現場における SDGs 教育の現状を包括的に把握するために、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員及び学校を対象にも調査を行い、現場における教育活動の内実や、今後展開していくにあたっての課題に関する項目を設定しています。これらの調査を実施した結果や分析については、本報告書内の各校種別の報告書、及び資料編に詳しく解説しています。

3. 今後に向けて

本研究部会の活動は令和 4 年 4 月からの 4 ヶ年の研究期間のうち、前半の 2 年間を終えたところです。後半の 2 年間では本調査の結果を踏まえ、SDGs の視点からの小学校、中学校、高等学校、特別支援学校での学習活動をデザインし、授業実践を展開していきます。

本調査の結果が、多くの教育関係者、地域社会の皆様幅広く共有され、持続可能な社会の創り手を育成するための一助となることを心から願っております。

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 研究編
小学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【小学校】

【小学校】

1. 各小学校が実施している SDGs に関する取り組みについてのアンケート結果からの考察

県内すべての小学校に依頼（回答は任意）したアンケートの回答が 205 校からあった。この結果をもとに、各校で実施している SDGs に関する取り組みについて述べていく。

まず回答者の内訳は学校長 24 名、教頭・副校長 86 名、主幹教諭 3 名、教諭 90 名、講師 2 名である。

「SDGs に関する指導について、校務分掌に位置付けられているか」の問いには、「位置付けられている」と回答したのが 154 校、「位置付けられていない」と回答したのが 51 校だった。「位置付けられている」と回答した学校にその分掌名を問うと、「環境教育」と回答した学校が 40 校と約 25%を占めた。他には、「人権教育」と回答した学校が 5 校、「生涯教育」や「キャリア教育」と回答した学校が 1 校ずつあった。中には「SDGs 推進リーダー」や「SDGs プロジェクト」と回答した学校が合わせて 4 校、教務主任が担当していると回答した学校もあった。この設問の結果から分かることは、「SDGs＝環境」という印象が教員あるいは学校全体に強く意識されていると感じられる。

「SDGs と学校行事を関連させた取り組みを行っているか」の問いには、「行っている」と回答した学校が 119 校、「行っていない」と回答した学校が 86 校だった。「行っている」と回答した学校にその取組内容を問うと、最も多かったのは 11 校が回答した「リサイクル」だった。次に多かったのは、8 校が回答した「総合的な学習の時間」、「集会」であり、集会の内容は各種委員会による「環境集会」や「人権集会」である。他には「アルミ缶回収」、「資源物回収」、「クリーン活動」という回答も目立った。また、詳細までは記入されていなかったが、修学旅行や臨海自然教室で SDGs と関連させた活動を実施している学校もあることが分かった。この設問からも、「SDGs＝環境」という印象が教員あるいは学校全体に強く意識されているということがいえるだろう。さらに、この設問では「人権」というキーワードが見られるようになった。

「SDGs に関する内容を扱う場合、学校として困難な点はどのような点か」の問いでは、「他の業務で多忙なため SDGs に関する教育の準備に割く時間が確保できない」という回答や、「年間指導計画や校務分掌、指導要領に明確に設定されていないので実施が難しい」といった回答があった。また、教員の知識不足を懸念する回答も見られた。多くの教科指導や学校行事の準備等、日々多忙を極める小学校の教育現場において、新たな取組に意欲的に向き合うことが難しい教員も少なくないという現実を再確認する結果となった。

「SDGs に関する内容を扱ったことがある場合、学校としてよかった点はどのような点か」の問いに対しては、「環境問題に対する児童の意識が高まった」という回答が多かった。ここでも「環境」というキーワードが目立ち、小学校の教育現場で「環境問題」は SDGs と関連させやすいと推察される。また、この設問では「グローバルな視点」、「異文化理解」の語句を含む回答もあり、環境問題以外の SDGs に関する取組でよさを感じている教員もいるということが分かった。

自由記述の設問では、学年に応じた実施内容を記入している学校が 14 校と最も多かったが、注目すべきは次に多かった「教育課程に位置づけたい」という 14 校の回答である。先の設問で、多忙感や不明確なために実施が難しいという回答も見られたが、反面、教育課程や年間指導計画に明確化されていれば実施したいという意欲的な意見も少なからず存在していることが分かった。

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【小学校】

2. 県内小学校教員に対して実施した SDGs についてのアンケート結果からの考察

続いて、県内 534 名の小学校教員の回答を見ることにする。「SDGs についてどれくらい知っているのか」の問いには、「よく知っている」と回答した教員は 59 名（約 11%）、「少し知っている」と回答した教員は 413 名（約 77.3%）、「どちらとも言えない」と回答した教員は 35 名（約 6.5%）、「あまり知らない」と回答した教員は 25 名（約 4.6%）、「全く知らない」と回答した教員は 2 名（約 0.3%）だった。

「よく知っている」と回答した教員と「少し知っている」と回答した教員を合わせると約 9 割の教員は SDGs についての知識が少なからずあるという自覚をもっているという結果が得られた。

しかし、次の「これまでに行った SDGs に関する授業や活動」の問いには、210 名しか回答していない。先の設問では約 9 割の教員が「SDGs に関する知識はある」と回答していたにも関わらず、SDGs に関する授業や活動については半分以下の教員しか指導経験がないということになる。授業や活動を行ったことがある教員の回答を見ていくと、「環境」の語句が含まれた回答が 61 件と最も多く、次に多いのは「食」の語句が含まれた回答で 31 件である。やはり「環境」というキーワードは変わらず多く見られるものの、この設問では新たに「食育」と SDGs を関連させて指導しているという回答が見られた。詳細を見ると、給食指導や「食品ロス（フードロス）」に関する授業、給食委員会による発表や集会を実施したことがあるという回答が見られた。しかし、「人権」という語句を含んだ回答は 2 件しかなく、前項の学校全体での行事や活動では人権について扱われることがあるものの、学級単位になると「人権」と SDGs を関連させた活動や授業がほとんど見られなくなった。また、ここでも「ゴミ（ごみ）」や「エネルギー」、「エコ」などといった「環境」に関するキーワードが合わせて 42 件見られ、回答数の約 3 分の 1 を占める結果となった。このことから SDGs を小学校の授業や活動で取り扱う上で、「環境」というものは扱いやすいもしくは前項で述べた「SDGs＝環境」という印象が教員あるいは学校全体に強く意識されているといえる。また、「福祉」の語句を含んだ回答は 6 件あった。

SDGs に関する授業を実施した教科を見ていくと、「総合的な学習の時間」が 82 件と最も多く、次に多いのは「社会」で 38 件、その次は「国語」で 19 件であった。ここから考えられることは、以上の 3 教科は学習内容と SDGs を関連付けながら授業を展開しやすいということである。次に多かったのは「家庭」の 16 件、「理科」の 13 件と続いた。この 2 教科に関して言えることは、家庭科は「食」について、理科は「環境」について、各学年で単元が設定されているということである。よって、自然と SDGs に関する授業を実施しているという教員の意識に繋がってくる。なぜなら今まで述べてきた通り、教員間に「SDGs＝環境」という印象が強く意識されていると考えられるからである。そのため、教科書等に「環境」について考える単元がほとんど表出することがない「図工」は 4 件、「外国語（英語）」は 2 件、「音楽」は 1 件と明らかに少ない。「図工」では授業内容としてペットボトルや牛乳パックなどを「リサイクル」して作品を作るという回答が見られた。ここでもやはり「環境」に着目されている。「体育」と「算数」に関しては 0 件である。「道徳」については教科書に「国際理解、国際親善」や「相互理解、寛容」、「自然愛護」など SDGs に関連づけることができる内容項目が明記されているにも関わらず、8 件しか回答がなかった。

自由記述の設問では、無記入や「ありません」などの回答が合わせて 507 件と約 95% を占めたが、回答の中で多かったものには、「教材や実践例が必要」が 10 件、「指導することが難しい」が 9 件見られた。やはり前項と同様に、SDGs に関する授業や活動に難色を示している教員が存在していることが分かった。

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【小学校】

3. 県内小学生に対して実施した SDGs についてのアンケート結果からの考察

最後に、県内 5397 名の児童の回答結果から分かることを述べていく。

「SDGs という言葉を知っているか」についての問いについて、「知っている」と答えた児童は 3673 名（約 68%）、「少し知っている」と答えた児童は 1127 名（約 20.8%）、「あまり知らない」と答えた児童は 325 名（約 6%）、「まったく知らない」と答えた児童は 272 名（約 5%）だった。「知っている」と「少し知っている」と回答した児童を合わせると、県内小学生の約 9 割の児童が「SDGs」という言葉について少なからず知っているという結果となった。「知っている」「少し知っている」と回答した 4800 名の児童を対象に「SDGs という言葉をどこで知ったか（複数選択可）」を問うと、最も多かったのは「テレビ」で 3725 件、次に多かったのは「学校」で 3112 件だった。情報番組のみならずバラエティ番組等でも取り上げられることも多いことから、テレビで知ったという児童が多くなったのではないかと考えられる。次いで多かったのは「インターネット」で 2810 件、その次は「本」の 1877 件となった。インターネットや本は、学校の「総合的な学習の時間」や「社会」の授業の中で調べ学習をする際に用いたのではないかという予想が立てられる。その後は「先生」1654 件、「家の人」1164 件、「図書館」858 件、「友だち」552 件、「お店」487 件と続いた。

「SDGs について取り組んでいること」についての設問には、様々な回答を得ることができた。最も多かったのは「ポイ捨てをしない」という回答で、626 名が記述していた。次に多かったのは「水」の語句に関する言葉が含まれる回答で、452 名が記述していた。具体的には「水を無駄にしない」、「節水している」、「水を大切に使う」という内容だった。その次に多かったのは「食」の語彙が含まれる回答で、446 名が記述していた。具体的には「好き嫌いせずに食べる」、「食べ残しを減らす」、「食べ切れる量にする」という内容だった。その次に多かったのは「海」の語彙が含まれる回答で、385 名が記述していた。海なし県に住む県内児童からこの回答が 4 番目に挙げられたことは意外だった。要因として考えられるのは、教科書に記載の多い海洋プラスチックの写真が児童に大きなインパクトを与えているのではないかということだ。ここまで考えられることは、児童も前項の教員同様「SDGs＝環境」という印象が強く意識されているということである。また、前項で教員が「これまでにを行った SDGs に関する授業や活動」の回答の中で用いていた言葉で最も多かったのが「環境」、次いで多かったのが「食」であった。この結果と今回の設問の児童の回答傾向は重複していることが分かる。予想外だったのは、「海」の次に多かった回答が「平等」を含む記述だったことだ。これは学校や教員による回答では少数だったからである。児童の意識は SDGs の 17 の目標の中の「5. ジェンダー平等を実現しよう」「10. 人や国の不平等をなくそう」にも向けられているということが分かる。

「未来の地球の住みやすさを 5 段階で表すと」の問いには、「5」が 1955 名（約 36.2%）、「4」が 1307 名（約 24.2%）、「3」が 1002 名（約 18.5%）、「2」が 817 名（約 15.1%）、「1」が 316 名（約 5.8%）だった。段階を示す数字が大きくなるほど回答数も多くなり、児童たちが未来の地球の住みやすさについて希望をもっていることが分かる。回答の理由について 17 の目標に分類してみると、最も多いのは「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」で 1027 件だった。内容については、「科学技術の発展」によって住みやすくなる未来を想像する回答が多かった。次に多いのは「7. エネルギー」で 1019 件、その次に多いのは「13. 気候変動」で 919 件だった。自分たちが取り組んでいる内容については「環境」や「食」、「平等」についての回答が多かったが、地球の住みやすさについては「科学の発展」が大きく起因していると考えている児童が多いという結果が得られた。

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【小学校】

4. 考察のまとめと今後の展望

ここまで学校全体、教員、児童に関する SDGs についてのアンケート結果から分かることを考察してきた。以下に今回の調査から得ることができた結果をまとめる。

①多忙な業務や、教育課程に明記されていない等の理由から SDGs に関する活動に対して難しさを感じていること。②SDGs に関する知識がある自覚はある教員は多いが、SDGs に関する授業や活動を実施している教員は少ないこと。③SDGs に関連づけた「環境」や「食」を扱う単元の授業や指導は実施しやすいこと。④小学校教員あるいは小学校全体、児童にまで「SDGs＝環境」という印象が強く意識されていること。⑤児童の意識は 17 の目標の中の「5. ジェンダー平等を実現しよう」「10. 人や国の不平等をなくそう」にも向けられていること。⑥「住みやすさ＝科学の発展」というイメージをもつ児童が多いこと。

教員が SDGs に対して先に述べたような「SDGs＝環境」という印象をもったまま SDGs に関する授業や活動を実施した場合、それがそのまま児童たちの SDGs に対する知識となって堆積していつてしまっているという現状が明らかになった。SDGs には 17 の目標があり、取り組むべき内容は多岐に渡る。児童たちが SDGs についての理解を深めるためには、小学校の教育現場においても現在の「環境」や「食」における SDGs に関する授業や活動だけでなく、17 の目標全体に視野を広げることで、あらゆる授業や活動を SDGs と関連づけていくことが、これからの時代では小学校教育に求められるだろう。しかし、これまで述べてきている通り、小学校教員の業務は多忙を極める。現代社会では働き方改革も重要視されており、それは教育現場においても推進されているところである。新たなものを多く取り入れて教員の準備や計画に大きな負担をかけてしまつては本末転倒である。そこで、教育課程や年間指導計画に SDGs に関する文言を組み込んだり、現在進行形で実施されている活動や行事に SDGs の 17 の目標を関連づけたりすることで、教員に大きな負担をかけることなく、小学校教育の中でも SDGs に関する授業や活動を実施していくことができるのではないかと考える。

教員から得られた回答から分かる通り、前例がないものや計画に組み込まれていないものについては実施に難しさを感じる教員が多い。よつて、小学校における SDGs に関する新たな授業や活動の前例を作っていくことが本部会の今後の目標となるだろう。具体的には、SDGs に関する授業や活動の取り組みのうち、本調査では回答がなかった 17 の目標の中から指導内容を選択し、授業や活動を実践して広めていくことが必要であるとする。もちろん児童たちの「主体性」を伸ばしていくためには、児童たちが自ら研究テーマを設定する授業展開も効果的であるので、その場合は教員側が 17 の目標のうち教科書などで触れられていない目標をテーマ設定することを促す役割を果たすことも考えられる。

また、SDGs に関する授業や活動を行ったことがある教員の中で、実施した教科に関する回答があつたが、17 の目標のうち扱いにくい内容に着目するだけでなく、SDGs を関連づけることに一見困難を感じる教科に着目した実践例を作ることも大切ではないかと考える。

また、前項で述べた通り「地球の住みやすさ」とは「科学の発展」であると考えている児童が多いことが分かつた。SDGs を自分事として捉えている児童は案外多いと思つたが、「ごみを分別する」や「男女関係なく仲良くする」、「好き嫌いせずに食べる」など思考は「身の回り」のことを考えた「日本基準」に留まつており、「世界の国々のために」「地球のために」などといった「世界基準」で捉えることができていないのかもしれない。最終的には児童たちが「SDGs の達成＝地球の住みやすさ」ということを理解するための指導が求められると考える。

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 研究編
中学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【中学校】

1 中学校の現状とSDGs

現中学生の親世代が子ども時代を送っていた1980年代、SDGsのルーツといえる「持続可能な開発（Sustainable Development）」が国際会議で打ち出された。東西冷戦の終結とともに、世界の長期的な安定と平和のためには、地球環境問題に共に取り組むことが不可欠であるとの共通認識が世界の指導者層に広まっていくこととなった。しかしながら、顕著な改善が見られない現代において、現中学生は、生まれた時から「地球温暖化」という言葉を自然と耳にして育っている。彼らの幼少期に定められたSDGsは、レジ袋の有料化やジェンダーフリーの制服の導入、学校給食で提供される牛乳のストローレスなどさまざまな形で子どもたちの身近な生活に溶け込んでいる。現行の学習指導要領には、「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」という形で明記され、子どもたちが使用している教科書にも、学習している単元についてSDGsの視点で書かれたコラムなどが多く載っている。9か年の義務教育の最後には、社会科では「私たちと国際社会の諸課題」について、「効率と公正」などこれまで学んできた見方・考え方を働かせ、生徒一人一人が持続可能な視点に基づきどのように解決すべきかをレポートにまとめたり、理科では科学技術を利用して生じた問題を、科学技術を用いてどのように解決すべきか、一人一人が調べまとめたりする指導計画が多く学校の設定されている。

また、生徒会活動や学校行事等において、ペットボトルキャップや衣類、文具類を集め、諸機関に寄付するという活動などが、生徒の自主的な意見に基づいて行われ、特別活動でも各校において生徒の自発的意思と実態に応じて展開されている。

このように、栃木県で育つ子ども一人ひとりに、予測困難な時代をたくましく生き抜く力を身につけさせ、よりよい社会、未来の形成に何らかの形で関われる人となるように、各校、各教員によって日々実践が続けられている。この報告書では、SDGsに関する学習や取り組みがどの程度浸透しているか、また、その取り組みを推進する上での課題が何かを明らかにするものである。

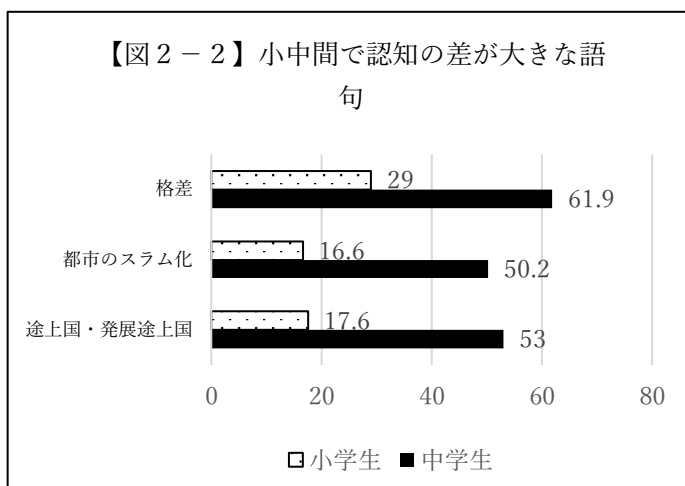
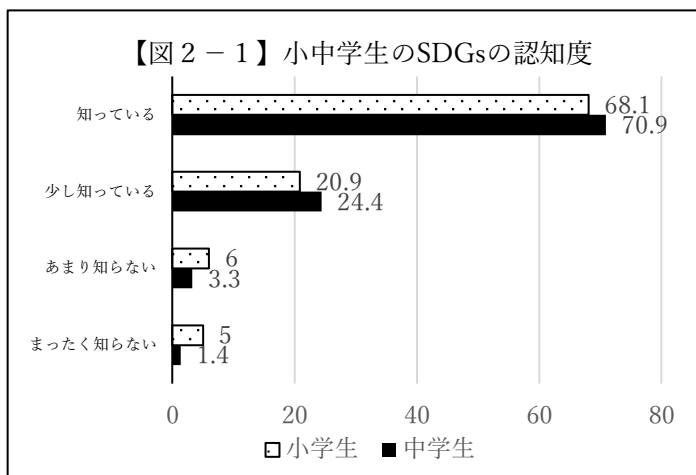
2 アンケートの結果から

(1) 生徒について

生徒の実態をより明らかにするために、設問によって小学生のデータと比較していく。

まず、生徒自身の認識度を把握するために、設問2「SDGsを知っていますか」を比較分析し、【図2-1】を示す。小学生6年生よりも6.3ポイント高い、95.3%の生徒が「SDGsについて知っている（少し知っている）」と肯定的に答えている。アンケートの対象学年が中学2年生であったことを考えると、1年次の社会科（地理的分野）において、持続可能な社会づくりについて考える学習をしていることから、本来100%になってもよいはずである。原因は、他人に教えることができるほどの理解ではないと感じた生徒が少数いたと推測される。

設問12は、SDGsに関するキーワードの認識度について尋ねたものである。同じ項目について、小学生の回答と数値に特に大きな差があったものを【図2-2】に示す。22語のうち、「格差」「都市のスラム化」「途上国・発展途上国」の認識度が、2～3倍に高まっていた。これは、中学1年次の地理で学習する内容である。このことから、授業で扱っ



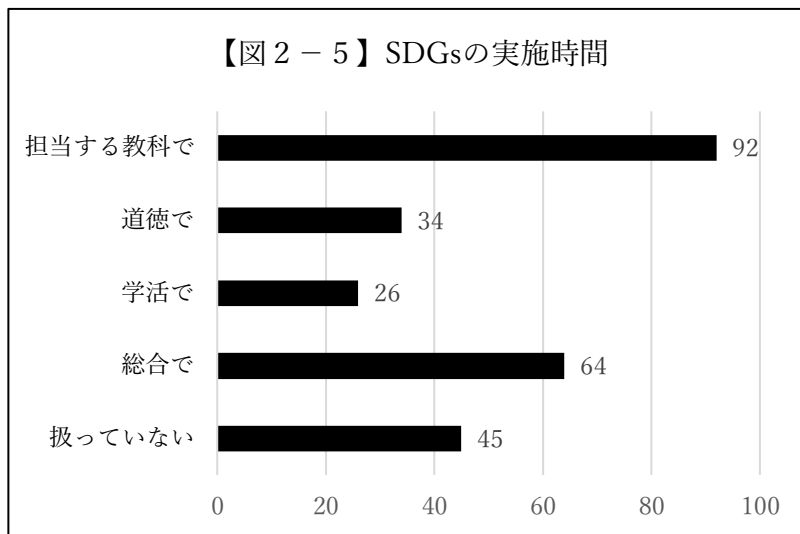
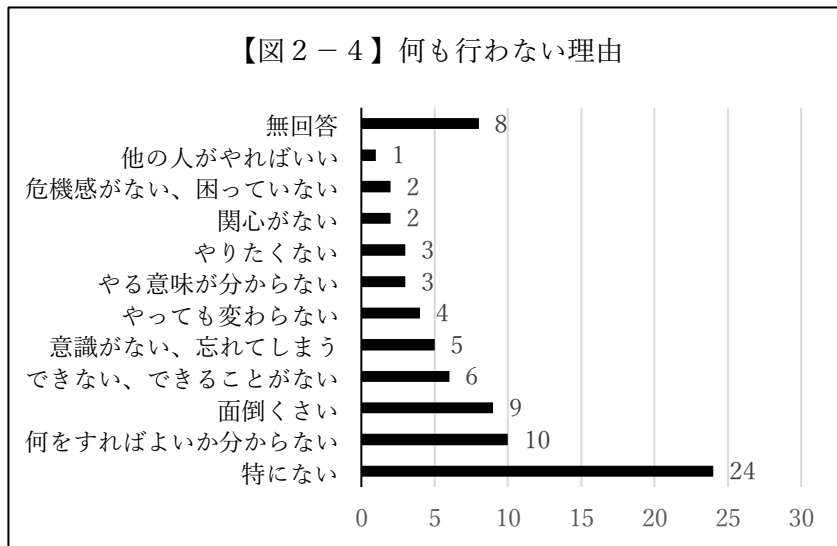
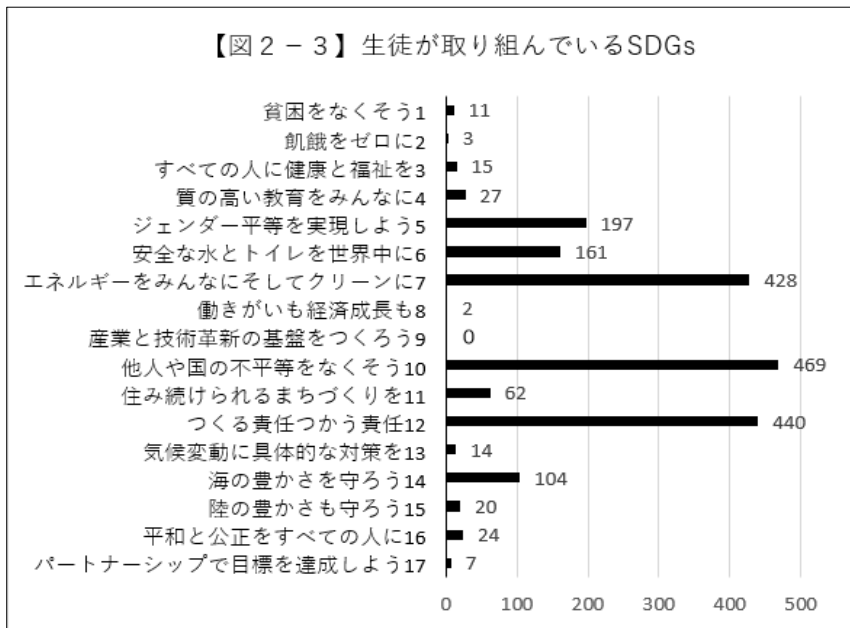
3 校種毎の調査結果に基づいた考察【中学校】

た内容は生徒の中にしっかりと残るということが改めて明らかとなった。

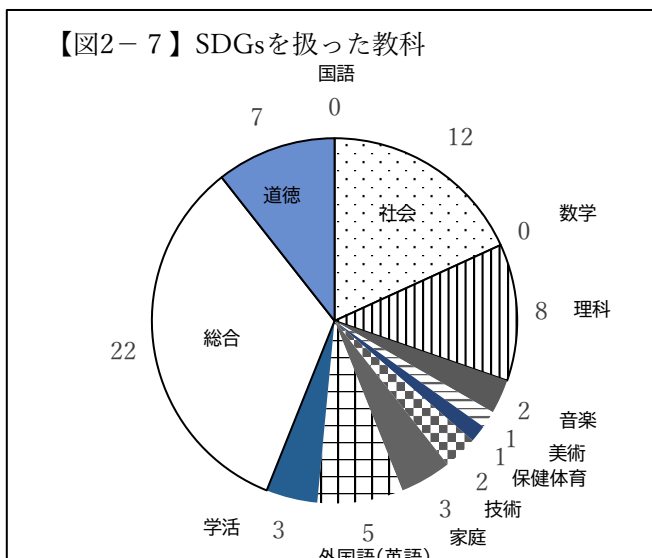
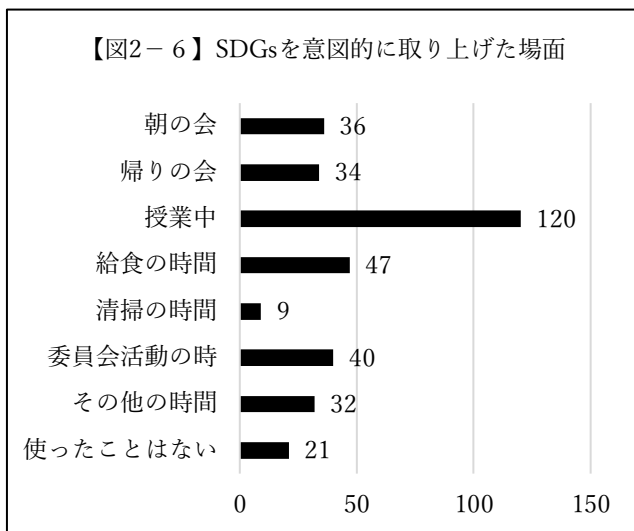
また、設問5「17の目標につながるどのようなことに取り組んでいるか」の自由記述について、作成した分類表が【図2-3】である。目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」については、取り組んでいると回答した生徒428人中、省エネ・節電と回答した生徒が262人、リサイクルと回答した生徒が140人だった。目標10「他人の国の不平等をなくそう」については、誰にでも差別しないで接する440人だった。目標12「つくる責任つかう責任」については、最後まで使うと306人が回答した。設問8「目標達成のためにあなたが日ごろ取り組んでいることは何か」では、73%の生徒が水筒を持ち歩いていると答えた。これらのことから、多くの生徒が日常生活の中で意識して無理なく取り組んでいることが伺えた。一方で、ごく少数であるが、「何も行っていない」と回答する生徒が92人いた。背景には、図2-4に示したとおり、「できない、できないことがない」や「何をすればよいか分からない」などのように、当事者意識の欠如や無関心などが挙げられる（【図2-4】）。しかし、本当に一切行っていないのか、目標と実践の関連性に気づいていないのかは分からない。

(2) 教員について

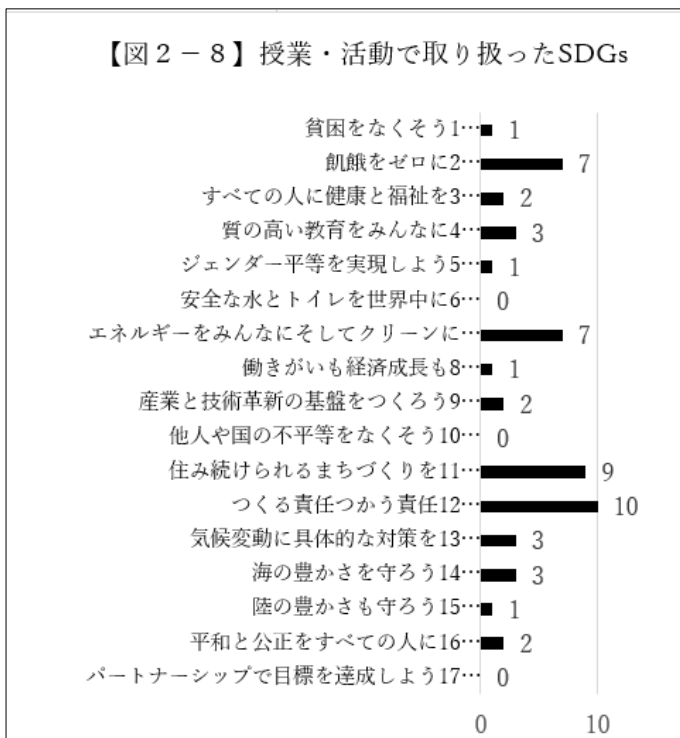
設問8「先生は授業で扱っていますか」の結果は、【図2-5】に示すとおりである。また、設問10「先生が学校で生徒たちに「SDGs」という語句を意図的に使ったのはいつですか」の結果を、【図2-6】に示す。設問11の「どのような教科で実践されているか」の自由記述回答を整理したものが【図2-7】である。



3 校種毎の調査結果に基づいた考察【中学校】



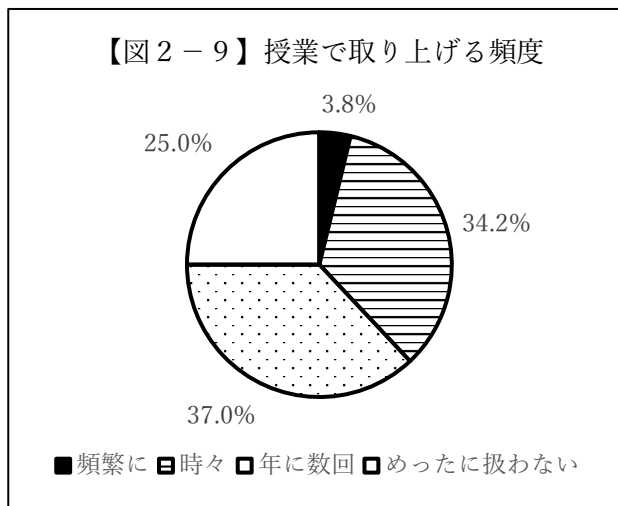
県内の全教員からの回答ではないことを考慮しつつも、図2-7からは、総合や社会、理科などが多いことから直接的に扱いやすい教科があることがわかる。さらに、設問12の自由記述を分類した【図2-8】からは、17の目標のどれに関する実践が多いかにも、特色が表れた。「授業で扱った事柄は生徒に知識として残る」と前述したところだが、興味深いのは、【図2-3】と【図2-8】を比較すると、教員が授業で実践した項目が、生徒の行動に直結するとは限らないということである。例えば、目標2「飢餓をゼロに」については、7名の教員が授業で扱ったと回答しており、3番目の多さだが、取り組んでいる生徒の人数は3人と下から3番目の低さである。反対に、目標10「他人や国の不平等をなくそう」は、授業で取り扱われていないが、469人の生徒が取り組んでいると回答している。設問9「先生がSDGsを授業で扱う頻度はどれくらいですか」でも、「時々」や「年に数回」という回答が過半数を占めていることが【図2-9】から分かる。知識として知っていても、それらを生徒の日常生活の事象とどのように関連付けるかが課題である。さらに、設問13「学校でSDGsを指導するためにはどんなことが必要か」の自由記述を整理すると、以下のように分類された。



- ・教員の深い理解 41 (29.1%)
 - ・自校以外の取り組みが知りたい 26 (18.4%)
 - ・リサイクルなど、小さなことを実践すること 21 (14.9%)
- 上記の3つが上位を占めた。しかしながら、設問15に寄せられた意見の6割が「教材研究を

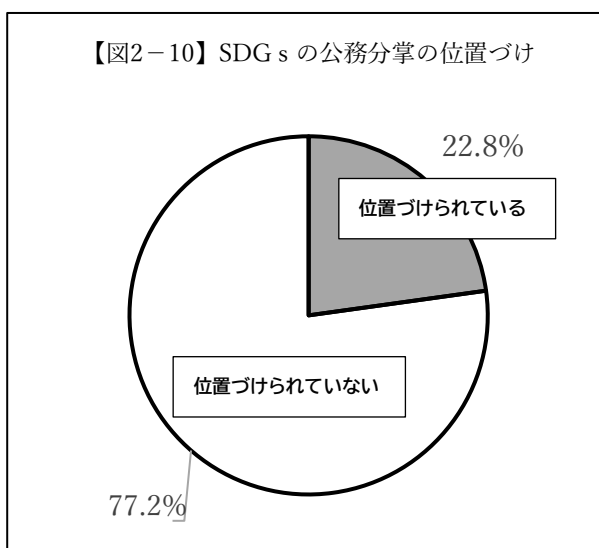
3 校種毎の調査結果に基づいた考察【中学校】

したいが、時間的にも精神的にも余裕がない」という多忙感と使命感の間に板挟みになっている教員の声であった。昨今、さまざまな面から働き方改革が叫ばれているが、ESD（持続可能な開発のための教育）推進の面でも、どのように教育活動の中に組み込むかを検討する必要があることが改めて明らかになった。



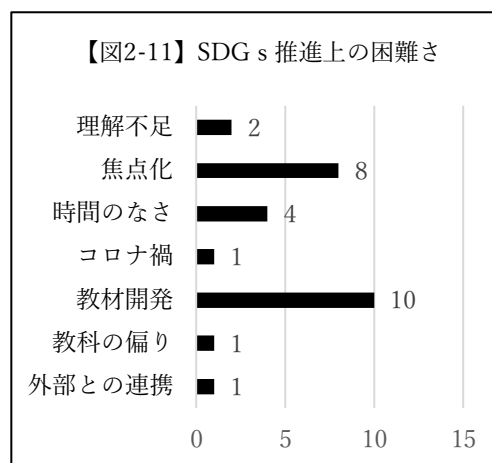
(3) 学校について

【図2-10】からも分かるように、約4校中1校の割合で、SDGsが校務分掌に位置づけられているとの回答があった。位置づけられている分掌名や扱う行事等を見ると、環境教育や人権教育、総合的な学習の時間の中という回答が多かった。中には、「SDGsプロジェクトチーム」や「SDGs推進担当」という学校もあった。また、設問6「SDGsと学校行事を関連させた取り組みを行っているか」については、半数の学校で関連させていると回答した。一方で、設問8「SDGsに関する内容を扱う場合、学校として困難な点は何か」の自由記述は【図2-11】のように整理される。ここで確認される「学校として困難な点」は、教員としての課題と同じであった。



3 アンケート調査から分かったこと

- 教科書に載っている語句や授業で取り扱った内容は、生徒に定着している。逆に、教員の認知度が低い用語は、連動して取り扱いが低い傾向にあった。学校教育で扱うことの大切さが伺えた。
- 取り組みやすい教科とそうでない教科、学校教育として扱いやすい目標とそうでない目標がある。
- 教員としても学校としてもSDGsが重要であることや、取り扱うことで十分な教育的効果があることを十分理解しているが、教材開発等に費やす時間を生み出すことが難しいと現場は感じている。



3 校種毎の調査結果に基づいた考察【中学校】

4 SDGs の視点からの学習活動を充実させるために

(1) 本研究が目指す生徒像

生徒、教員、学校のアンケートの分析から、私たちはSDGsに関する学習をさまざまな教育活動を通して積み重ねてきた生徒の姿として、「現在および将来の自分と他者のために、根拠をもってよりよい行動を主体的に続けていける生徒」としたい。これは、学校の設問9「SDGsに関する内容を扱って、学校としてよかった点」についての自由記述の中に、学習したことで生徒がグローバルな視野で物事を考えられるようになった、身近な取り組みを通して保護者や地域と連携し意欲的に活動できるようになった、など「持続可能な社会の創り手」に合致していると考えからである。

(2) 推進するための視点

- ・各教科の授業で意図的に取り上げること
- ・新たな活動を最初から作り上げるのではなく、各校ですでに取り組んでいる活動は17の目標のどれと関連付けられるか洗い出すこと
- ・学校全体で全職員が共通理解をもって取り組むこと
- ・先生方の多忙感を軽減するために、いくつかの事例を提示すること

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 研究編

高等学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【高等学校】

高等学校

1 高等学校における SDGs を取り入れた学習活動とは

本研究では、高等学校における SDGs を取り入れた学習活動とは何か、その意義と方法について考察する。SDGs とは、2030 年までに持続可能な社会を実現するために国連が採択した 17 の目標と 169 のターゲットである。社会の創り手となる高校生が、SDGs の視点を持って学ぶことが重要である。しかし、現状では、高校教育において SDGs の視点が多分に取り入れられていないという課題がある。本報告書では、栃木県内の高等学校に対して行ったアンケート結果を基に、その原因と解決策を探る。

高等学校における SDGs を取り入れた学習活動とは、単に目標やターゲットを知ることではない。それよりも重要なことは、持続可能な社会の創り手として自ら考えて行動できるようになることである。そのためには、「持続可能な開発のための教育 (ESD)」という考え方が参考になる。ESD とは「地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育」(文部科学省・日本ユネスコ国内委員会 2021) と定義されており、持続可能な社会の作り手としての資質・能力を育成するための教育である。

新学習指導要領では、幼稚園・小中学校と同様に、前文にて「これからの学校には、(中略) 一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と述べられている。総則では、「(前略) 豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。」と述べられている。このように学校教育において SDGs の視点を取り入れることは国を挙げて取り組まれている。しかし、新学習指導要領では、具体的にどのように SDGs の視点を取り入れるかは示されておらず、学校が自主的に工夫する必要がある。

日本は、世界でも有数の先進国でありながら、SDGs 達成度ランキング(「Sustainable Development Report2023」, 持続可能な開発ソリューションネットワーク 2023)では 23 位という低い順位にある。特に、「ジェンダー平等」「産業と技術革新の基盤」「気候変動への対策」などの目標で遅れを取っている。また、日本の高校生は、他国の高校生に比べて、自分の意見を述べたり、議論したりする機会が少なく、主体性や批判的思考力が不足しているという指摘がある。これらのことから、日本の高校教育においては、SDGs の視点を取り入れることが急務であると言える。

SDGs の視点を取り入れた学習活動は、教科横断的に行う必要がある。しかし、現在の高校教育では、教科ごとに分かれた指導が主流であり、週 1 単位の総合的な探究の時間だけでは十分に活動時間を確保できないことが多い。

多くの高校の一つの目標である大学入試でも、改革により、学力の三要素を多面的・総合的に評価する「総合型選抜」が重視されるようになってきている。SDGs の視点を取り入れた学習活動は高校生の確かな学力の三要素を涵養する上でも効果的である。そういった学習活動を展開するためには、高校生に自ら課題を見つけさせたり、解決策を考えさせたりすることが必要となる。しかし、校務の多忙を極めることが指摘される中で、これまでの高校教育と大きく異なる、高校生の主体性や創造性を育む指導に対する負担感が強いことも課題である。

谷田川ら(2022)の調査によると高等学校における ESD の実施状況は、積極的に取り組んでいる学校は 5.5%にとどまっており、一方で「まったく取り組んでいない」学校は 23.8%と全体の 4 分の 1 近くとなっていることから、日本の学校教育における ESD の浸透状況はまだ十分とはいえない状況である。谷田川らはその要因として、高等学校においては、進学校の場合、ESD を取り入れることよりも、受験対策のための教科教育が優先されがちであることを指摘している。

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【高等学校】

地球規模の気候変動や、貧困や格差拡大といった社会問題など、持続可能性を脅かす課題は山積している。高校教育にも多くの課題が残されているが、これからの社会を支える子どもたちに対して、持続可能な社会の創り手としての教育を行うことは、必要不可欠である。その際、SDGs を取り入れた学習活動の普及が重要になると考えられる。

本部会では、SDGs を取り入れた学習活動を通して、①地球的課題に対して関心を高め知識を身につけ、②持続可能な社会の創り手として主体的に行動する力を養うことを目指していきたい。その際、学習活動としては、学校や教員の現状を踏まえ、ニーズに合わせた学習活動を提案していきたい。

2 アンケート結果から見えてくる高等学校の課題

今回のアンケート調査によって、高等学校のSDGsを取り入れた学習活動の実態を把握した。

全体的にはSDGsを取り入れた学習活動の実施に係る厳しい実態が明らかとなった。各高等学校の代表者に対して行ったアンケートでは、回答のあった29校のうち13校でSDGsに関する指導について「位置づけはない」という回答であった。位置づけのある16校のうち12校で、SDGsを取り入れた学習活動は、総合的な探究の時間に位置づけられていた。SDGsに関する内容を扱う場合に困難な点としては「進度等の都合で扱う余裕がない」が最も多く、次に「どう扱えばいいかわからない」が挙げられた。SDGsに関連する教育活動もほとんどが総合的な探究の時間に限定されており、生徒が日常的にSDGsに関わる機会は限られていることが明らかとなった。学校としてSDGsに関わる指導や校務分掌上での教員の位置づけもほとんどされていない。また、学校内でSDGsに関連する役割にあたっている教員は全体の20%に留まっている。

教員に対して行ったアンケートでは、105件の回答が得られた。そのうち「SDGsを取り入れた授業や活動を行ったことがある」と答えた回答は41件で、全体の約39%であった。内容としては、総合的な探究の時間での活動が多く、それ以外の授業では調べ学習や発表を取り組む例も見られた。その他、地歴公民の授業で内容に触れたというものもあった。SDGsを授業と関連付けて扱う頻度としては「あまりない」が最も多く51%を占め、次に「年に数回程度」が34%、「月に一度程度」が13%、「週に一度程度」という回答は105件中1件であった。SDGsを授業以外で扱う頻度は、授業より「あまりない」という回答が59%に増加した。

このような結果から高等学校の課題として、SDGsを取り入れた学習活動は実践の機会が非常に少なく、実践している場合でも総合的な探究の時間に限られることが学習活動の普及の障壁となることがわかった。その一方で、SDGsに関する内容を扱って良かった点として、SDGsに対する意識が高まったという回答が多く、SDGsを扱うことが少なからず生徒の意識に変化をもたらすことも明らかとなった。

3 教育課題とSDGsの関連

これらの課題の生徒への影響を考えたい。アンケートの結果では、SDGsの目標について全項目において「知っている」と回答した生徒が多い。また、教員と生徒のアンケートを比較すると、「働きがいも経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」の認知度は生徒教員ともに全体と比較し、認知度は低い。また、さまざまなメディアで取り上げられる機会の多い、「気候変動に具体的な対策を」という項目について、生徒教員ともに「知っている」という回答は50%程度に留まった。SDGsに関連した用語の認知度を見ると、「地球温暖化」や「3R」、「バリアフリー」、「フードロス」など、ニュース等でも取り上げられる機会が多い用語について理解度が高い。その一方で、「カーボンニュートラル」や「フードマイレージ」、「識字率」など専門的な用語についての理解度は低い傾向がみられた。

「日本のSDGsの取り組みは世界の中で進んでいると思うか」という問いに対しては、教員の方が生徒より「遅れている」と考える割合が高かった。また、「SDGsに取り組むことで、地球の未来

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【高等学校】

がよくなる」と考える割合は教員、生徒ともに大きな違いは見られなかったが、生徒の方が「とてもよくなる」と考えるものの割合が高くなった。

SDGs の各目標について、理解度の自己評価（4段階）を点数化したものを、「今の地球の住みやすさ」、「未来の地球の住みやすさ」の5段階の評価や「日本の SDGs の取組みは、世界の中で進んでいると思うか」、「SDGs に取り組むことで、地球の未来はどう変わらと思うか」に対する回答、「SDGs の目標の中で、将来特に関わっていきたいと思う目標」を3つまで選択したもののとの相関関係を調べた。理解度と今の地球の住みやすさの評価では、理解度の高低によって、現状評価はほとんど変わらないことが読み取れる（表1・図1）。理解度と未来の地球の住みやすさの評価では、理解度が高い自己評価になるほど、未来に悲観的な見方が増えることがわかった（表2・図2）。理解度と日本の SDGs の取組みの評価では、理解度が高い自己評価になるほど、日本の取組みへの評価が低くなる傾向が見える（表3・図3）。理解度と SDGs に取り組むことでの地球の未来への期待度では、理解度が高い自己評価になるほど、未来への悲観的な見方とは逆に、ポジティブな評価に変わる（表4・図4）。よって、SDGs に対する理解を深められるような教育によって、未来への希望が持てるようになるのではないかと考えられる。理解度と将来の進路との関連では、理解度の自己評価が高い分野の希望割合も高くなっており、理解度が上がるごとに、希望する分野を多く答えている（表5）。

表1 理解度と今の地球の住みやすさの評価

	住みやすい ←————→ 住みにくい					Average	%
	5	4	3	2	1		
≦1	1.1	1.1	2.7	0.7	0.3	3.35	5.8
1<,≦2	1.1	2.8	3.2	0.5	0.1	3.57	7.6
2<,≦3	5.1	10.2	15.7	2.6	0.6	3.48	34.1
3<,≦4	3.4	8.2	9.6	2.7	0.2	3.49	24.2
4<	5.7	7.6	11.3	2.4	1.3	3.49	28.3

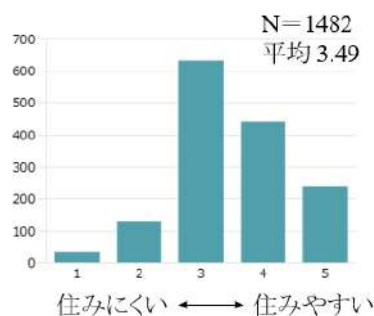


図1 理解度と今の地球の住みやすさの評価

表2 理解度と未来の地球の住みやすさの評価

	住みやすい ←————→ 住みにくい					Average	%
	5	4	3	2	1		
≦1	0.9	1.3	1.6	1.3	0.7	3.07	5.8
1<,≦2	1.4	2.2	2.1	0.9	0.9	3.29	7.6
2<,≦3	4.1	7.4	11.2	8.7	2.7	3.05	34.1
3<,≦4	2.3	5.6	6.5	7.3	2.5	2.91	24.2
4<	3.8	5.2	7.8	7.5	4.0	2.90	28.3

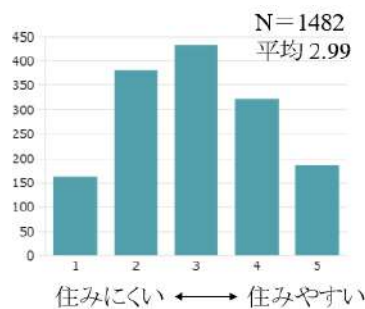


図2 理解度と未来の地球の住みやすさの評価

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【高等学校】

表3 理解度と日本のSDGsの取り組みの評価

	5	3	1	Average	X	%
≦1	1.0	2.6	1.1	2.94	1.0	4.8
1<,≦2	1.5	3.5	1.3	3.06	1.3	6.3
2<,≦3	5.5	14.2	8.1	2.81	6.3	27.8
3<,≦4	3.9	10.9	6.6	2.75	2.8	21.4
4<	4.9	12.7	8.4	2.73	2.4	25.9

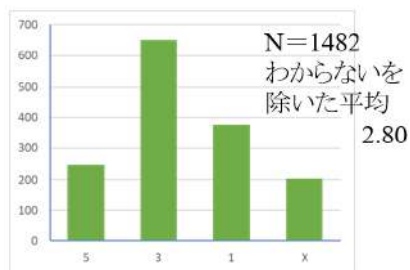


図3 理解度と日本のSDGsの取り組みの評価

表4 理解度とSDGsに取り組むことでの地球の未来への期待度

	5	4	3	2	1	Average	X	%
≦1	1.8	2.6	1.3	0.1	0.1	4.02	1.0	5.8
1<,≦2	2.5	4.5	0.6	0.1	0.0	4.23	1.3	7.6
2<,≦3	12.3	19.0	2.5	0.3	0.0	4.27	6.3	34.1
3<,≦4	10.1	12.2	1.5	0.3	0.0	4.33	2.8	24.2
4<	13.4	12.4	2.0	0.5	0.1	4.36	2.4	28.3

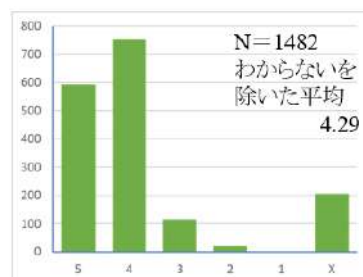


図4 理解度とSDGsに取り組むことでの地球の未来への期待度

表5 理解度と将来特に関わっていきたいと思う目標

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
%	貧困	飢餓	健康福祉	教育	ジェンダー	水とトイレ	エネルギー	経済成長	産業技術	人や国の不平等	まちづくり	作る使う責任	気候変動	海の豊かさ	陸の豊かさ	平和公正	パートナーシップ	一人あたりの回答数
≦1	25.6	26.7	19.8	15.1	25.6	18.6	2.3	10.5	4.7	14.0	19.8	5.8	9.3	14.0	9.3	20.9	5.8	2.48
1<,≦2	25.7	23.0	27.4	10.6	15.9	15.0	7.1	16.8	3.5	18.6	24.8	8.0	8.8	16.8	8.8	21.2	6.2	2.58
2<,≦3	23.7	20.9	23.7	14.0	28.9	14.2	7.3	16.0	3.8	21.7	19.8	11.1	7.5	15.4	8.9	23.7	3.8	2.64
3<,≦4	22.1	20.4	22.9	19.0	33.2	11.2	7.3	14.2	5.3	22.1	18.2	11.5	11.2	16.5	8.7	20.7	4.7	2.69
4<	25.3	23.9	27.0	14.3	30.1	12.2	9.1	14.3	5.0	19.6	17.4	10.3	11.0	16.2	9.8	21.7	6.2	2.73
全平均	24.0	22.1	24.5	15.1	29.1	13.2	7.5	14.8	4.5	20.5	19.1	10.4	9.6	15.9	9.1	22.1	5.0	2.67
自己評価	3.6	3.6	3.2	3.5	3.7	3.4	3.1	2.8	2.7	3.5	3.1	3.1	3.2	3.5	3.3	3.3	2.9	

4 これからの高等学校におけるSDGsを取り入れた学習活動

栃木県における高等学校でのSDGsを取り入れた学習活動に関しては、学校での積極的な取り組みは普及しておらず、そのため生徒の持続可能な社会の作り手としての資質・能力が十分に育成されていない厳しい現状が明らかとなった。まずは、総合的な探究の時間でのSDGsと関連した学習活動を広めることが必要となる。その際、学校として総合的な探究の時間や教科横断的な学習の充実を図るための担当を割り当てることや、校内研修を通して教員のSDGsに対する理解度を高めること、指導法の確実な定着を図ることが重要である。また、生徒がSDGsをより自分事として捉え

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【高等学校】

させるため、組織として SDGs を取り入れた学習活動を取り入れる方法として、キャリア教育と関連付けることも有用であると考え。その際、すでに全国の複数の学校において試行的な取り組みがなされている。本部会でも、そのような取り組みを実践し、その効果を検証することで県内の学習活動の充実に寄与していきたい。

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 研究編

特別支援学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【特別支援学校】

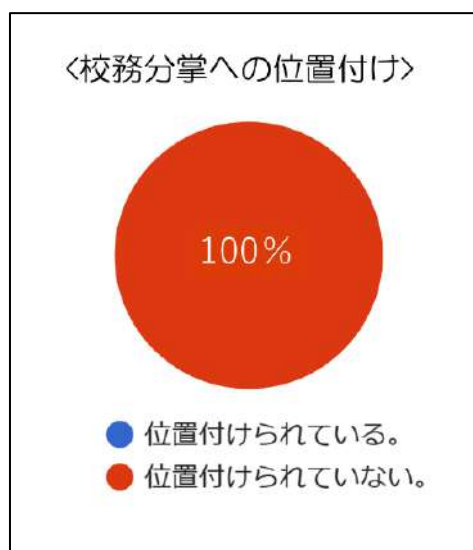
1 学校現場での SDGs の取り組みの現状（学校・教員のアンケート結果から）

＜学校＞設問 4「あなたの学校では、SDGs に関する指導について、校務分掌に位置付けられていますか。」の結果を【図 4-1-1】に示す。アンケートに回答した全ての特別支援学校において、SDGs に関する指導は校務分掌に位置付けられていないということが分かった。

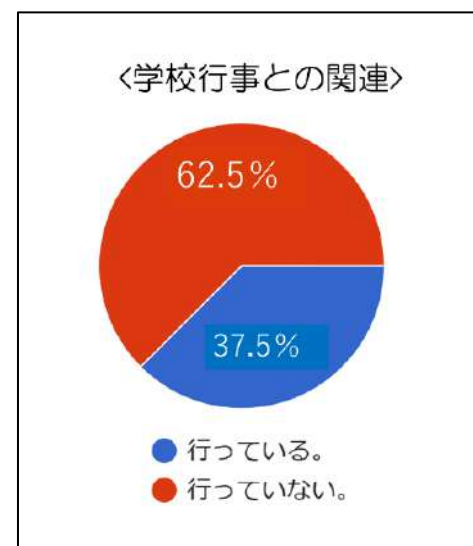
＜学校＞設問 6「SDGs と学校行事を関連させた取り組みを行っていますか。」の結果を【図 4-1-2】に示す。SDGs と学校行事を関連させた取組については 40%弱が実施していると回答した。取り組んでいる行事としては、「給食感謝の会」、「奉仕活動」、「修学旅行」が挙げられた。これらの行事は、アンケートで実施していないと回答した学校以外でも、すでに多くの学校で行われている行事である。したがって、「学校行事と関連させていない」と回答している学校でも、障害種や学部に関わらず、多くの特別支援学校ですで行っている行事と SDGs を関連させて行うことができるということが言える。

＜教員＞設問 4「SDGs を授業で扱っていますか。」の結果を【図 4-1-3】に示す。「扱っていない」と回答した学校の割合が半数以上となった。SDGs について授業で扱ったことがあると回答した教員のうち、＜教員＞設問 5「どの教科、授業で扱っていますか。」の回答結果として、「作業学習」、「生活単元学習」、「総合的な学習（探究）の時間」などが挙げられた。障害種による教育内容の違いはあるが、前述した学校行事と関連させた取組の現状と同様に、教科や領域は、障害種や学部に関わらず、多くの特別支援学校において、すでに取り扱っているものである。よって、「SDGs を授業で扱っていない」と回答した学校や教員も、実際には既存の行事や授業の中でも SDGs に関連した授業を展開できると言える。

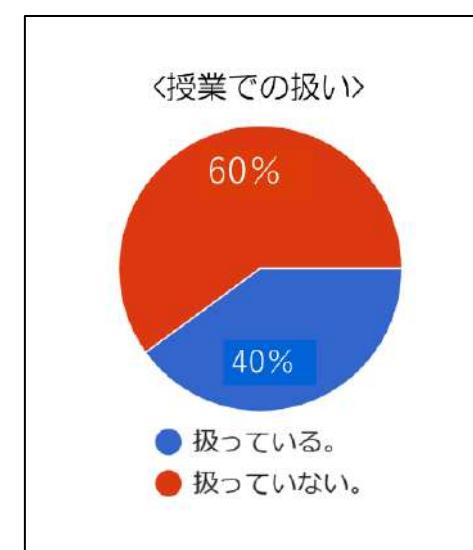
＜教員＞設問 3「SDGs についてどれくらいご存知ですか。」の結果を【図 4-1-4】に示す。この回答からは教員は、自身の SDGs に関する知識や理解の程度が低いことや、SDGs についてある程度理解していても、授業で扱う程の自信はないと感じていることが分かる結果となった。SDGs についての学習を取り扱うことの必要性を感じる一方、取組の困難さや指導の際の不安を感じていることが分かる。学校で取り扱うにあたっての課題点として「児童生徒の実態に即した指導の難しさ」や「教員の SDGs に関する意識を高めることや正しい知識をもつこと」、「教材の充実」などが挙げられた。



【図 4-1-1】



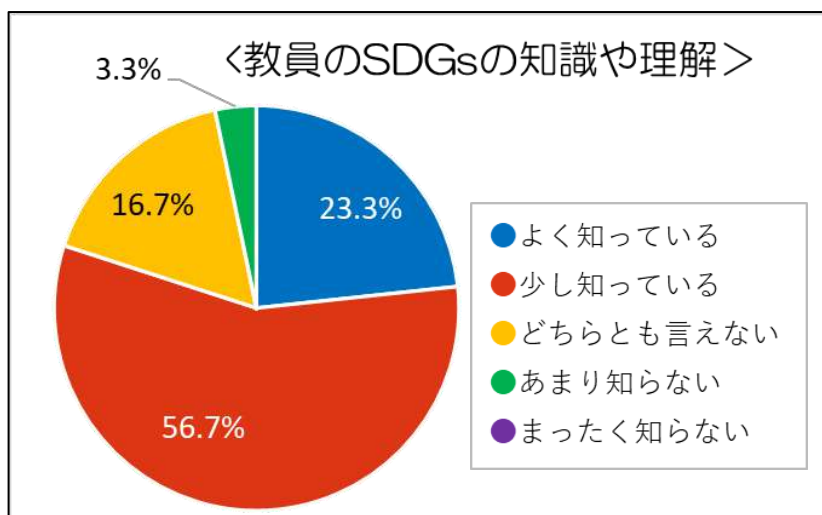
【図 4-1-2】



【図 4-1-3】

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【特別支援学校】

以上のことから、教員がSDGsについて正しい知識と高い意識をもつことやSDGsと関連付けた授業の実践例や教材を充実させることで、すでにそれぞれの特別支援学校で行っている学校行事や授業の中でもSDGsに関する学習を扱うことができると言えるのではないだろうか。

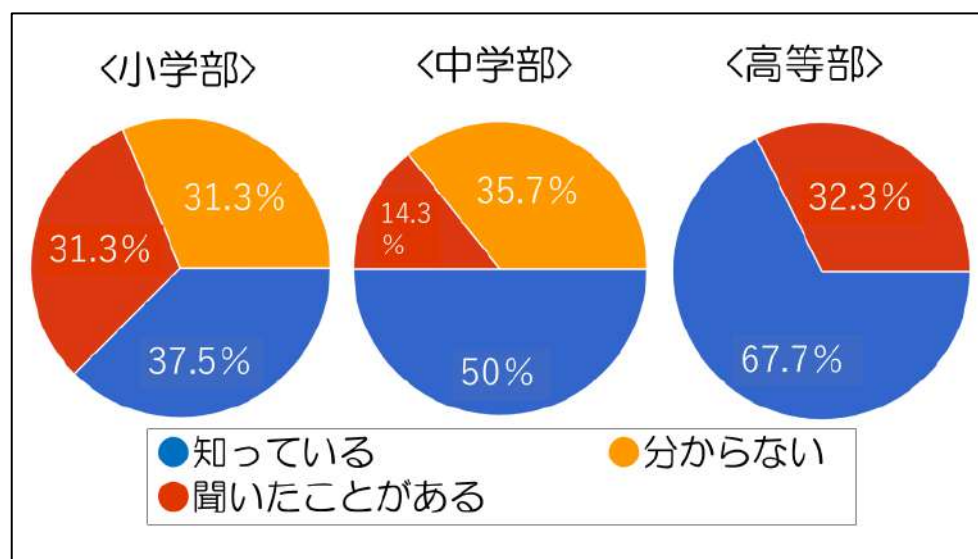


【図 4-1-4】

2 児童・生徒のSDGsの意識（児童・生徒のアンケート結果から）

特別支援学校には、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校（以下、「特別支援学校（視聴肢病）」とする）と知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校（以下、「特別支援学校（知的）」とする）がある。また、小学部から高等部まで設置されている学校が多いため、それぞれの障害種や学部ごとの比較という視点でアンケートを考察してみる。

SDGsという言葉については、いずれの障害種の小学部、中学部、高等部ともに6割以上が「知っている」または「聞いたことがある」と回答した。その結果を【図 4-2-1】に示す。教員がSDGsを授業内で取り扱っているという意識が低いにも関わらず、児童生徒はSDGsという言葉



【図 4-2-1】

という言葉を知っている割合が高くなっている。また、アンケートに回答した児童生徒全員が何らかのSDGsに関する活動に通じ組んだことと答えている。

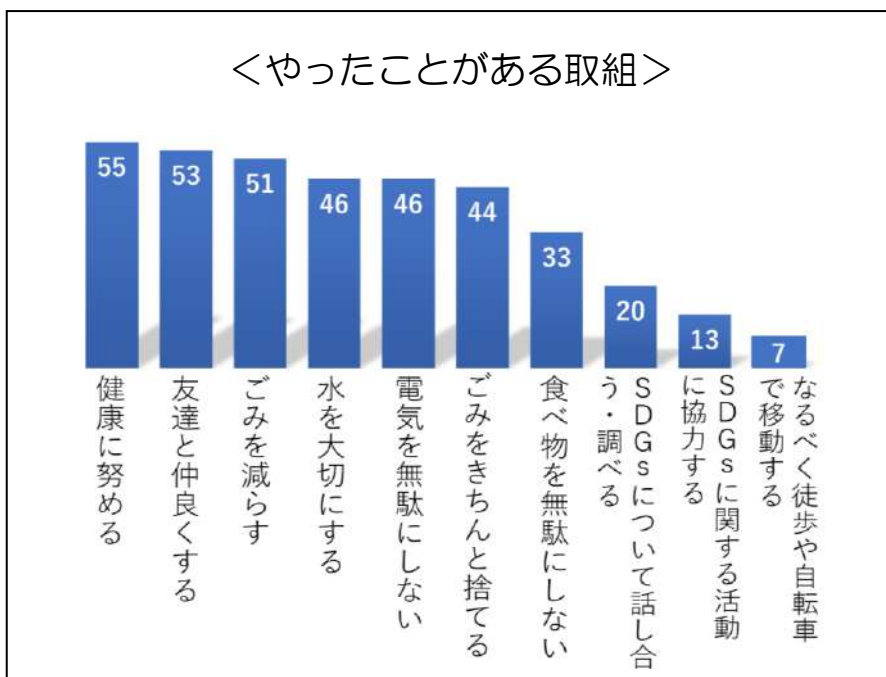
＜児童・生徒＞設問3「SDGsの取り組みで、あなたがやったことがあるものはどれですか。」の結果を【図 4-2-2】に示す。取組の内容としては、「健康に努める」、「友達と仲良くする」、「ごみを減らす」などの生活に身近な活動や、毎日繰り返し行っている活動の割合が高い結果となった。児童生徒がSDGsの17の目標やその内容について理解できているか確認したいところだが、残念ながら今回のアンケート結果からは

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【特別支援学校】

明らかにはできなかった。しかし、児童生徒の実態に合わせて、児童生徒自身が「生活の中で行っていることが、地球のためになっている。」という考え方ができるようになることが今後の指導の目標となってくるだろう。

特別支援学校（視聴肢病）と特別支援学校（知的）での回答に違いが見られた項目がある。

<児童・生徒(中高のみ)>質問 7「次の言葉で、聞いたことのあるものはありますか。」(あてはまるものをすべて選択)の結果を



【図 4-2-2】

【図 4-2-3】に示す。この結果から、それぞれの障害種の児童生徒の生活に関係する身近な人やメディアから見聞きしたと思われる言葉が挙げられている。「地球温暖化」や「リサイクル」、「バリアフリー」など学校教育の場面でも使用頻度のありそうな言葉もあるが、例えば、「サステナブル」は一見すると難しい言葉だが、教育テレビで扱われていることから、児童生徒は身近な言葉として捉えている。前述のとおり、SDGs

	視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者、病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校	知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校
1	地球温暖化	地球温暖化 サステナブル
2	平和	リサイクル
3	バリアフリー	フードロス

【図 4-2-3】

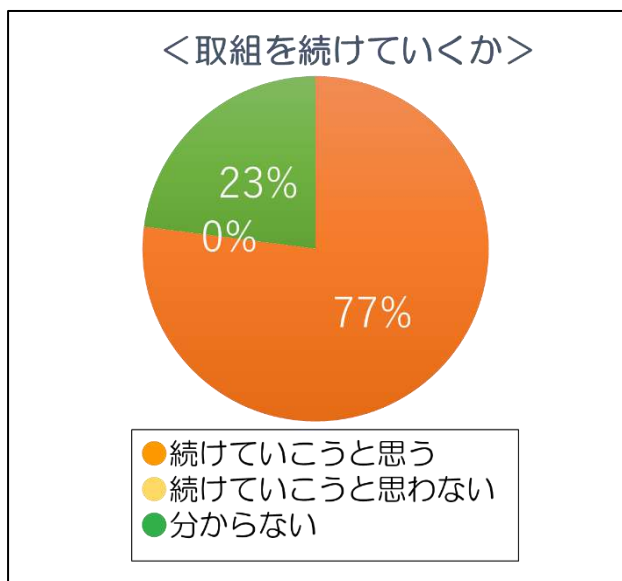
に関する言葉の認知は学校以外の場所での影響も大きく関係していると思われる。

<児童・生徒>(小)設問 5, (中高)設問 7「SDGs の取り組みをこれからも続けていこうと思いますか。」の結果を【図 4-2-4】に、**<児童・生徒>(中高のみ)設問 11「SDGs に取り組むことで、未来はよくなると思いますか。」**の結果を【図 4-2-5】にそれぞれ示す。これらの回答結果には障害種の違いによる差異は見られなかった。これらの結果から SDGs について考えていくことや、今後も取組を継続していくことへの必要性を感じていることが読み取れる。また、将来に何か良い影響があるという考えに結び付くと思われる前向きな回答が多かった。

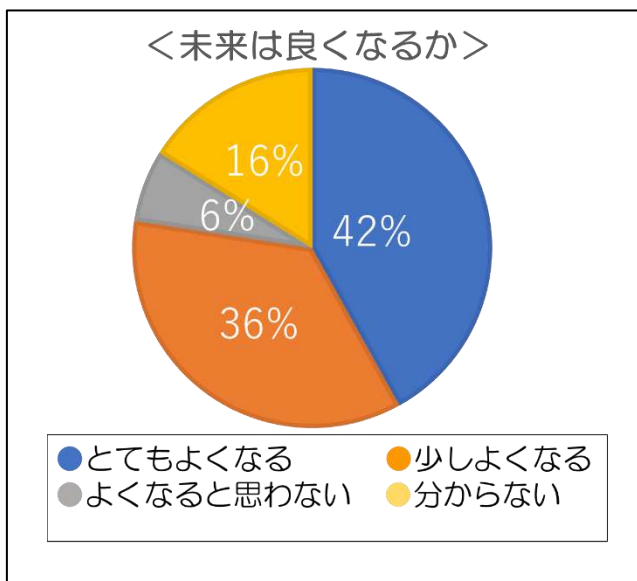
ここまでのアンケート結果の分析から、児童生徒の「SDGs」という言葉の意味の理解は定かではないが、児童生徒自身が生活の中で行っている活動の大切さや重要性を感じていることが分かる。

3 校種毎の調査結果に基づいた考察【特別支援学校】

課題点としては、生活の中では経験することが少ない活動に関して、興味や関心が薄いため、活動に結び付きにくいということが挙げられる。



【図 4-2-4】



【図 4-2-5】

3 今後学校現場が目指すこと

まずは教員が SDGs に目を向けて、SDGs に関する正しい知識と高い意識をもつことで、学校行事や授業の中で意図的に学習内容と SDGs を関連付けることができると考えられる。つまり、新しいことを取り入れるのではなく、既存の教育活動を SDGs と関連付けて行い、生活に結び付いた実践的な活動を継続して行うことが大切である。これらの実践により、児童生徒自身に児童生徒の実態に合った SDGs に関する活動が身に付くことを目指していく。

最終的な目標としては、SDGs の概念からの学習をきっかけとするのではなく、生活に即した経験を基に、児童生徒自身が SDGs の意味を理解し、自ら意識して行動ができる力を育成していきたい。これは、新学習指導要領で示されている「自主的・主体的」や「生きる力」の育成にもつながっていく。つまり、児童生徒自身が SDGs を自分事として捉え、「これからの地球をよくするためには、今自分がやっている活動、やろうとしている活動が大切である」ことに気付き、「これからも続けていこう」、「自分にできることをやろう」という気持ちをもつことが大切だと考える。

しかし、SDGs の意味の理解や自ら行動しようとする力は、特別支援学校の児童生徒にとっては発展的、応用的な力になるため、児童生徒の実態や発達段階などを考慮しながら段階的に取り組んでいくことが必須である。

4 資料【「SDG sの視点からの学習活動研究部会」設置と活動の経過】

「SDG sの視点からの学習活動研究部会」設置と活動の経過

(1) 令和4年度以前

栃木県連合教育会が行う様々な事業計画の中に「調査研究及び研究物等の出版に関する事業」がある。

その一つとして令和3年度まで「主権者教育研究部会」という部会があった。この部会が終了するにあたり、新たな研究として、設定されたのが「SDG s」に関わる学習活動の研究であった。このテーマの設定にあたっては、各学校に対して実施したアンケートの結果として「SDG s」の希望が多かったことによる。

令和3年度末に「SDG sの視点からの学習活動研究部会」を開始することが決まり、部会長には宇都宮大学共同教育学部の出口明子准教授（現 教授）が就任することとなった。栃木県教育委員会、栃木県総合教育センター、宇都宮市教育委員会から指導助言者を推薦していただき、部会に派遣していただくこととなった。委員の選定は小学校教育研究会、中学校教育研究会、高等学校教育研究会に推薦を依頼し、小学校4名、中学校3名、高等学校2名、特別支援学校2名で活動していくこととなった。事務局は栃木県連合教育会の研究担当理事が行うこととした、

(2) 「SDG sの視点からの学習活動研究部会」の活動

令和4年度

第1回研究部会

期 日 5月27日（金）13時～15時20分

場 所 栃木県教育会館 小ホール

出席者 栃木県連合教育会会長、研究部会部会長、指導助言者、委員

- 内 容
- 1 主催者（栃木県連合教育会）あいさつ
 - 2 部会長あいさつ
 - 3 部会長による研究活動の方針、計画
 - ・SDG sと学校教育、SDG sを研究テーマにするにあたって、研究のゴール
 - 4 校種別研究協議
 - ・学校におけるSDG sの認知度と取り組みの状況、今後の研究へのアイデア
 - 5 協議内容の発表とまとめ
 - ・アンケートについての検討

第2回研究部会

期 日 6月23日（木）13時～16時30分

場 所 栃木県教育会館 大会議室

出席者 研究部会部会長、指導助言者、委員

- 内 容
- 1 部会長による研究活動の方針、計画、本日の校種別協議の説明
 - 2 校種別研究協議
 - ・学校におけるSDG sに関する現状と取組状況、今後の研究の方向性
 - 3 協議内容の発表とまとめ
 - ・アンケート実施についての具体的な検討に入る

第3回研究部会

期 日 8月4日（木）9時～15時

場 所 栃木県教育会館 大ホール、中会議室

出席者 委員

- 内 容
- 1 「SDG s『気候変動』に関する研修会」を受講（午前）
 - 2 校種別研究協議（午後）
 - ・アンケートの質問項目の作成
 - ・他の校種の質問項目を参考にさらに検討・整理する

第4回研究部会

期 日 10月21日（金）13時30分～16時

4 資料【「SDGsの視点からの学習活動研究部会」設置と活動の経過】

- 場 所 栃木県教育会館 大会議室
出席者 研究部会部会長、指導助言者、委員
内 容 1 アンケートの対象、質問項目の目的・方向性の検討
2 具体的な質問案の検討
3 校種毎の協議内容の発表と共通理解

第5回研究部会

- 期 日 1月 6日(金) 9時30分～12時
場 所 Zoomを利用したWeb会議のため各自が出席できる場所
出席者 研究部会部会長、指導助言者、委員
内 容 1 アンケートの実施に伴う準備・手順・時期等の検討と決定
2 アンケート質問の再確認
3 令和5年度の研究部会の活動予定について

令和5年度

「SDGsに関するアンケート」実施

- 期 間 6月13日(火)～7月7日(金)
方 法 Google フォーム、MicrosoftForms
対 象 学校代表、教員、児童及び生徒

第1回研究部会

- 期 日 7月27日(木) 13時30分～15時30分
場 所 栃木県教育会館 大会議室
出席者 研究部会部会長、指導助言者、委員
内 容 1 アンケート結果についての校種別協議
2 アンケート結果を踏まえた実践への計画づくり
3 栃木県教育研究発表大会の発表について
4 研究部会中間報告書について

第2回研究部会

- 期 日 8月24日(木) 13時～15時
場 所 Zoomを利用したWeb会議のため各自が出席できる場所
出席者 研究部会部会長、指導助言者、委員
内 容 1 アンケート結果についての協議(校種別・全体)
2 栃木県教育研究発表大会発表者の決定
3 研究部会中間報告書執筆者の決定

第3回研究部会

- 期 日 11月16日(木) 13時～15時
場 所 Zoomを利用したWeb会議のため各自が出席できる場所
出席者 研究部会部会長、指導助言者、委員
内 容 1 アンケート結果に基づく研究結果(校種別)の発表と協議
2 栃木県教育研究発表大会の発表内容の検討

第4回研究部会

- 期 日 12月26日(火) 9時～11時
場 所 Zoomを利用したWeb会議のため各自が出席できる場所
内 容 1 栃木県教育研究発表大会の発表内容の検討
2 研究部会中間報告書について

栃木県教育研究発表大会打合せ会

- 期 日 1月12日(金) 14時～16時
場 所 栃木県総合教育センター 大講義室

4 資料【「SDGsの視点からの学習活動研究部会」設置と活動の経過】

出席者 委員（4名）、事務局

内 容 1 栃木県教育研究発表大会実施についての打合せ
2 研究発表のリハーサルと最終確認

栃木県教育研究発表大会

期 日 1月26日（金）12時30分～14時30分

場 所 栃木県総合教育センター

出席者 部会長、委員（4名）、事務局

内 容 1 研究部会研究発表（部会長、校種別委員4名）

4 資料【研究スタッフ】

令和4(2022)年度「SDGsの視点からの学習活動研究部会」委員一覧

No.	役 職	所 属	氏 名
1	部 会 長	宇都宮大学共同教育学部	出口 明子
2	指導助言者	栃木県教育委員会事務局 義務教育課	荒木 諭
3	指導助言者	栃木県教育委員会事務局 高校教育課	赤坂 賢一
4	指導助言者	栃木県教育委員会事務局 特別支援教育室	長谷川貴子
5	指導助言者	栃木県総合教育センター 研究調査部	伊藤 昌夫
6	指導助言者	宇都宮市教育委員会事務局 学校教育課	橋本 讓
7	委 員	宇都宮市立平石北小学校	渡辺 一博
8	委 員	真岡市立長田小学校	福田 瞳
9	委 員	栃木市立岩舟小学校	土屋 葉月
10	委 員	佐野市立赤見小学校	谷 愛
11	委 員	宇都宮市立横川中学校	高松千恵実
12	委 員	鹿沼市立北押原中学校	若色 淑恵
13	委 員	那須塩原市立東那須野中学校	岡部 文弥
14	委 員	栃木県立宇都宮清陵高等学校	田中 理
15	委 員	栃木県立さくら清修高等学校	加藤 史幸
16	委 員	栃木県立盲学校	小川友紀子
17	委 員	栃木県立南那須特別支援学校	上田 美幸

(敬称略)

事 務 局 栃木県連合教育会

川口 滋

令和5(2023)年度「SDGsの視点からの学習活動研究部会」委員一覧

No.	役 職	所 属	氏 名
1	部 会 長	宇都宮大学共同教育学部	出口 明子
2	指導助言者	栃木県教育委員会事務局 義務教育課	久我 逸就
3	指導助言者	栃木県教育委員会事務局 高校教育課	上野 智貴
4	指導助言者	栃木県教育委員会事務局 特別支援教育課	齋藤 佳紀
5	指導助言者	栃木県総合教育センター 研究調査部	十市 祐輔
6	指導助言者	宇都宮市教育委員会事務局 学校教育課	村上 達也
7	委 員	宇都宮市立平石北小学校	渡辺 一博
8	委 員	真岡市立長田小学校	福田 瞳
9	委 員	小山市立豊田小学校	吉田 誠也
10	委 員	佐野市立赤見小学校	谷 愛
11	委 員	宇都宮市立横川中学校	高松千恵実
12	委 員	鹿沼市立北押原中学校	若色 淑恵
13	委 員	那須塩原市立厚崎中学校	岡部 文弥
14	委 員	栃木県立宇都宮清陵高等学校	田中 理
15	委 員	栃木県立さくら清修高等学校	加藤 史幸
16	委 員	栃木県立足利中央特別支援学校	梁木佳奈子
17	委 員	栃木県立南那須特別支援学校	上田 美幸

(敬称略)

事 務 局 栃木県連合教育会

川口 滋

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 資料データ編
小学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

SDGsの視点からの学習活動研究部会 アンケート回答結果

このアンケートは令和5年度に実施したものです。

県内の多くの学校、教員の方々、児童・生徒の皆さんからご回答いただきました。

この回答結果には質問項目すべてが入ってはおりません。回答頂いた学校や個人が特定されるおそれのある部分は省きました。また、自由記述回答のうち回答数が多く掲載しきれないものは省きました。

- ・アンケート期間 令和5年6月13日～7月7日
- ・調査対象 県内小・中・高校・特別支援学校とその学校の教員、児童・生徒
- ・調査方法 高等学校はMicrosoft Forms、小・中学校はGoogle フォームを使用。
特別支援学校はGoogle フォームと質問用紙を使用。

回答結果

小学校

回答児童数 5,397名 回答教員数 534名 回答学校数 205校

中学校

回答生徒数 4,982名 回答教員数 184名 回答学校数 79校

高等学校

回答生徒数 1,482名 回答教員数 105名 回答学校数 29校

特別支援学校

回答児童生徒数 61名 回答教員数 30名 回答学校数 8校

合計児童生徒数 11,922名

合計教員数 852名

合計学校数 321校

※この結果についてのお問合せは下記にお願いいたします。

栃木県連合教育会 研究担当

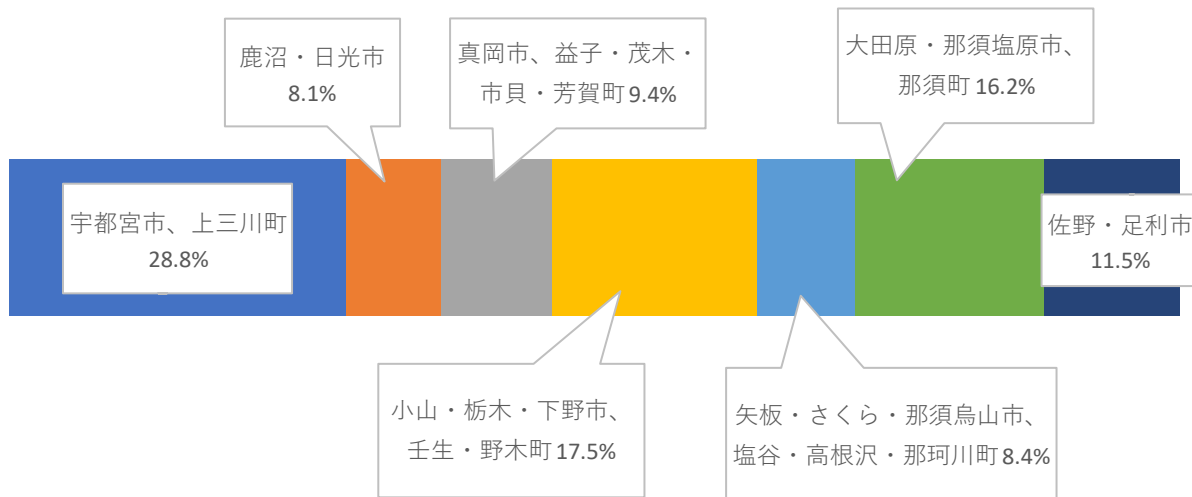
TEL 028-621-7216

Email kenkyu@tochigi.rk.jp

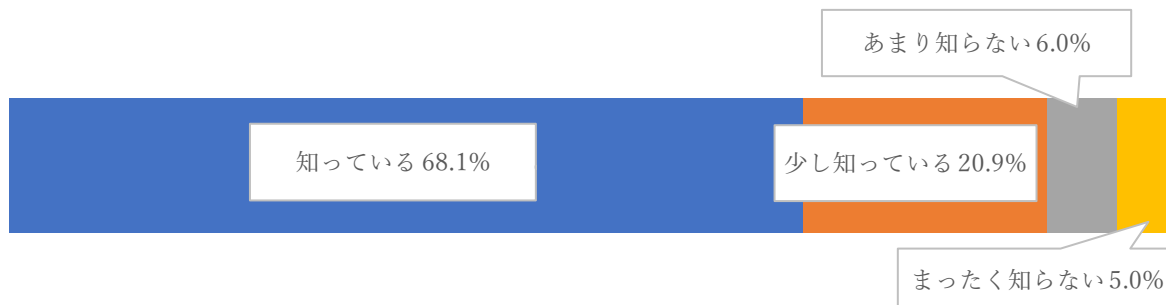
小学校 児童 回答

回答児童数 5,397 名

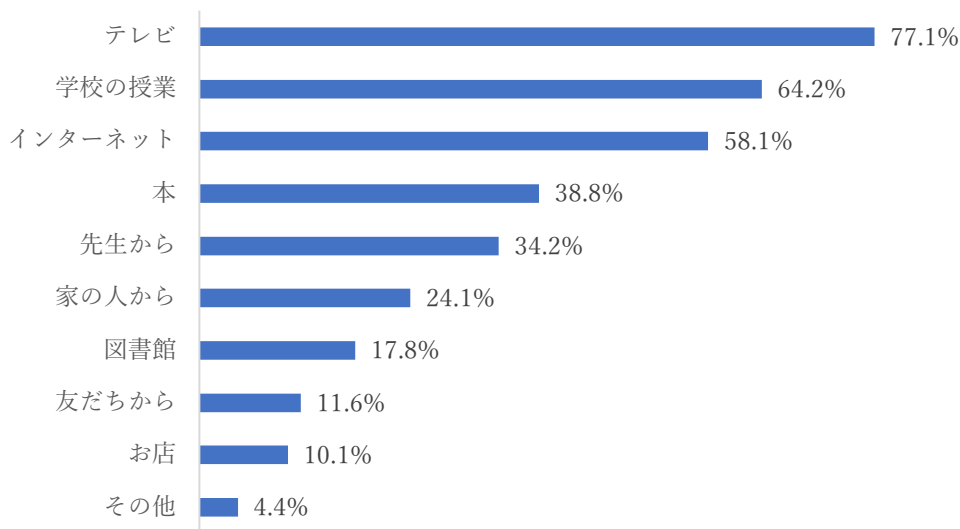
Q 1 あなたの学校のある市や町はどこですか。



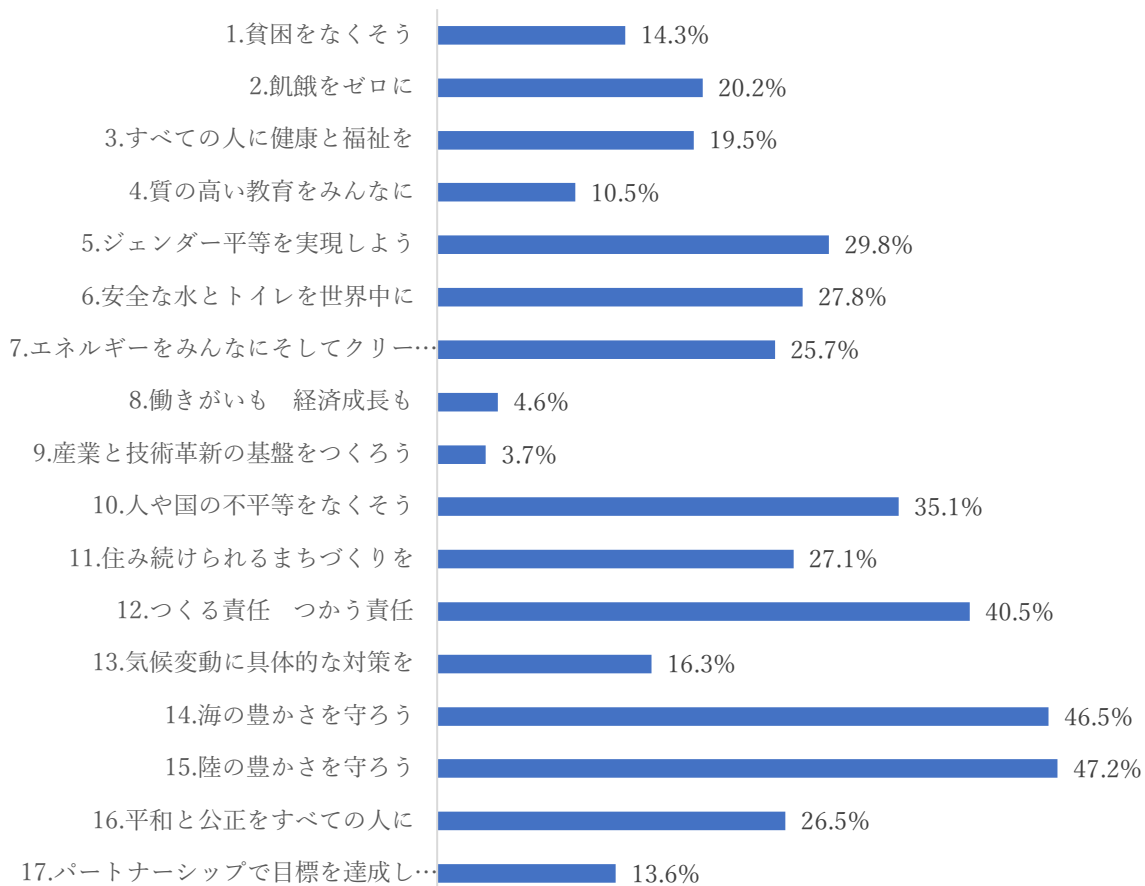
Q 2 「SDG s」という言葉を知っていますか。



Q 3 「知っている」、「少し知っている」と答えた人にお聞きします。どこでSDGsについて知りましたか？（あてはまるものをすべてチェックしてください）
 (複数回答可)

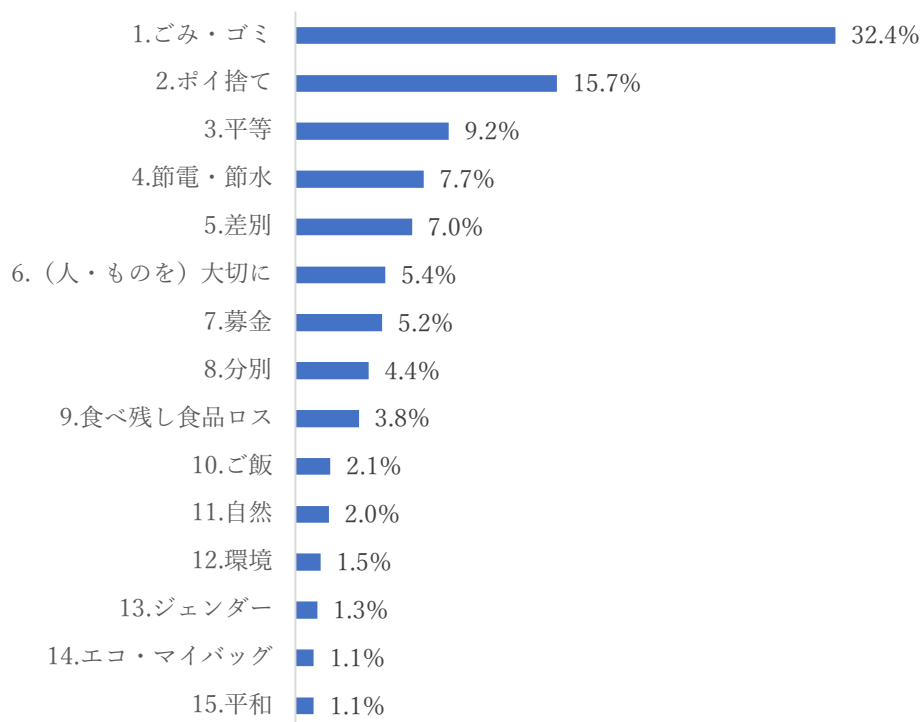


Q 4 SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。下の目標の中で、あなたが日頃取り組んでいると思う目標はどれですか？（複数回答可）

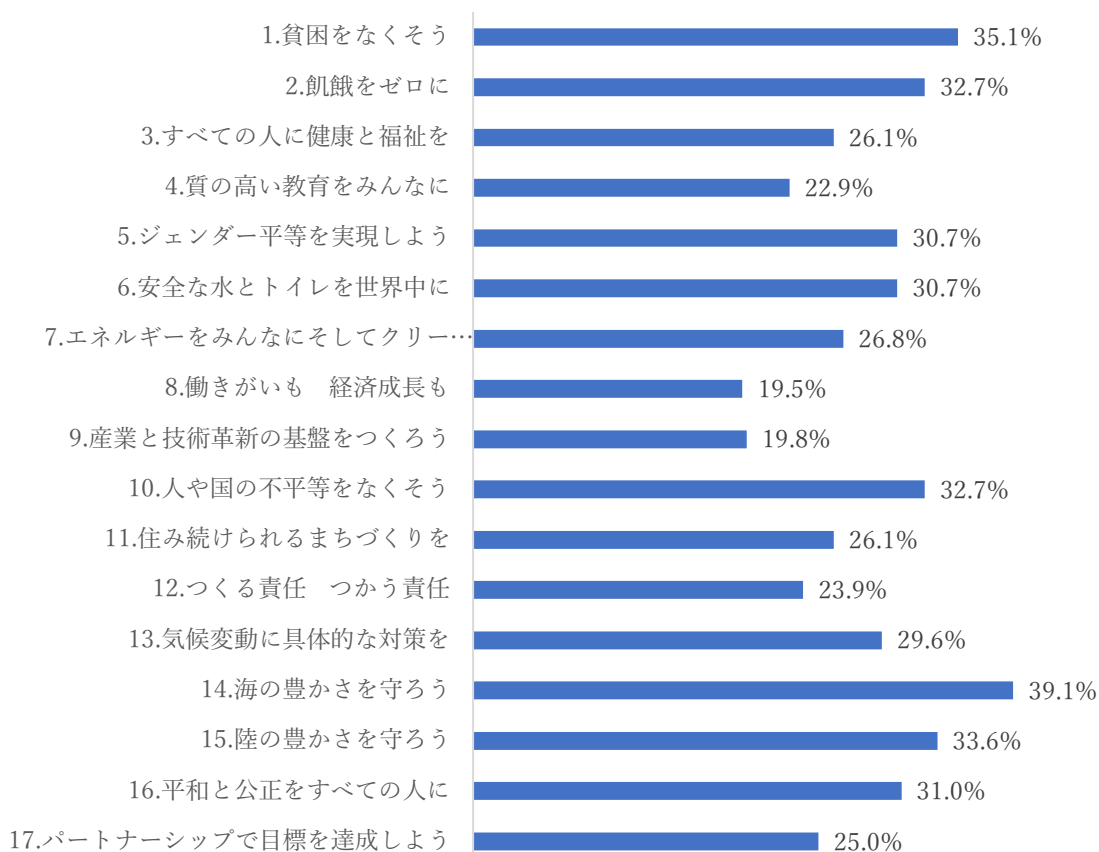


資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 5 上の質問で、取り組めているものがあつた人にお聞きします。具体的にどんなことに取り組んでいますか。（複数回答可）

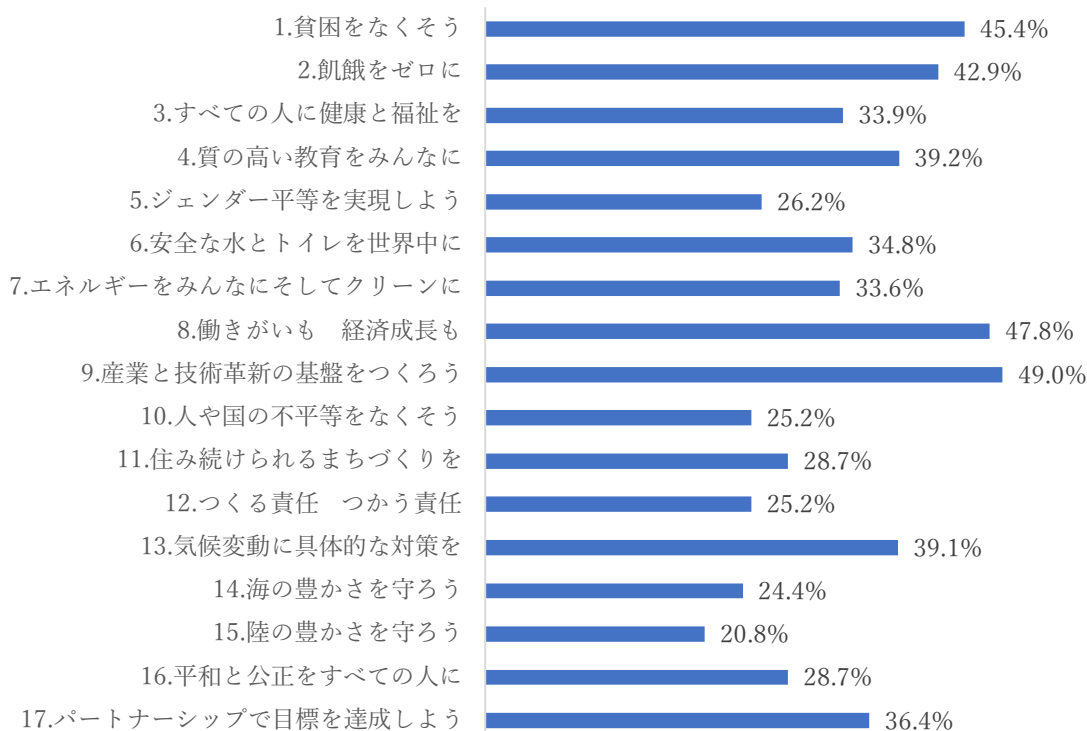


Q 6 17の目標の中で、あなたが特に気になるものはありますか。当てはまるものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）

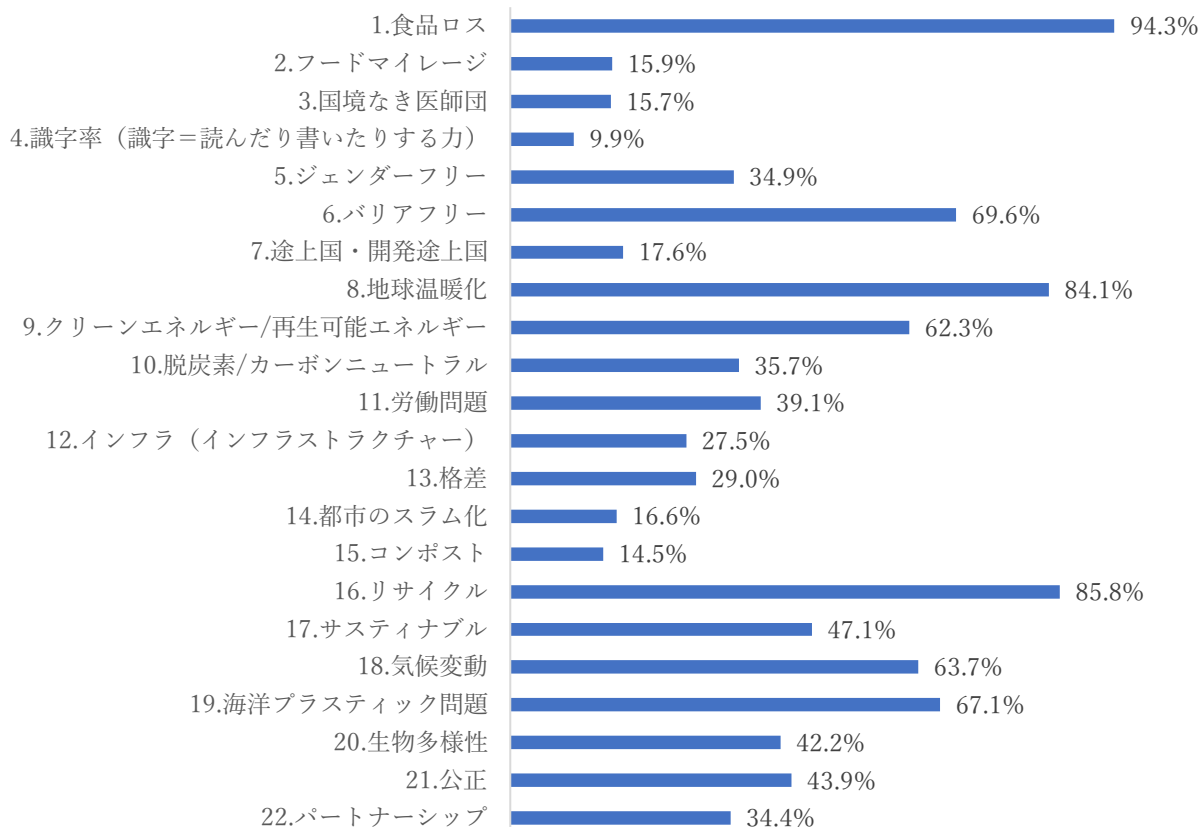


資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

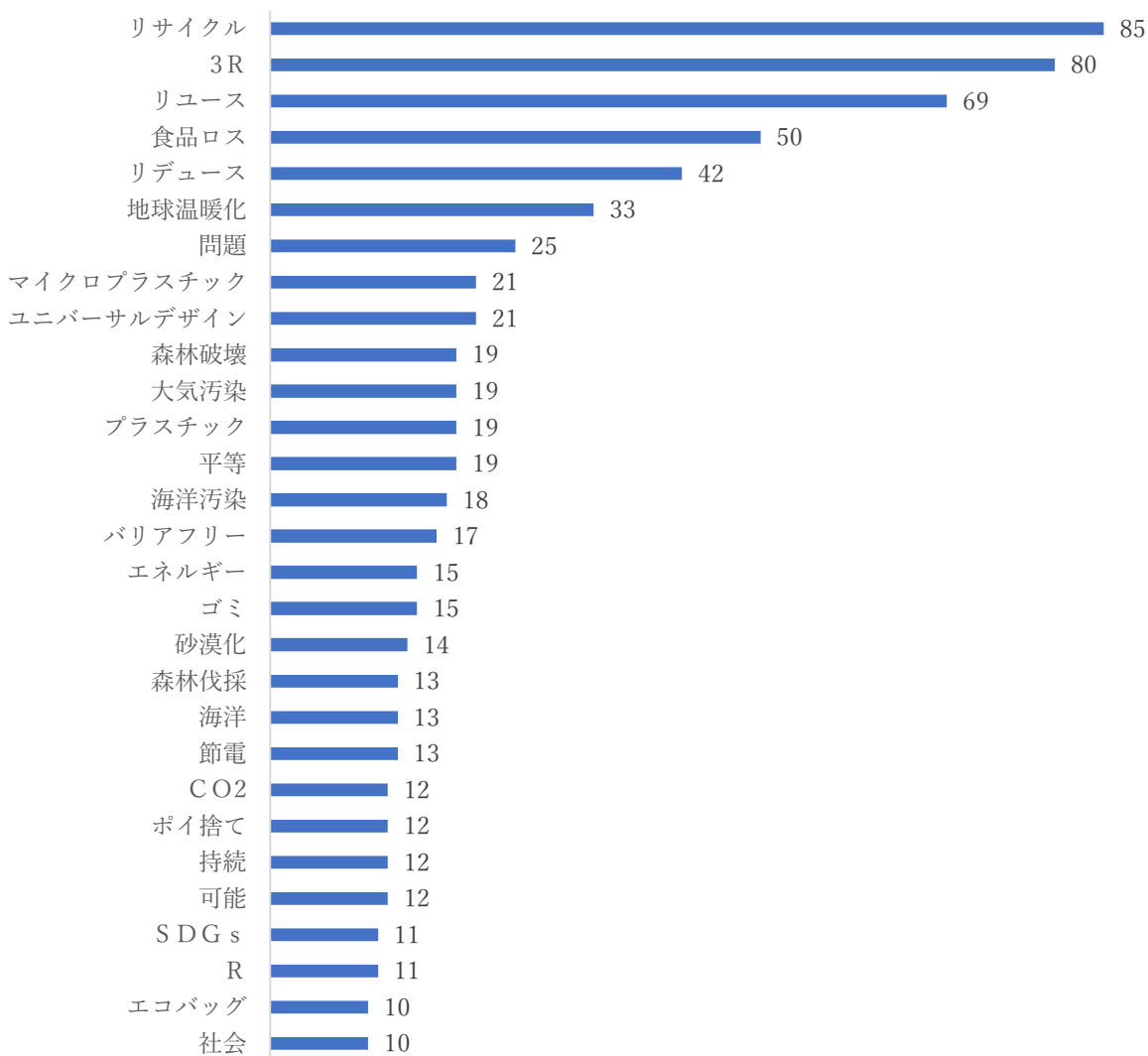
Q 7 SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。下の目標の中で、あなたが日頃取り組めていないと思う目標はどれですか？当てはまるものにチェックをして下さい。（複数回答可）



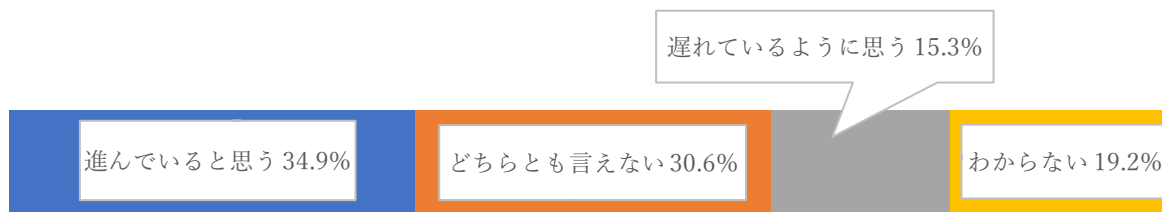
Q 8 次の言葉はSDGsに関する言葉です。知っているものにチェックをして下さい。（複数回答可）



Q 9 上の質問にあった言葉の他に、SDGsに関する言葉で知っている言葉があったら書いて下さい。（複数回答可、数字は回答数）



Q 10 日本のSDGsの取組みは世界の中で進んでいると思いますか。



資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 11 前の質問であなたがそのように思った理由を書いて下さい。（回答数 4,159 件）

[主な回答]

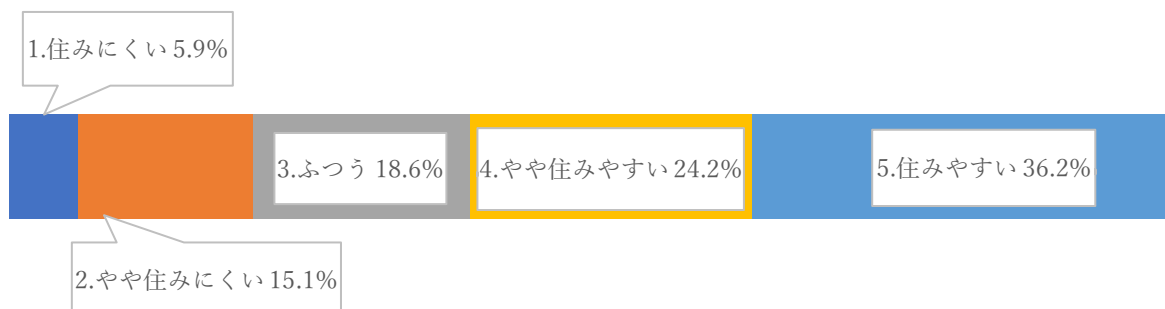
進んでいると思う理由：環境にやさしい車が作られている、ニュースや広告でよく見る、近くのスーパーにリサイクルボックスがある、エコバッグを使う人が増えた、学校でクリーン活動を行っている、バリアフリーの場所がある

遅れていると思う理由：ゴミのポイ捨てがなくなる、食品ロスが多い、取り組んでいる人が少ない、地球温暖化が進んでいる、女性議員が少ない

Q 12 今の地球の住みやすさは5段階のうちどのくらいだと思いますか。
（1は「住みにくい」、5は「住みやすい」）



Q 13 未来の地球の住みやすさは5段階のうちどのくらいだと思いますか。
（1は「住みにくい」、5は「住みやすい」）



Q 14 未来の地球の住みやすさについて、あなたが上の答のように思う理由を書いて下さい。
（回答数 4,493 件）

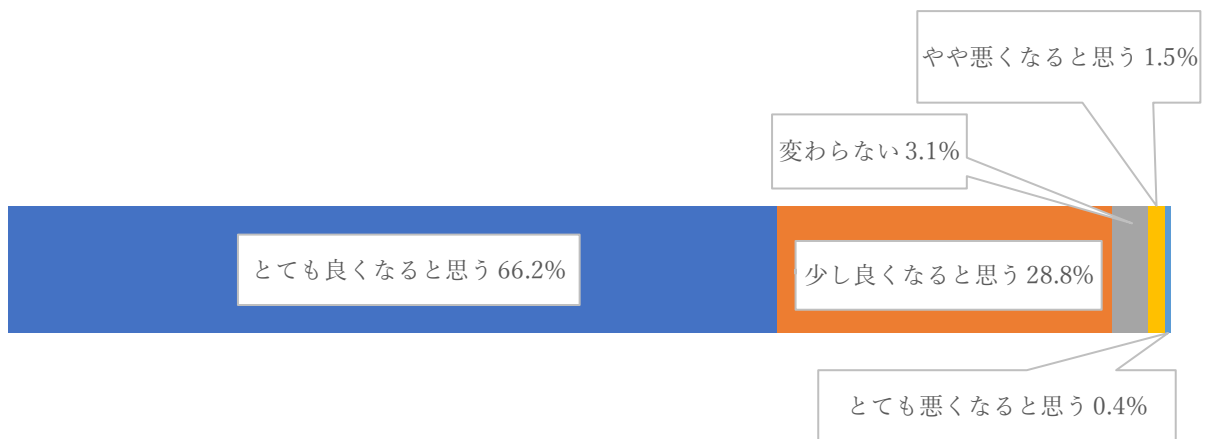
[主な回答]

住みにくくなる理由：地球温暖化が進んで暑すぎる、自然環境が悪くなる、食品ロスをしていせいで食料がなくなる、AIが使われすぎて人間がなんとかしようと思わなくなる、戦争がなくなる

住みやすくなる理由：ゴミのポイ捨てが減っている、科学技術が進歩する、ロボットが開発される、SDGsの取り組みが進んで今より良くなっている

資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

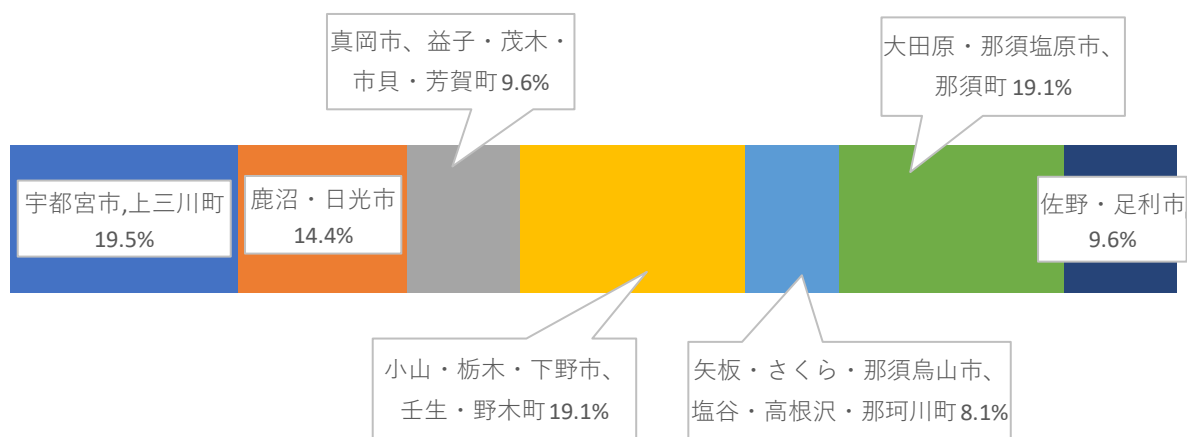
Q 15 SDGsに取り組むことで、地球の未来はどのように思いますか。



小学校 教員 回答

回答者数 534 名

Q1 お勤めの学校についてご回答ください。

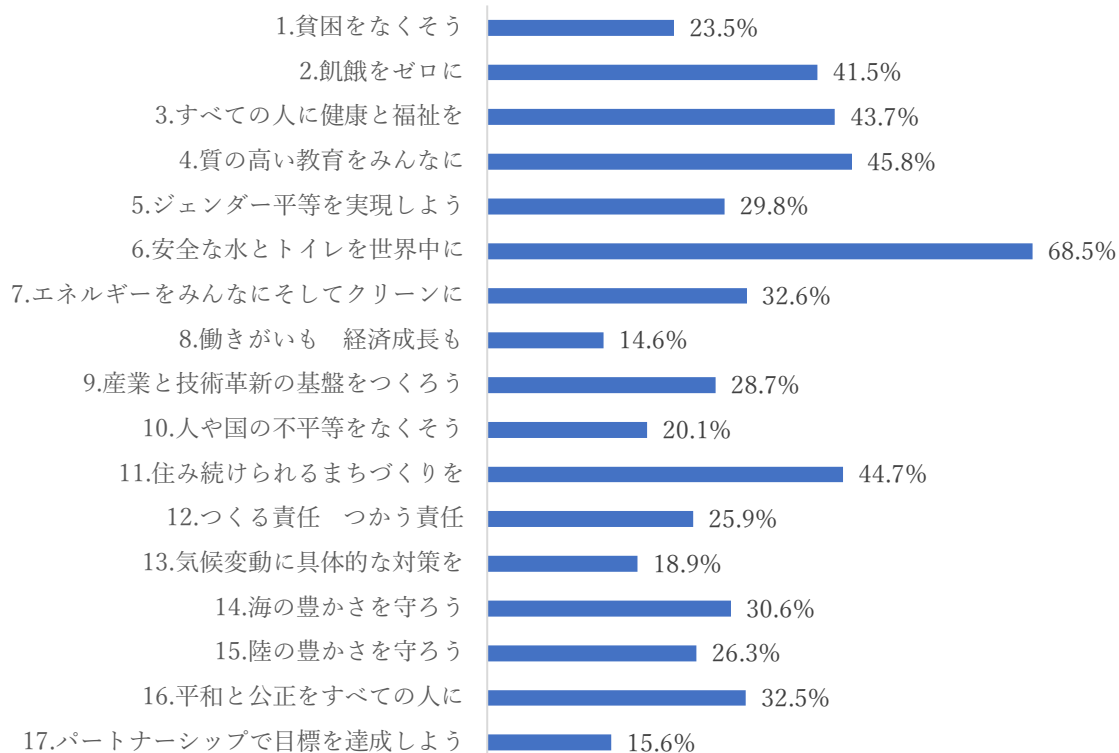


Q2 SDGs についてはどれくらいご存知ですか。

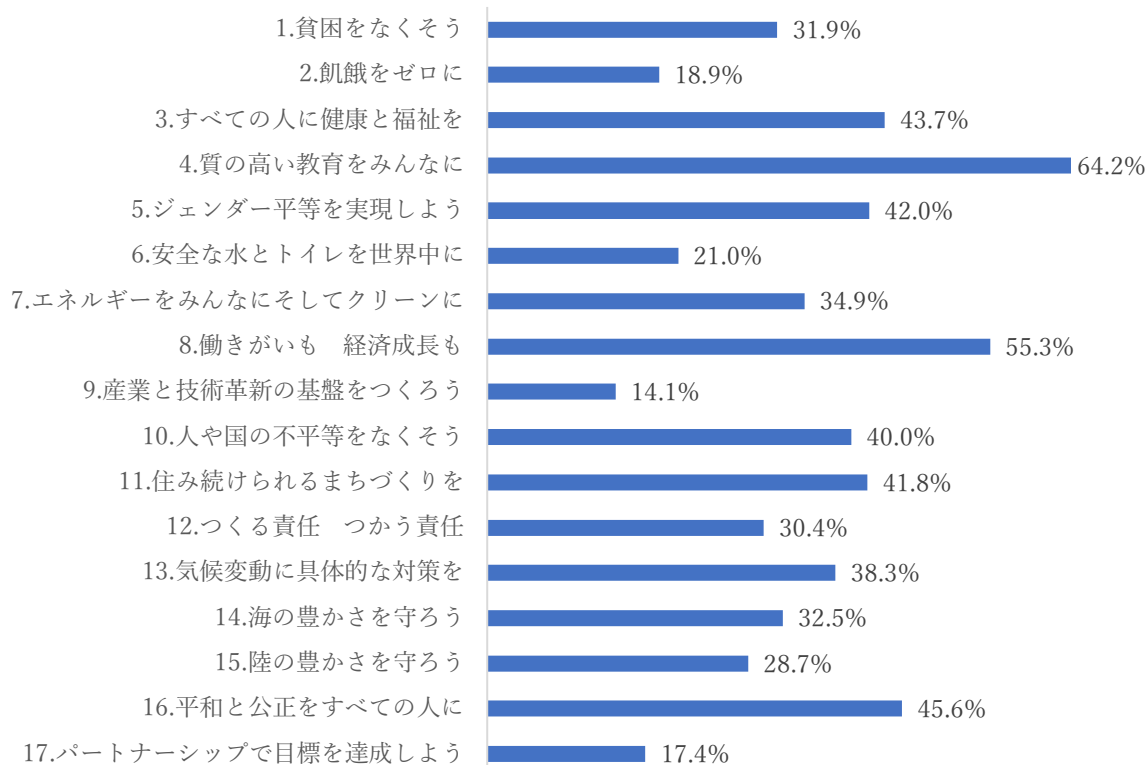


資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 3 SDGsとは「人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき17の目標」のことで、次の目標の中で、日本が取り組んでいると思うものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）

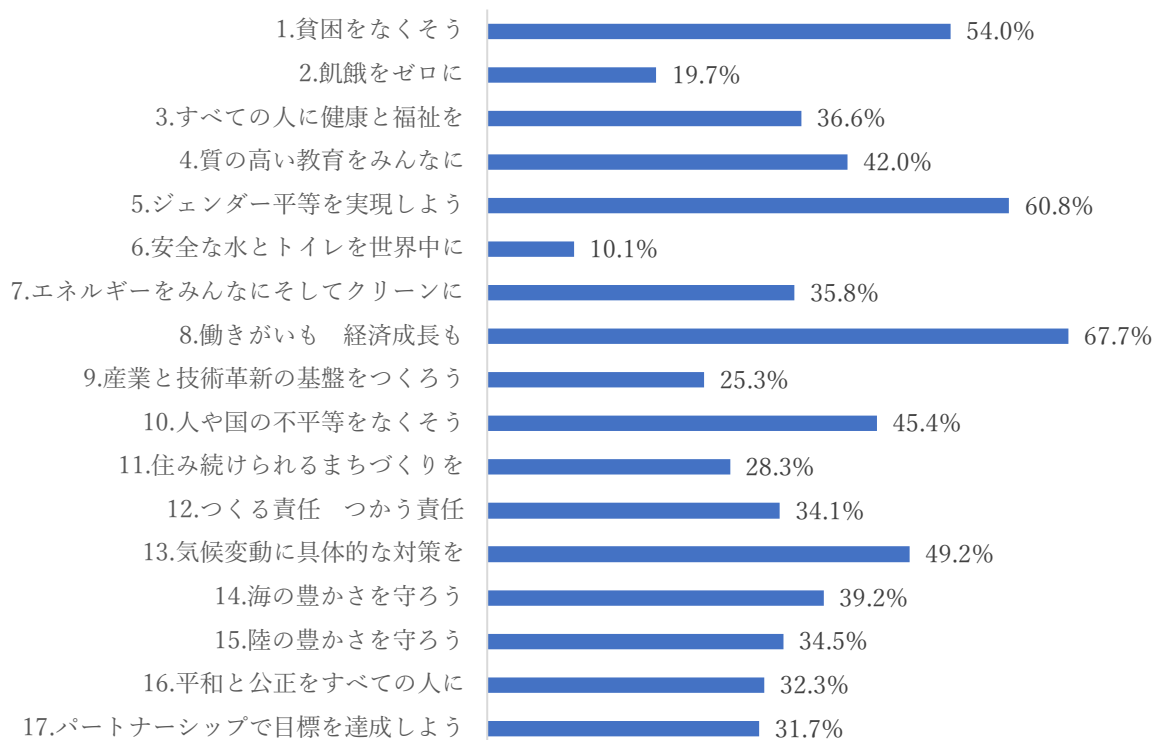


Q 4 SDGsとは「人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき17の目標」のことで、次の目標の中で特に気になるものものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）

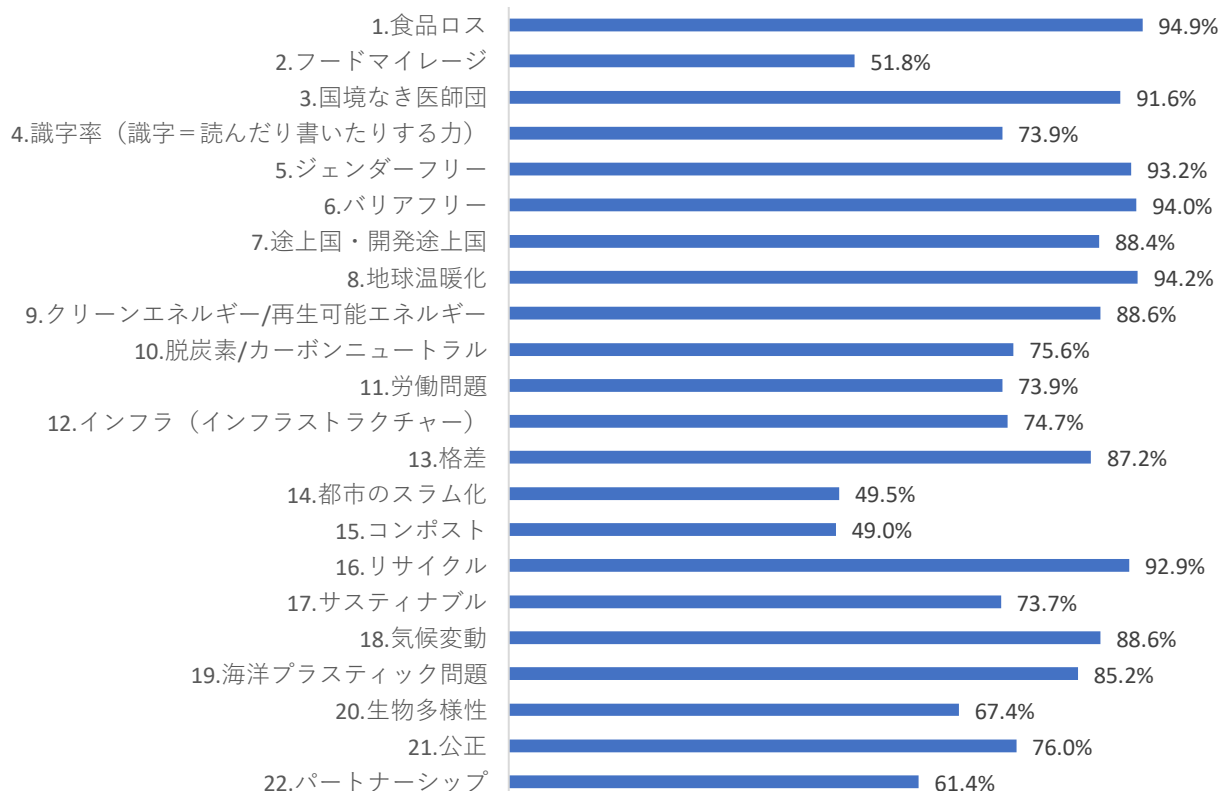


資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 5 SDGsとは「人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき17の目標」のことで、下の目標の中で日本が達成できていないと思うものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）

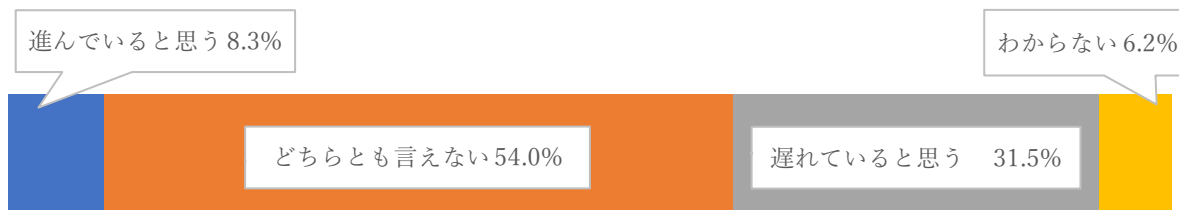


Q 6 次の言葉はSDGsに関する言葉です。ご存知のものをすべてチェックして下さい。（複数回答可）



資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 7 日本のSDGsに関する取り組みは、世界の中で進んでいると思いますか。



Q 8 上の質問で、そのお答えを選んだ理由についてお聞かせください。（回答数 431 件）

[主な回答]

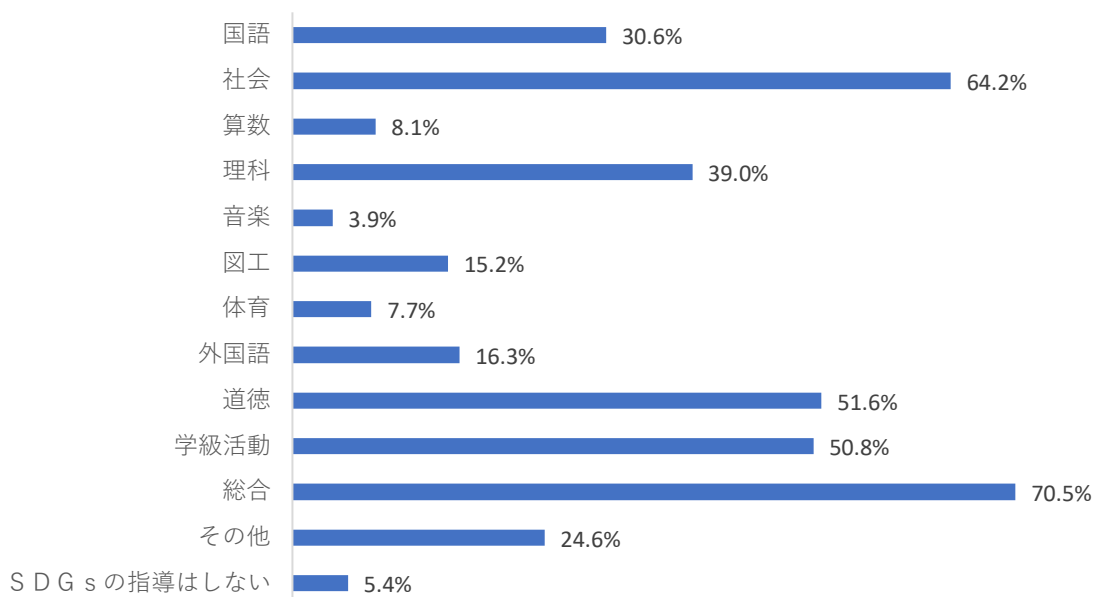
進んでいると思う理由：企業や教育現場での取り組みが進んでいる、メディアで取り上げる機会が多い、子供たちの意識が向上している

遅れていると思う理由：言葉だけが独り歩きして実際の行動が伴わない、他人事と捉えている人が多い、成果を感じられない、ジェンダーフリーなど諸外国に比べて遅れていることが多い

Q 9 SDGsに取り組むことで、地球の未来はどう変わると思いますか。（複数回答可）



Q 10 どのような教科や学習活動でSDGsを扱っておられますか。（複数回答可）



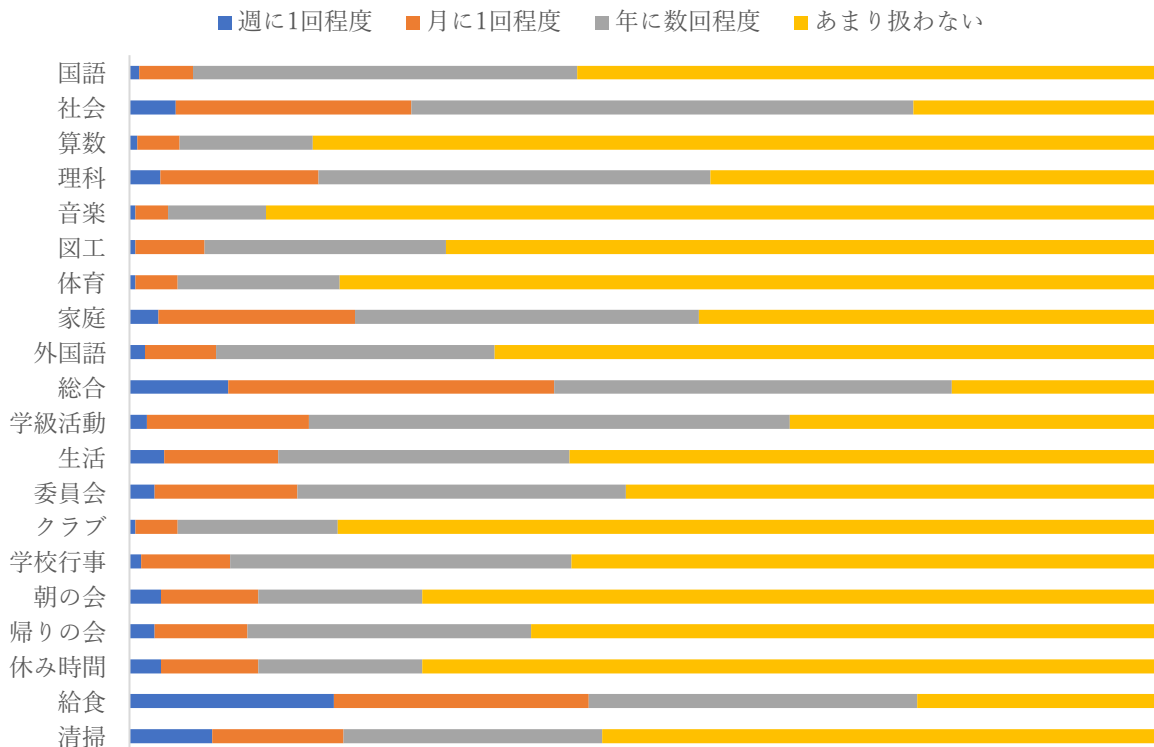
資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 11 SDGsについて、それぞれそれぞれの授業等で取り扱う頻度はどの程度ですか。

最も近いものにチェックをして下さい。（複数回答可）

	週に1回程度	月に1回程度	年に数回程度	あまり扱わない
国語	0.9%	5.3%	37.3%	56.5%
社会	4.5%	22.9%	48.8%	23.8%
算数	0.8%	4.1%	12.9%	82.2%
理科	3.0%	15.4%	38.1%	43.5%
音楽	0.6%	3.2%	9.5%	86.7%
図工	0.6%	6.8%	23.5%	69.2%
体育	0.6%	4.1%	15.7%	79.6%
家庭	2.8%	19.1%	33.4%	44.7%
外国語	1.5%	6.9%	27.0%	64.5%
総合	9.6%	31.7%	38.6%	20.1%
学級活動	1.7%	15.8%	46.7%	35.8%
生活	3.4%	11.1%	28.3%	57.2%
委員会	2.4%	13.9%	31.9%	51.8%
クラブ	0.6%	4.1%	15.6%	79.7%
学校行事	1.1%	8.6%	33.2%	57.0%
朝の会	3.0%	9.5%	15.9%	71.6%
帰りの会	2.4%	9.0%	27.6%	61.0%
休み時間	3.0%	9.5%	15.9%	71.6%
給食	19.9%	24.8%	31.9%	23.5%
清掃	8.1%	12.8%	25.1%	54.0%

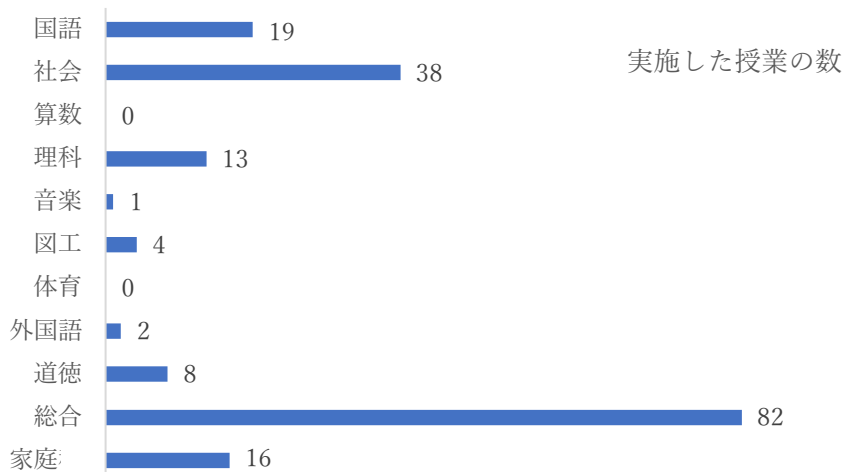
<SDGsを授業で取り扱う頻度>



Q 12

これまでに行った、SDGsを取入れた授業や活動がありましたらその授業名や活動名とそのねらいとポイントについて教えてください。（回答数 215 件）

[主な回答]



(具体例)

- ・国語：私たちにできること、フェアトレード、国際理解等の授業、環境問題の作文
- ・社会：地域学習、水とエネルギー、ゴミ処理とリサイクル、環境問題等の授業
- ・理科：生物どうしのつながり、クリーンエネルギー等の授業
- ・図工：ペットボトルや牛乳パックなどの「リサイクル」作品作り
- ・道徳：福祉、人権、豊かな地球、エコ活動等の授業
- ・総合：守ろう僕たちの地球、環境問題、貧困、地球温暖化対策等の授業、エコ活動実践
- ・家庭：食品ロス、持続可能な生活、リサイクル等の授業

Q 13 上記の質問で、お書き頂いた先生にお聞きします。ねらいやポイントが達成されましたか。また児童生徒の変容について教えてください。（回答数 206 件）

[主な回答]

達成された

- ・すぐに取り組めることを考えたり気をつけたいことを挙げたりするなど意識が変わった
- ・環境問題やエコ活動への関心が高まり、家庭でも取り組みを継続している児童も多い
- ・給食の食べ残しが減った
- ・世界と日本の違いに触れて、世界の課題について考える姿が見られた
- ・知識が広がった。フェアトレード商品に目が向く児童が増えた
- ・性別によって使う色の差がなくなってきた

達成されなかった

- ・あまり大きな変容はなかった。
- ・環境についての理解は進んだが、実践がまだまだ伴っていない
- ・調べ学習に傾いてしまい、具体的な活動まで結び付かなかった
- ・ねらいに近い反応が見られたが、授業後も継続的に興味をもつような工夫が必要

Q 14 SDGs 17 の目標について、子供たちへの指導のしやすさについてお答え下さい。

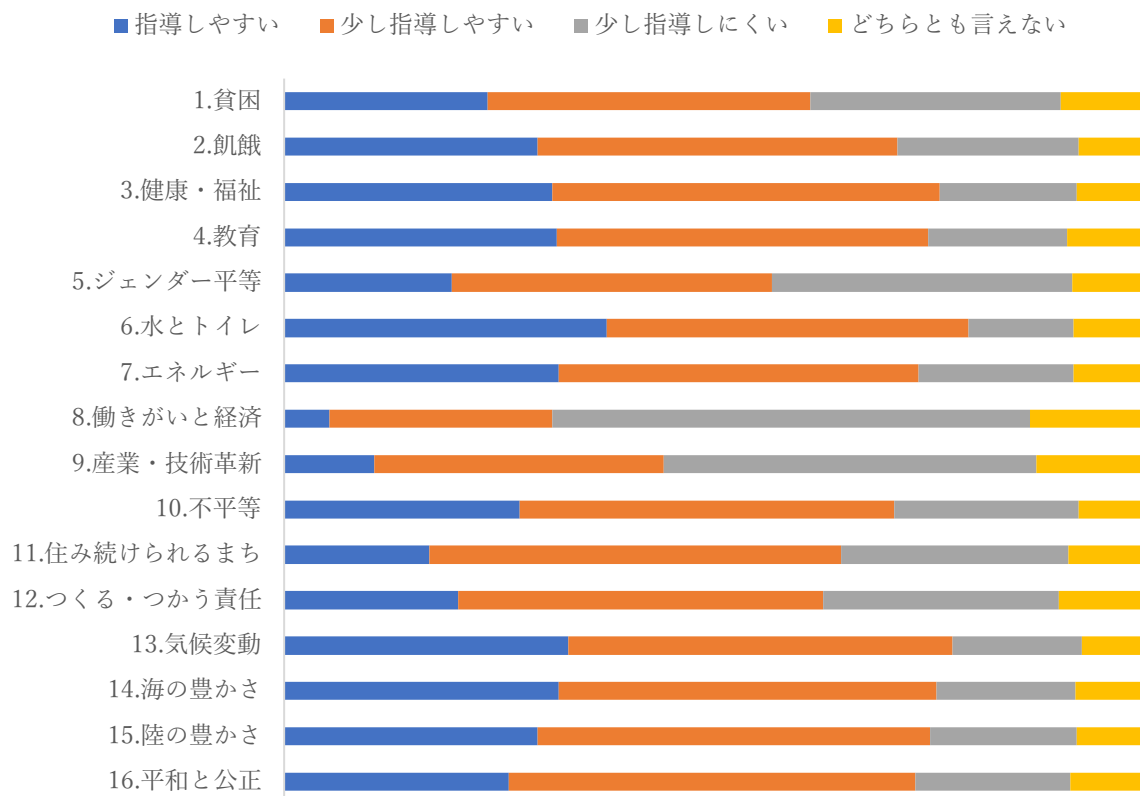
	指導しやすい	少し指導しやすい	少し指導しにくい	どちらとも言えない
1. 貧困	23.6%	37.5%	29.1%	9.8%
2. 飢餓	29.5%	41.8%	21.0%	7.7%
3. 健康・福祉	31.1%	45.0%	15.9%	7.9%
4. 教育	31.7%	43.2%	16.1%	9.0%
5. ジェンダー平等	19.5%	37.1%	34.9%	8.4%
6. 水とトイレ	37.5%	42.0%	12.2%	8.3%
7. エネルギー	31.9%	41.8%	18.0%	8.3%
8. 働きがいと経済	5.3%	25.9%	55.5%	13.3%
9. 産業・技術革新	10.5%	33.6%	43.3%	12.6%
10. 不平等	27.4%	43.5%	21.4%	7.7%

資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

11. 住み続けられるまち	16.9%	47.8%	26.5%	8.8%
12. つくる・つかう責任	20.3%	42.4%	27.4%	9.9%
13. 気候変動	33.0%	44.7%	15.0%	7.3%
14. 海の豊かさ	31.9%	43.9%	16.1%	8.1%
15. 陸の豊かさ	29.5%	45.6%	17.1%	7.9%
16. 平和と公正	26.1%	47.3%	18.0%	8.6%

※質問の回答項目に目標 17 の「パートナーシップ」が抜けておりましたので目標 17 の回答はありません。

<SDGsに関する指導のしやすさ>



Q 15

SDGs に関することで、何かご意見があればご記入ください。(回答数 70 件)

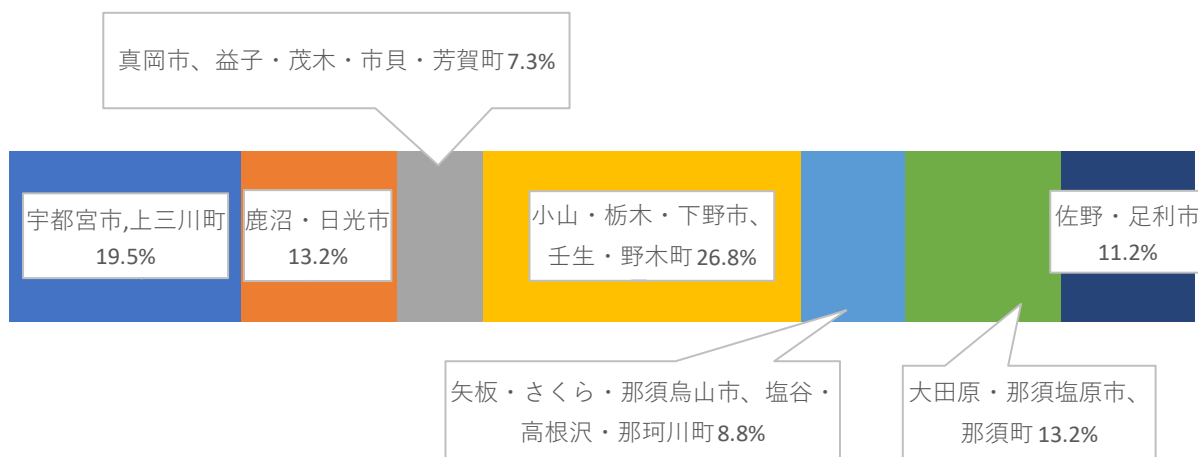
[主な回答]

- ・教材や実践例が必要、指導することが難しい
- ・授業の中で触れることはできるがしっかり指導する時間を割くことは難しい
- ・指導内容が増えることで教員・生徒の負担が増えることのないように求める
- ・出前授業があるとよい

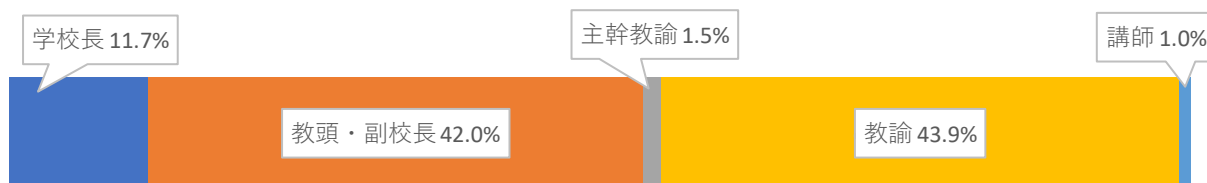
小学校 学校 回答

回答校数 205 校

Q 1 御校のある地区はどこですか。



Q 2 このアンケートにご回答いただいている方の、職名をお答え下さい。

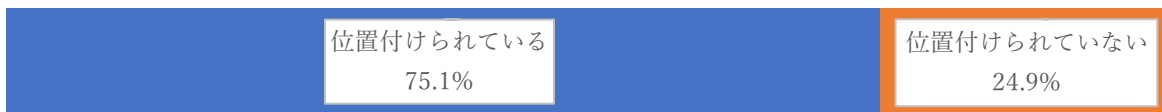


Q 3 このアンケートにご回答いただいている方の、教員としての勤務年数をお答え下さい。



資料データ編【小学校（児童・教員・学校）】

Q 4 御校ではSDGsに関する指導について、校務分掌に位置付けられていますか。



Q 5 上の3の質問で「位置づけられている」と回答いただいた学校にお聞きします。位置付けられている分掌名をお書き下さい。(回答数 51 件)

[主な回答]

環境教育、SDGs、人権教育、ISO、福祉教育、キャリア教育
総合的な学習の時間、生涯学習、性教育、その他

Q 6 SDGsと学校行事を関連させた取組みを行っていらっしゃいますか。



Q 7 上の6の質問に、「行っている」と回答された学校にお聞きします。それはどのような取り組みですか。行事名などでお答え下さい。(回答数 86 件)

[主な回答]

リサイクル回収、地域活動、清掃活動、緑化活動、人権教育活動、修学旅行
校外学習、総合的な学習の時間、委員会

Q 8 SDGsに関する内容を取り扱う場合、学校として困難な点があったらお書き下さい。(回答数 87 件)

[主な回答]

- ・他の業務で多忙なためSDGsに関する教育の準備に割く時間が確保できない
- ・年間指導計画や校務分掌、指導要領に明確に設定されていないので実施が難しい
- ・教員の知識不足を懸念する、扱う範囲が広すぎる
- ・外部講師とのつながりがまだ少ない

Q 9 SDG s に関する内容を扱ったことがある場合、学校としてよかった点はどんなところかお書き下さい。(回答数 99 件)

[主な回答]

- ・環境問題に対する児童の意識が高まった
- ・グローバルな視点、異文化理解が深まった
- ・学校だけでなく保護者や地域に広めることができ、つながりが深まった
- ・人権や福祉についての意識や関心が高まってきている

Q 10 SDG s の指導に関する取り組みについて、上の回答以外にご意見がありましたら、お書き下さい。(回答数 48 件)

[主な回答]

- ・学年に応じた取り組みを実施している
- ・教育課程や年間指導計画に明確化されていれば実施したい
- ・SDG s など学校で指導する内容が年々増えると、何を学校で扱うとよいか、何を減らすべきか考える必要がある

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 資料データ編
中学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

SDGsの視点からの学習活動研究部会 アンケート回答結果

このアンケートは令和5年度に実施したものです。

県内の多くの学校、教員の方々、児童・生徒の皆さんからご回答いただきました。

この回答結果には質問項目すべてが入ってはおりません。回答頂いた学校や個人が特定されるおそれのある部分は省きました。また自由記述回答のうち回答数が多く掲載しきれないものは省きました。

- ・アンケート期間 令和5年6月13日～7月7日
- ・調査対象 県内小・中・高校・特別支援学校とその学校の教員、児童・生徒
- ・調査方法 高等学校はMicrosoft Forms、小・中学校はGoogle フォームを使用。
特別支援学校はGoogle フォームと質問用紙を使用。

[回答結果]

小学校

回答児童数 5,397名 回答教員数 534名 回答学校数 205校

中学校

回答生徒数 4,982名 回答教員数 184名 回答学校数 79校

高等学校

回答生徒数 1,482名 回答教員数 105名 回答学校数 29校

特別支援学校

回答児童生徒数 61名 回答教員数 30名 回答学校数 8校

合計児童生徒数 11,922名

合計教員数 852名

合計学校数 321校

※この結果についてのお問合せは下記にお願いいたします。

栃木県連合教育会 研究担当

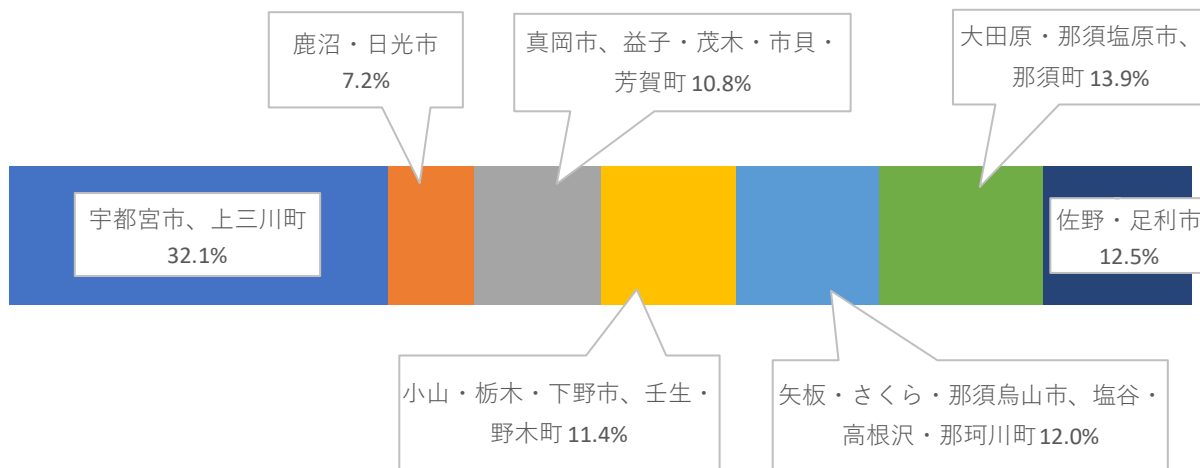
TEL 028-621-7216

Email kenkyu@tochigi.rk.jp

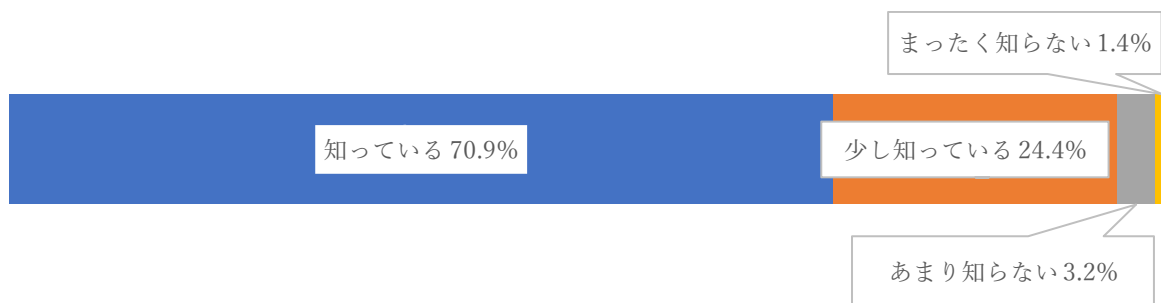
中学校 生徒 回答

回答生徒数 4,982名

Q1 あなたの学校のある市や町はどこですか。



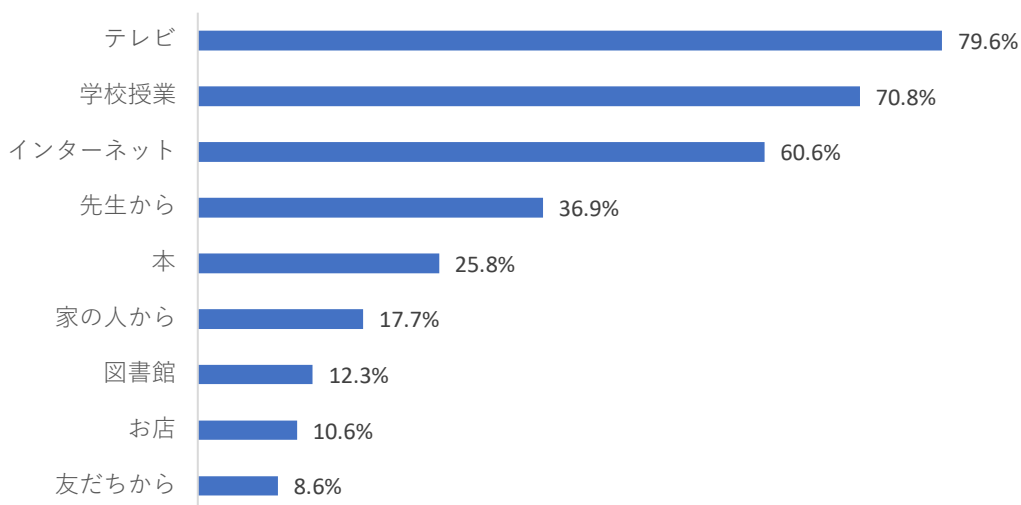
Q2 「SDG s」という言葉を知っていますか。



資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

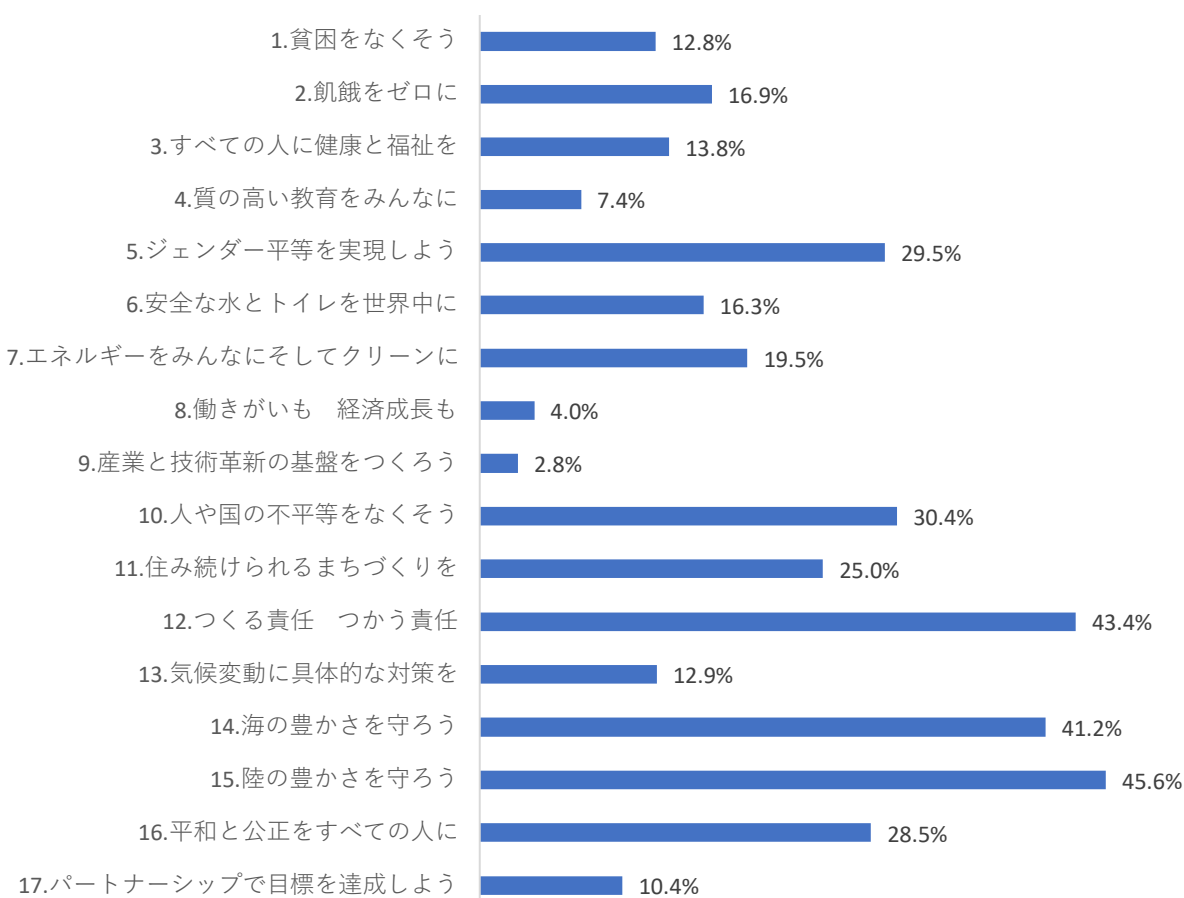
Q 3

「知っている」、「少し知っている」と答えた人にお聞きします。どこでSDGsについて知りましたか？（あてはまるものをすべてチェックしてください）
（複数回答可）



Q 4

SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。下の目標の中で、あなたが日頃取り組んでいると思う目標はどれですか？
（複数回答可）

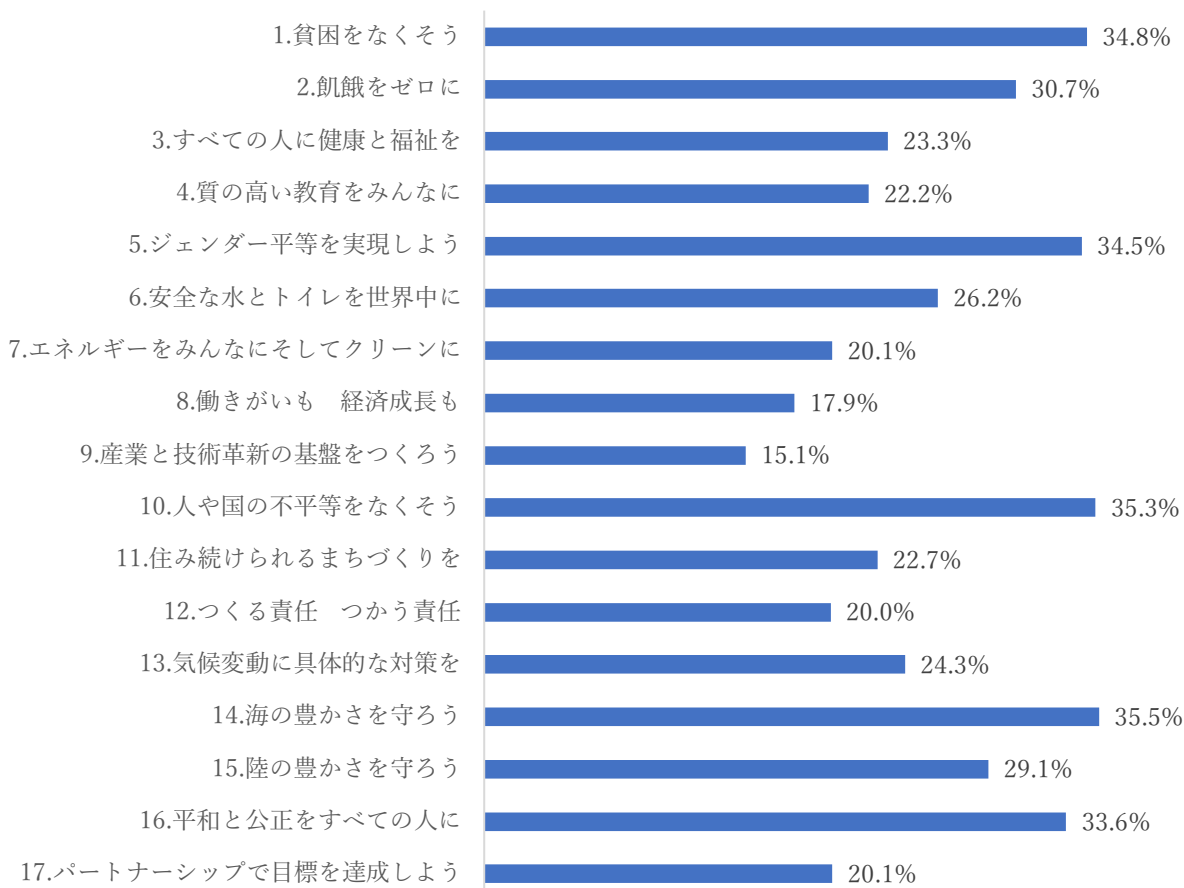


Q 5 上の質問で、取り組んでいるものがあつた人にお聞きします。具体的にどんなことに取り組んでいますか。(回答数 4,323 件)

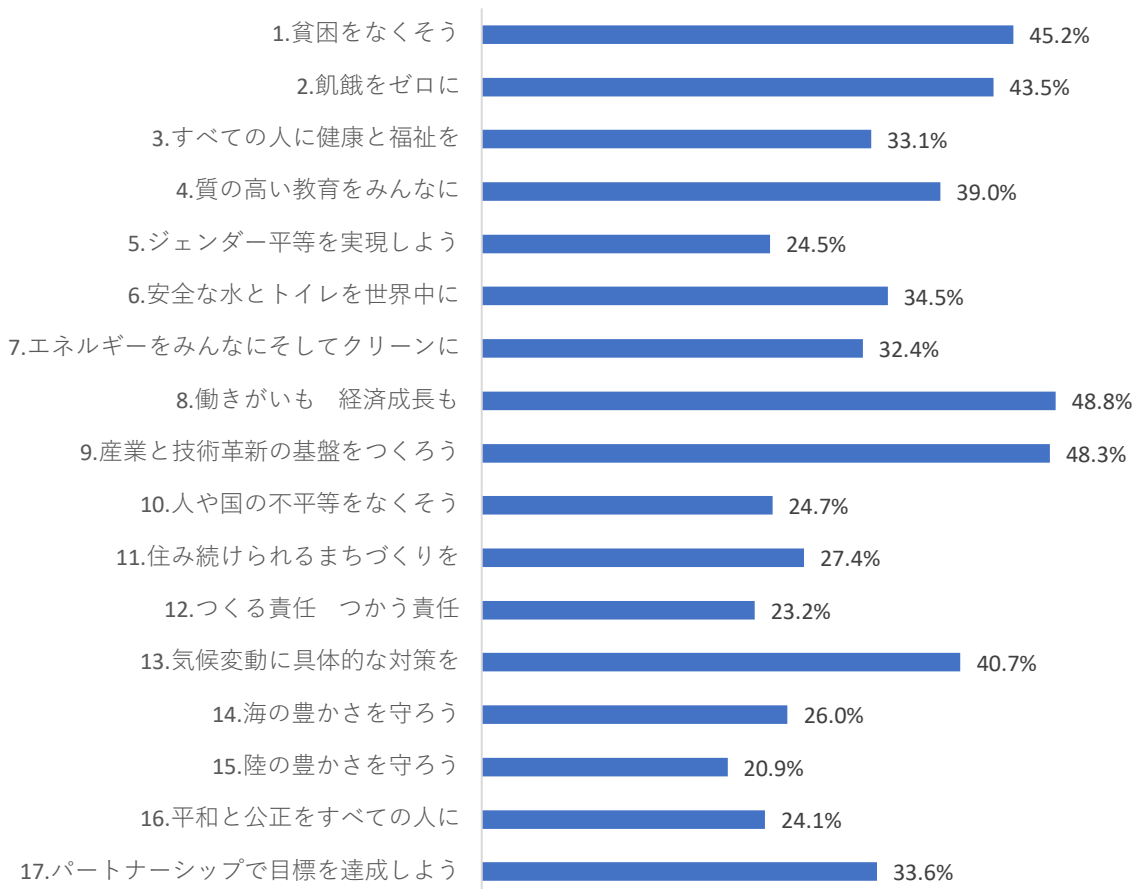
[主な回答]

エアコンの設定温度に気をつける、 エコバックを使う、 エネルギーの節約
 ゴみの分別・削減、 ご飯を残さない、 ポイ捨てをしない、 ジェンダー平等に気をつける
 プラスチック製品を使わないようにする、 リサイクルする、 ものを大切に使う
 いらぬものを買わない、 差別をしない、 いじめをしない、 募金する

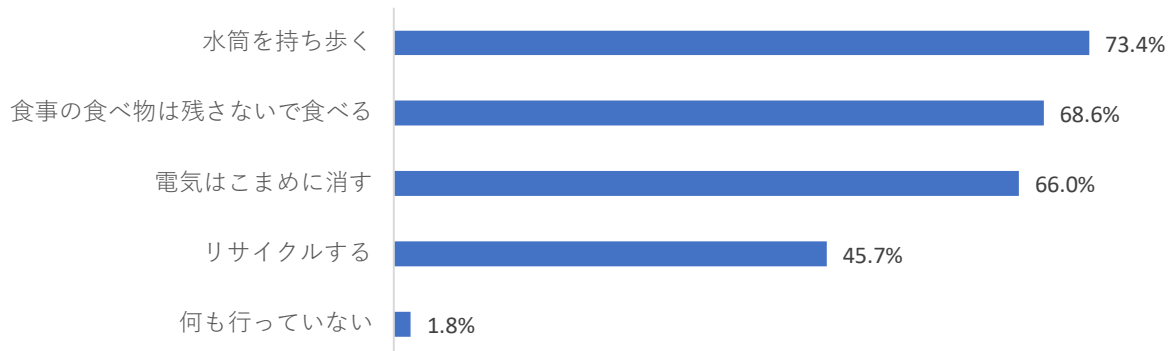
Q 6 17の目標の中で、あなたが特に気になるものはありますか。当てはまるものすべてにチェックをして下さい。(複数回答可)



Q 7 SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。下の目標の中で、あなたが日頃取り組めていないと思う目標はどれですか？当てはまるものにチェックをして下さい。（複数回答可）



Q 8 SDGs 17の目標達成のために、あなたが行っている行動として該当するものは次のうちどれですか。該当する項目にチェックをしてください。（複数回答可）

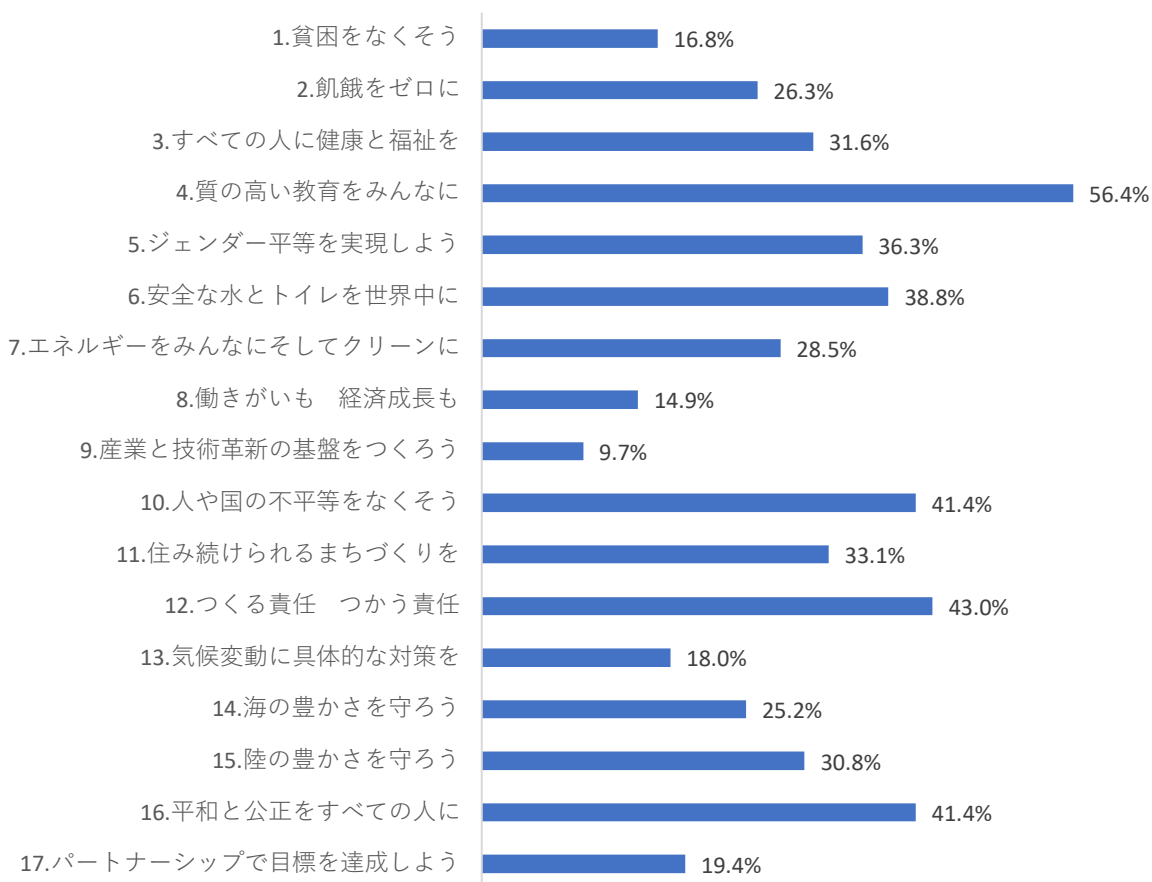


Q 9 上の質問で、「何も行っていない」と答えた方にお聞きします。何もしない理由と今後行いたいことがあれば書いて下さい。（回答数 91 件）

[主な回答]

わからない、 めんどく、 忘れてしまう、 しても変わらない、 今のままでいい
危機感を感じない、 私がやらなくても、 やりたくない、 する意味がわからない
理由はない

Q 10 17 の目標の中で学校生活や日常生活と特につながっているのはどれだと思いますか。当てはまるものにチェックをしてください。（複数回答可）

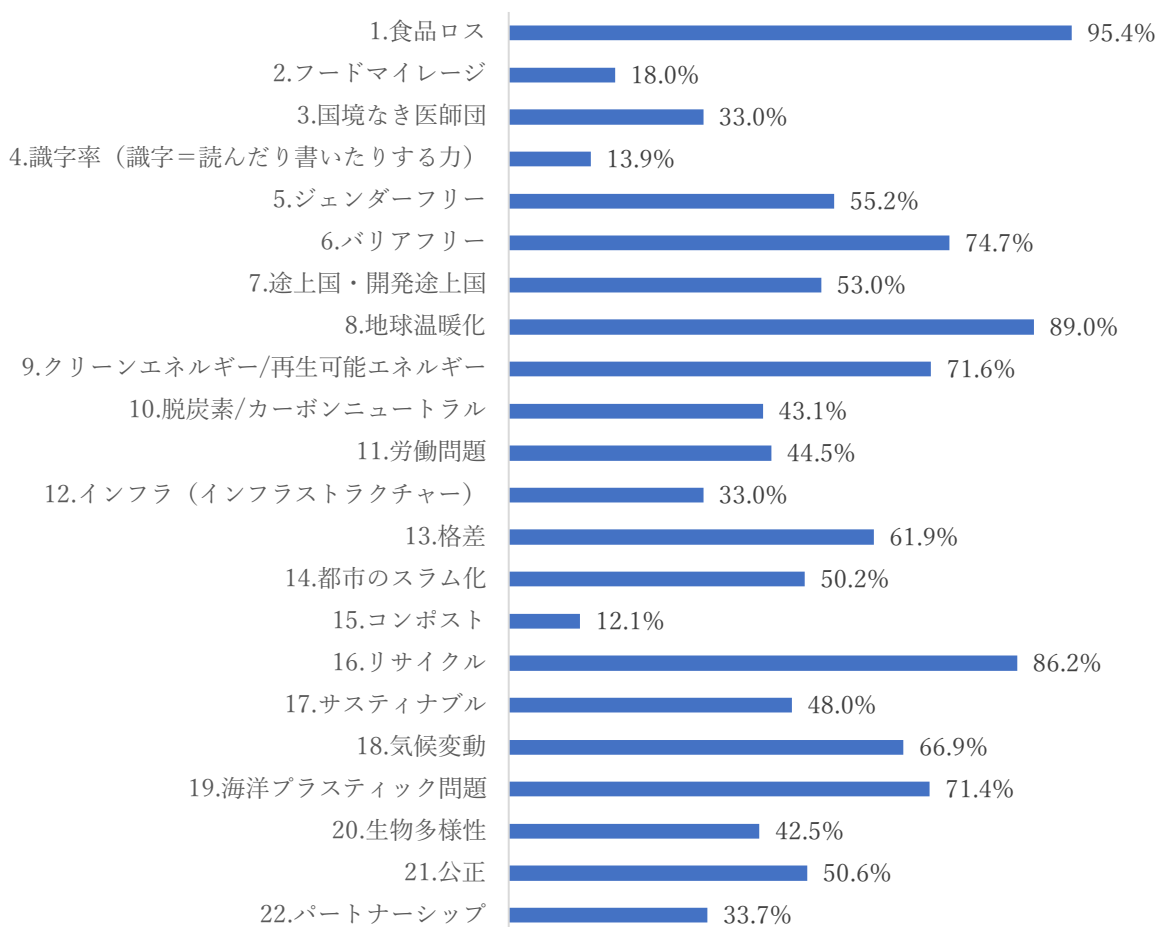


Q 11 上の質問で、選んだ目標とどんな点がつながっていると思いますか。またその理由は何ですか。（回答数 3,116 件）

[主な回答]

- ・義務教育のおかげで学校で教育を受けているから
- ・いじめや差別をなくそうとすることは人や国の不平等をなくすことにつながると思うから
- ・食べ物を残さずに食べれば飢餓をなくすことができると思うから
- ・安全な水とトイレは毎日使うものだから
- ・電気をこまめに消したりエアコンを使いすぎないようにすればエネルギーを節約できて地球温暖化対策に貢献できると思うから
- ・買ったものを最後まで使う、リサイクル活動をする
- ・質の高い教育をすることで将来の経済発展に繋がると思う
- ・ポイ捨てをしなければ海や陸の豊かさを守れると思う
- ・授業や生活で色々な人と関わることが公正などとつながると思うから
- ・クラスみんなで力を合わせて目標を達成するから

Q 12 次の言葉はSDGsに関する言葉です。知っているものにチェックをして下さい。（複数回答可）

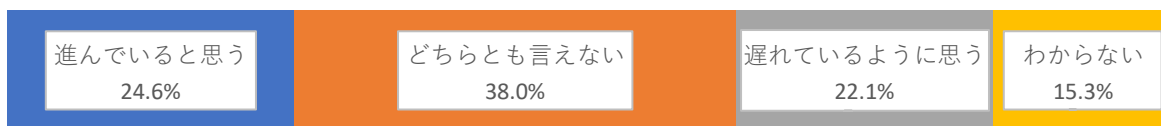


Q 13 上の質問にあった言葉のほかに、SDGsに関係すると思う言葉であなたが知っている言葉があれば書いてください。（回答数 1,024 件）

[主な回答]

3R、CO₂削減、LGBTQ、いじめゼロ、エコバック、エシカル、オゾン層破壊
バイオ燃料、フェアトレード、マイクロプラスチック、ユニセフ、海面上昇
海洋汚染、環境破壊、省エネ、森林伐採、人権・人種差別、貧困、少子高齢化
節電・節水、大気汚染、電気自動車

Q 14 日本のSDGsの取組みは世界の中で進んでいると思いますか。



Q 15 上の質問であなたがそのように思った理由を書いて下さい。（回答数 4,179 件）

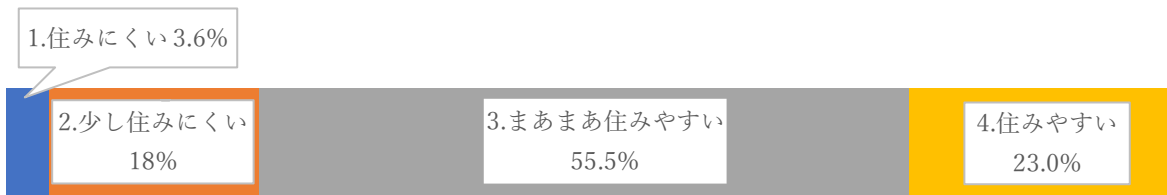
[主な回答]

進んでいると思う理由：テレビなどでSDGsの報道等をよく見る、エコバッグやマイボトル・紙ストロー等が普及してきた、リサイクルが進んでいる
SDGsを意識づける活動が増えた

遅れていると思う理由：SDGsについての報道等をあまり見ない、食品ロスが多い
ジェンダーへの理解が遅れている、ゴミが減らない
火力発電が多い

わからない理由：外国と比べて進み具合が不明、SDGsについてよく知らない
興味がない、できているものとできていないものがあると思う

Q 16 今の地球の住みやすさは4段階のうちどのくらいだと思いますか。
 (1は「住みにくい」、4は「住みやすい」)



Q 17 未来の地球の住みやすさは4段階のうちどのくらいだと思いますか。
 (1は「住みにくい」、4は「住みやすい」)



Q 18 未来の地球の住みやすさについて、あなたが上の答のように思う理由を書いて下さい。
 (回答数 4,251件)

[主な回答]

住みにくい理由：地球温暖化が進む、災害や異常気象が多くなる、環境問題が進む
 資源や食料が不足する、格差が広がる、物価・税金が高くなる
 人口増加・少子高齢化、ゴミが増える、戦争がなくなる

住みやすい理由：科学技術が発達する、AIが進化して生活が便利になる
 SDGsの目標が達成される、再生可能エネルギーが活用される
 世界中が環境問題を解決しようとしている

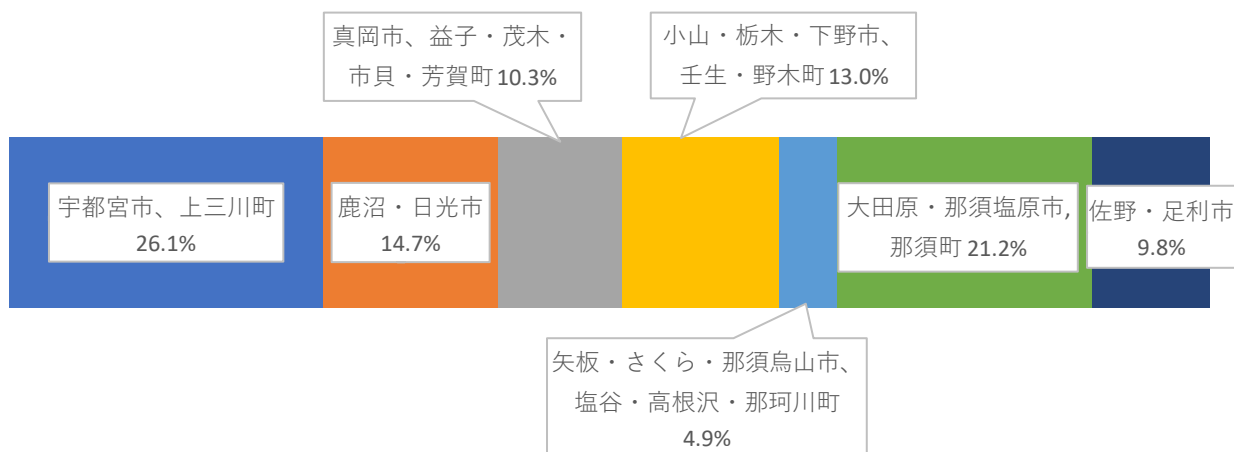
Q 19 SDGsに取り組むことで、地球の未来はどうなると思いますか。



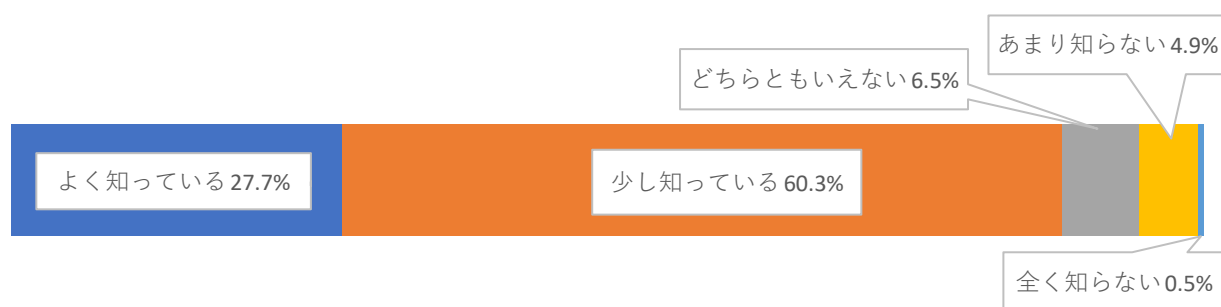
中学校教員 回答

回答教員数 184名

Q1 お勤めの学校はどこですか。



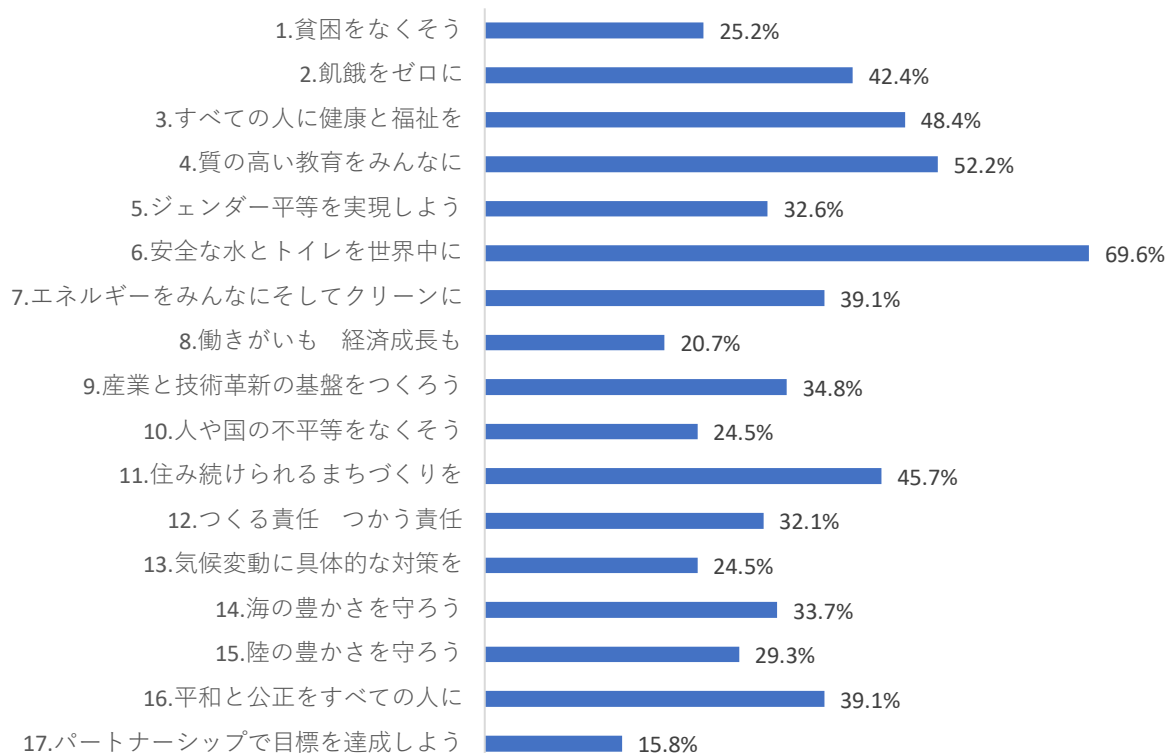
Q2 SDGsについてどれくらいご存知ですか。



資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

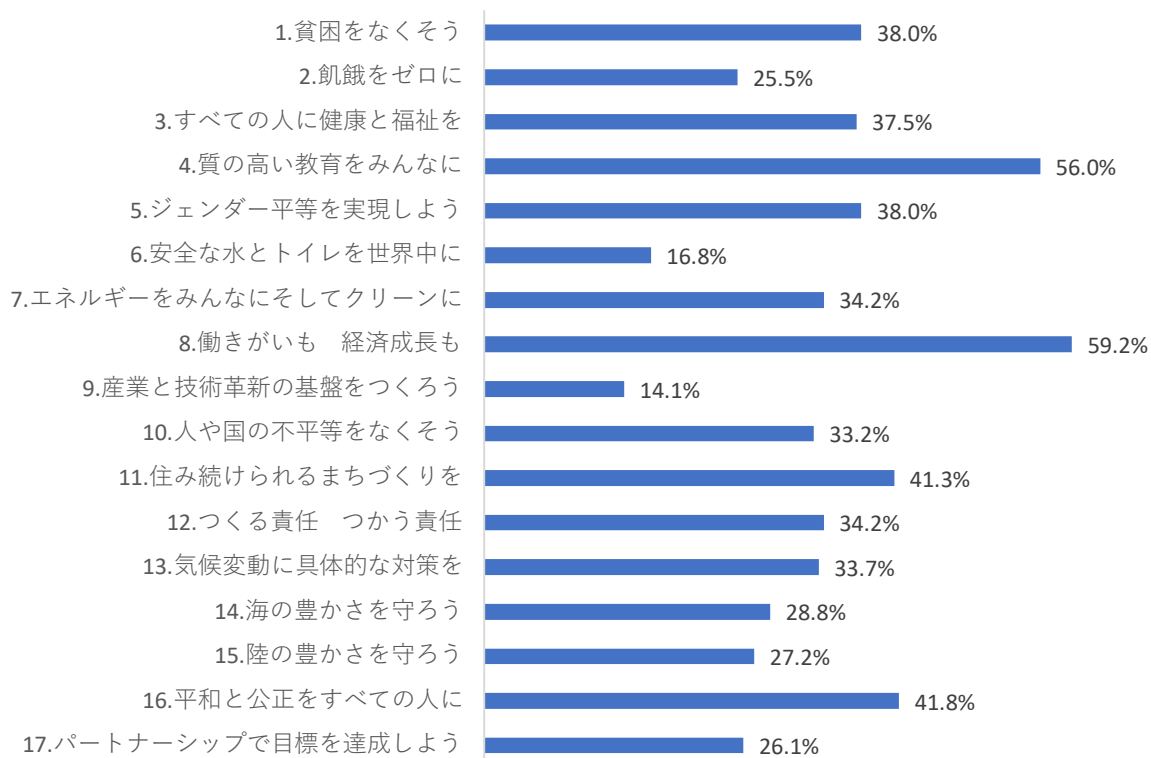
Q 3

SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。下の目標の中で、日本が日頃取り組んでいると思うものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）



資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

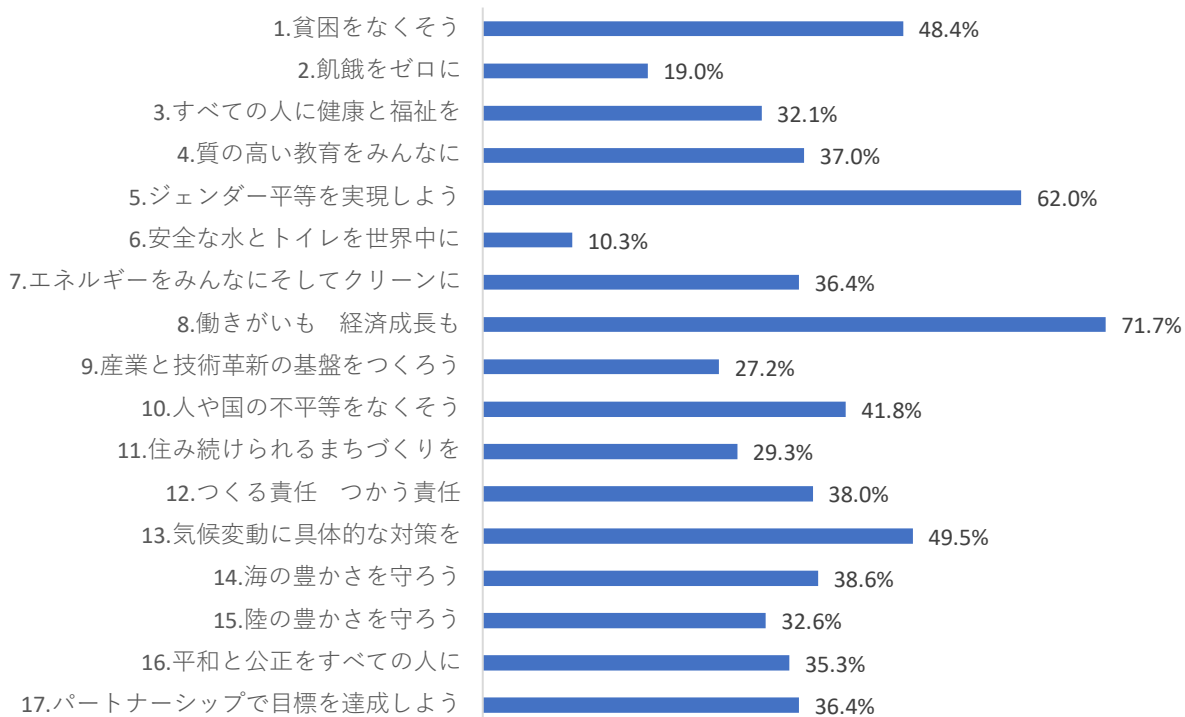
Q 4 SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。次の目標の中で特に気になるものものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）



資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

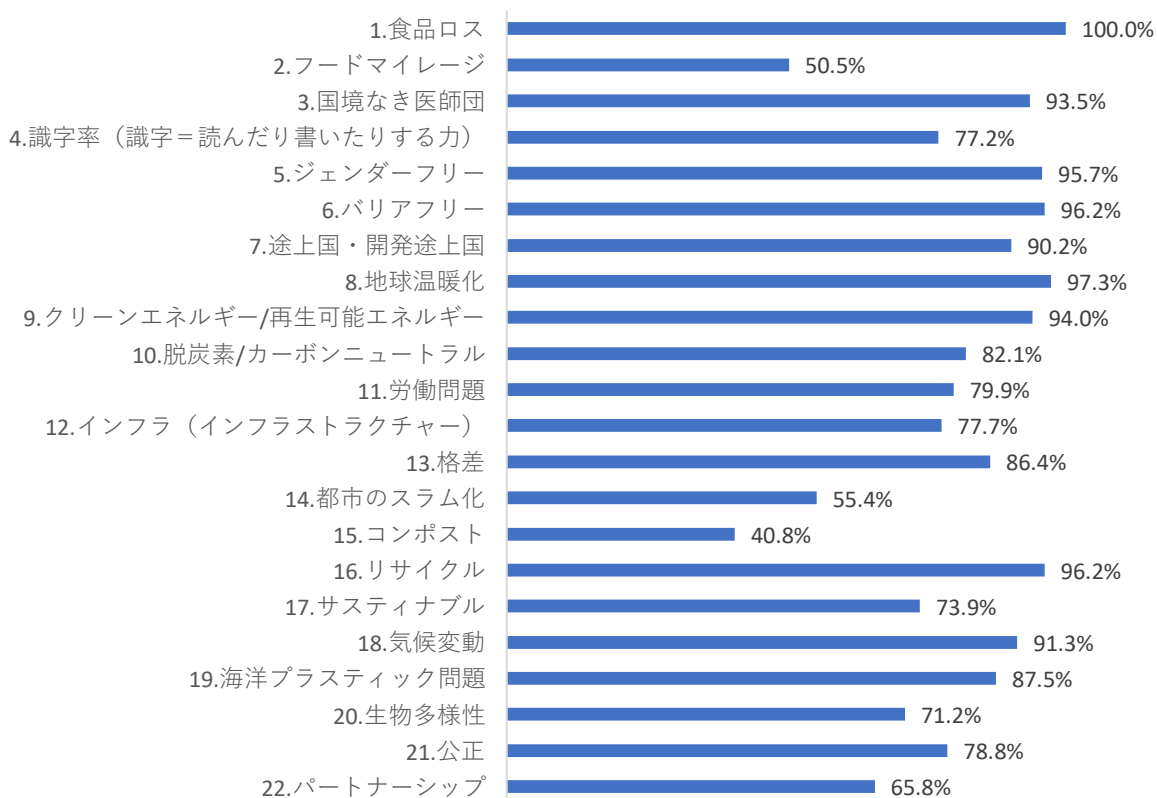
Q 5

SDGsとは「人が地球で暮らし続けていくために、2030年までにたどり着く17の目標」のことです。下の目標の中で、日本が達成できていないと思うものすべてにチェックをして下さい。（複数回答可）

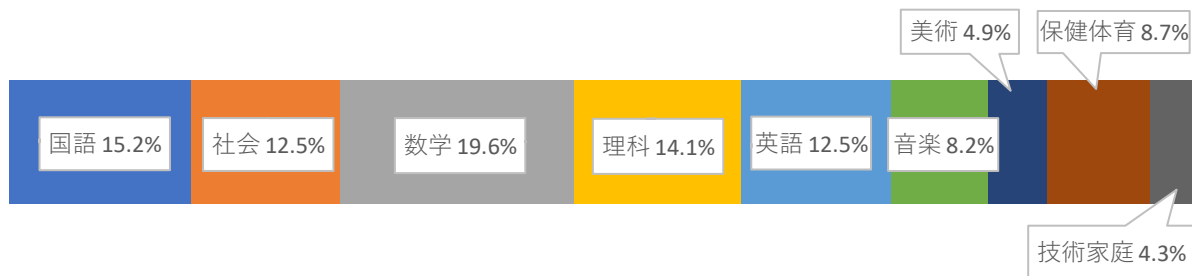


資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

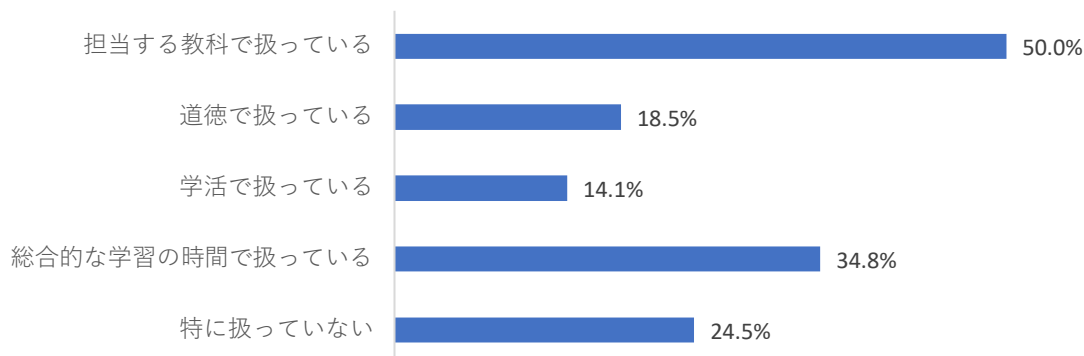
Q 6 次の言葉はSDGsに関する言葉です。ご存知のものをすべてチェックして下さい。（複数回答可）



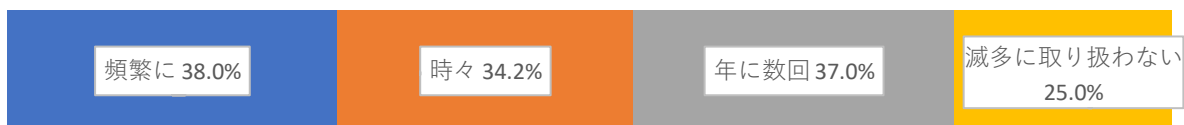
Q 7 担当教科をご回答ください。複数の場合、主なものにチェックして下さい。



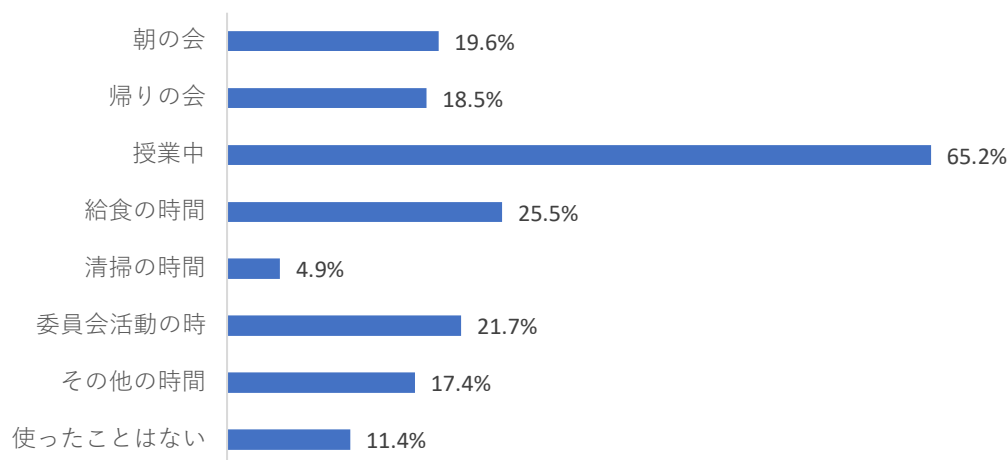
Q 8 SDGsを授業で扱っていますか。（複数回答可）



Q 9 SDG sを授業で扱う頻度はどれくらいですか。



Q 10 学校で生徒たちに「SDG s」という言葉を意図的に使ったことはありますか。それは、学校生活の中のどのような場面ですか。（複数回答可）



Q 11 これまでに行ったSDG sを取入れた授業や活動がありましたら、授業名や活動名、そのねらいやポイントを教えてください。（回答数 99 件）

[主な回答]

社会：公民の授業で扱った回答が多数。 国際社会が抱える課題、再生可能エネルギー、貧困等に関する内容、 持続可能な社会についてレポートにまとめて発表

理科：再生可能エネルギーや持続可能な社会を考えさせる内容、自然のもたらす恵みと災害について学ぶ内容、物質分野の実験においてマイクロスケール実験にすることで廃液を減らし環境を考える内容

道徳：医師の国際活動について学ぶ

英語：教科書でSDG sを扱う題材があるので関連ニュースとともに学ぶ、 SDG sの説明を英語で行いポスターを作成

総合的な学習の時間：地域についての探究活動、 SDG sについて調べることで解決への意欲をもたせる内容、 タブレットのスキル学習の題材としてSDG sを取り入れた、国際教育やユニセフや JICA について学ぶ、

給食の時間：残飯をゼロにする働きかけ、フードロスについて考える

その他：修学旅行、 足尾植樹、 中学生でできるSDG sについて学校祭で発表、 自分の住んでいる地域を知る学習、 校外学習や委員会で資源ゴミ回収活動、 学校行事でペットボトルキャップアート、 SDG sすごく

資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

Q 12 上記の授業や活動を行って、生徒のSDGsに対する意識や理解で感じたことを教えてください。（回答数 94 件）

[主な回答]

身近な問題と捉えることができた、 身近な問題と捉えることに悩んでいる
理解は深まるが実践まではいかない、 小学校の学習が基礎になっている
理解が浅い、 他教科との連携が図れた、 時間をかければ理解は深まる
調べるだけで終わってしまう、 家庭における生徒の変容は見られない
「持続可能」という言葉が聞かれる

Q 13 学校でSDGsを指導するためにはどんなことが必要だと思いますか。（回答数 119 件）

[主な回答]

- ・教員自身の理解の深まりとそのための時間
- ・事項以外の取り組み・授業指導案・実践例の提示
- ・リサイクルなどの日常の中での活動実践
- ・学校全体の教育計画や教科横断の取り組み
- ・教材や教育機器の整備、地域の企業等との連携

Q 14 今後、SDGsをどのように取り上げ、どのように深めさせていきたいか、お考えをお書きください。（回答数 104 件）

[主な回答]

- ・現場の改革（教えることが増えるのに予算や人員が不足、スクラップ&ビルド）
- ・カリキュラムマネジメントに位置付けること
- ・自分自身の力量を高めたい（ICTの使い方も）
- ・生徒に自分事としてとらえさせたい
- ・進路指導につながるものにしたい
- ・教材と教材研究にかけられる時間の不足
- ・世界的に取り組まなければならない

Q 15 SDGsに関する事で何かご意見があればご記入ください。（回答数 35 件）

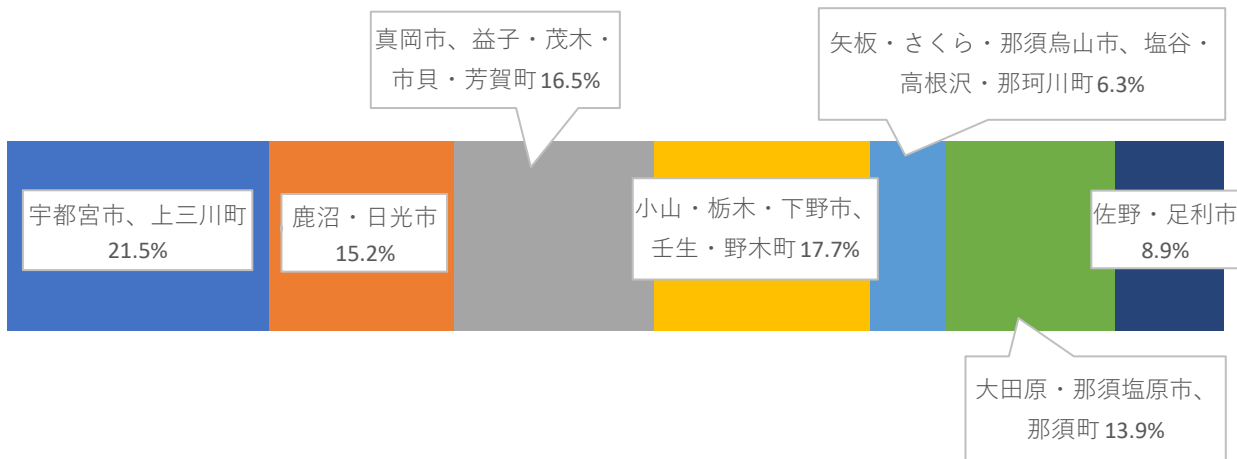
[主な回答]

- ・働き方改革を優先すべき
- ・教材研究をする時間が必要
- ・社会が、相反する様々な考えを認めている状況下で指導は難しい
- ・教育にも地域差がある
- ・うわべだけの教育にならないようしたい
- ・SDGsの取り組みには外国との差を感じる（日本の方が努力している）
- ・教員自身の理解度や本気度がまだのようだ
- ・他校の様子を知りたい
- ・研修が必要

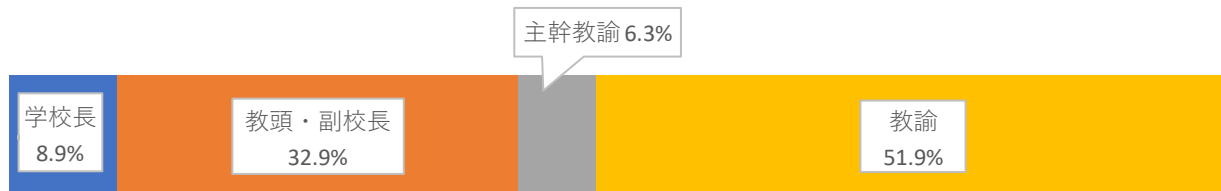
中学校 学校 回答

回答学校数 79 校

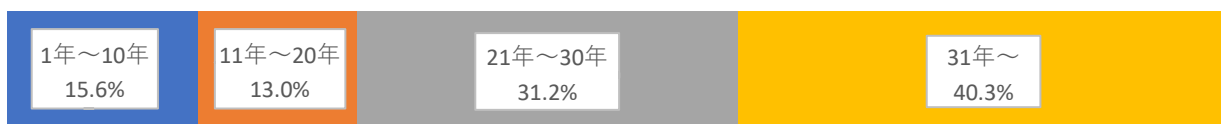
Q 1 御校のある地区はどこですか。



Q 2 このアンケートにご回答いただいている方の、職名をお答え下さい。



Q 3 このアンケートにご回答いただいている方の勤務年数をお答え下さい。



資料データ編【中学校（児童・教員・学校）】

Q 4 御校ではSDGsに関する指導について、校務分掌に位置付けられていますか。



Q 5 上の3の質問で「位置づけられている」と回答いただいた学校にお聞きします。位置付けられている分掌名をお書き下さい。

[主な回答]

環境教育（SDGs）、国際理解（SDGs）、人権教育、福祉教育、生徒指導、SDGsプロジェクトチーム、環境教育（SDGs推進）、地域連携教員、福祉担当、SDGs推進担当、研究主任、ESD総合的な学習の時間、生徒会

Q 6 SDGsと学校行事を関連させた取り組みを行っていますか。



Q 7 上の6の質問に、「行っている」と回答された学校にお聞きします。それはどのような取り組みですか。行事名などでお答え下さい。（回答数39校）

[主な回答]

資源物・リサイクル回収、総合的な学習の時間、修学旅行・遠足
学校祭・体育祭、生徒会活動、地域ボランティア活動、学習発表会

Q 8 SDGsに関する内容を取り扱う場合、学校として困難な点があったらお書き下さい。（回答数37校）

[主な回答] 回答数37校

- ・準備時間が足りない
- ・カリキュラムの位置付けがない
- ・見学先・研修先がない
- ・自分事として受け止める工夫
- ・教科の偏りがある
- ・リサイクル品の送料や手数料がかかる
- ・17の目標が広すぎる、資料や理解の不足
- ・研究モデル校で時間がない
- ・既存の活動との両立
- ・深まりが難しい
- ・理論は容易でも実践が難しい
- ・特になし

Q 9 SDG s に関する内容を扱ったことがある場合、学校としてよかった点はどんなところかお書き下さい。(回答数 43 校)

[主な回答]

- ・生徒の変容（態度・考え方・視野・意識）
- ・世界の課題が身近になった
- ・地域への意識の変化
- ・身の回りから始めるようになった
- ・先生方の意識が変わった
- ・環境への意識の変化
- ・持続可能の視点を持った
- ・ジェンダーに悩む生徒の助けになった
- ・特になし

Q 10 SDG s の指導に関する取り組みについて、上の回答以外にご意見がありましたら、お書き下さい。(回答数 30 校)

[主な回答]

- ・活動事例を提示してほしい
- ・発達段階に応じた指導を示してほしい
- ・指導案はあるが公的で体系的なものがない
- ・国民への啓発活動が望ましい
- ・教員の負担を増やさず行うことが必須
- ・ポイントを絞って取り組む
- ・取り組みやすい教科がある
- ・教科が限定されてしまう
- ・教員の研修が必要
- ・特になし

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 資料データ編
高等学校

一般財団法人栃木県連合教育会

令和6年9月

SDGsの視点からの学習活動研究部会 アンケート回答結果

このアンケートは令和5年度に実施したものです。

県内の多くの学校、教員の方々、児童・生徒の皆さんからご回答いただきました。

この回答結果には質問項目すべてが入ってはおりません。回答頂いた学校や個人が特定されるおそれのある部分は省きました。また自由記述回答のうち回答数が多く掲載しきれないものは省きました。

- ・アンケート期間 令和5年6月13日～7月7日
- ・調査対象 県内小・中・高校・特別支援学校とその学校の教員、児童・生徒
- ・調査方法 高等学校はMicrosoft Forms、小・中学校はGoogle フォームを使用。
特別支援学校はGoogle フォームと質問用紙を使用。

[回答結果]

小学校

回答児童数 5, 397名 回答教員数 534名 回答学校数 205校

中学校

回答生徒数 4, 982名 回答教員数 184名 回答学校数 79校

高等学校

回答生徒数 1, 482名 回答教員数 105名 回答学校数 29校

特別支援学校

回答児童生徒数 61名 回答教員数 30名 回答学校数 8校

合計児童生徒数 11, 922名

合計教員数 852名

合計学校数 321校

※この結果についてのお問合せは下記にお願いいたします。

栃木県連合教育会 研究担当

TEL 028-621-7216

Email kenkyu@tochigi.rk.jp

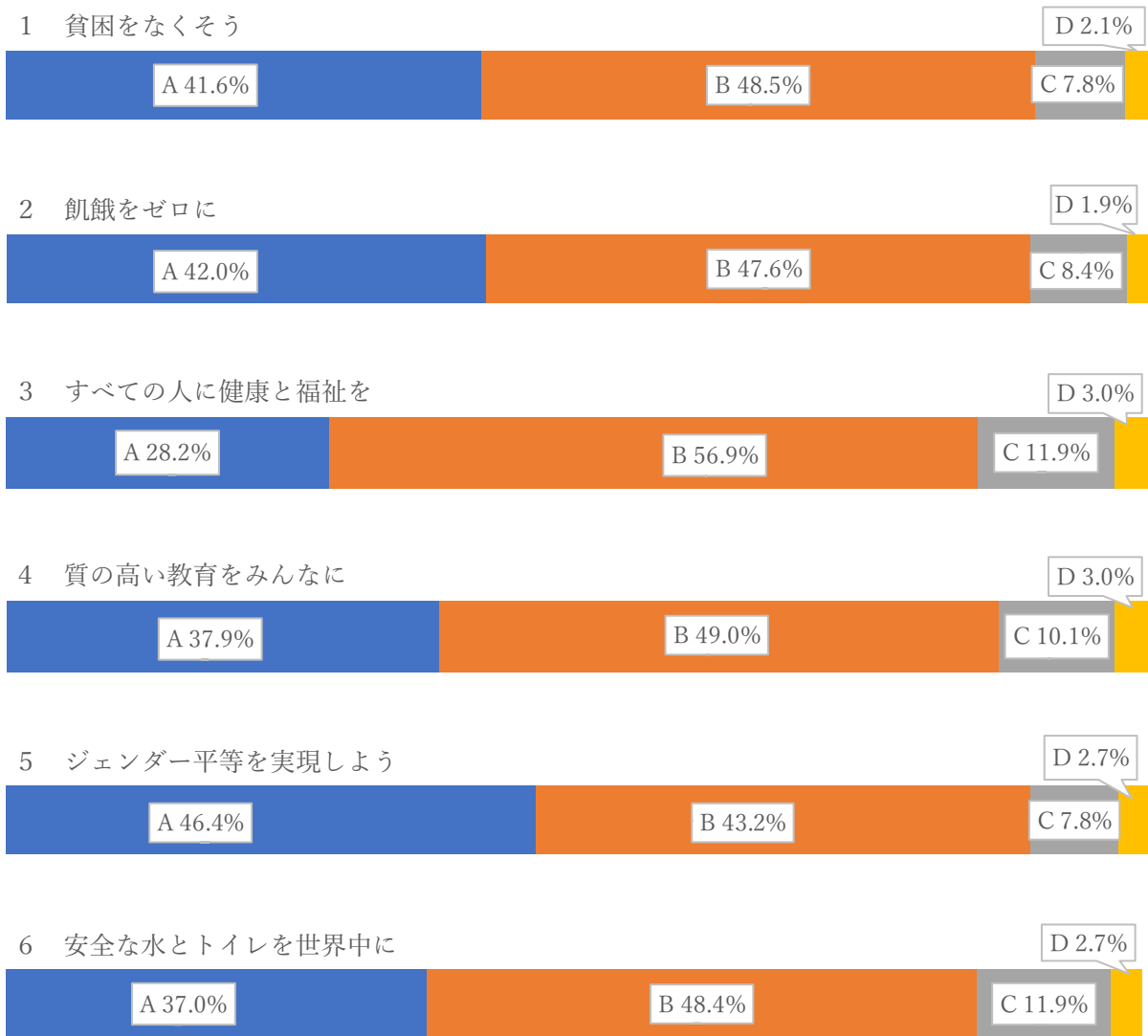
高等学校 生徒 回答

回答生徒数 1,482 名

Q 1 あなたの学校のある、市や町は次のうちのどこですか一つ選んでください。
回答結果は省略します。

Q 2 下の1～17の目標は、SDGsで掲げられているものです。それぞれの目標について、あなたの状況はA～Dのどれですか。最も近いものにチェックを入れてください。

- A これがSDGsの目標に入っていて、どのような課題があるかも知っている
- B これがSDGsの目標に入っていることを知っている
- C このテーマがあるということを見たり聞いたりしたことがある
- D このテーマについて、今初めて知った



資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】

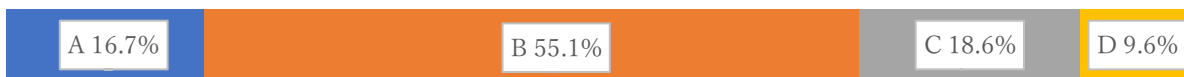
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



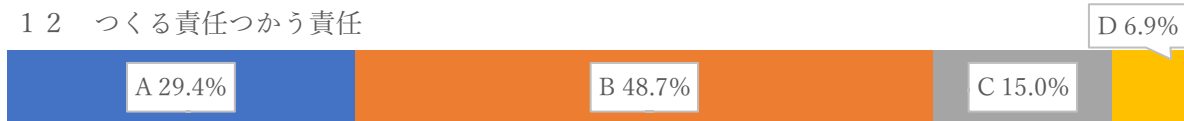
10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】

16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



Q 3 次にあげる用語について、あなたの状況はA～Dのどれに近いですか。最も近いものにチェックを入れてください。

- A この用語を知っていて、友人や家族に簡単に説明ができる
- B この用語を知っていて、何となくわかる
- C このテーマがあるということを見たり聞いたりしたことがある
- D この用語を今はじめて見た

地球温暖化



IPCC



3R



カーボンニュートラル



持続可能な開発



資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】

ジェンダーフリー



バリアフリー



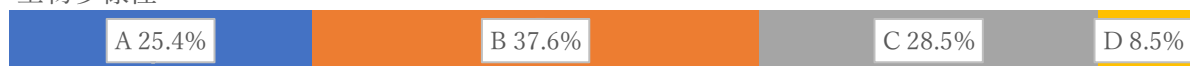
フードロス



マイクロプラスチック



生物多様性



生涯学習



クリーンエネルギー



食品ロス



フードマイレージ



資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】

国境なき医師団



識字率（識字＝読んだり書いたりする力）



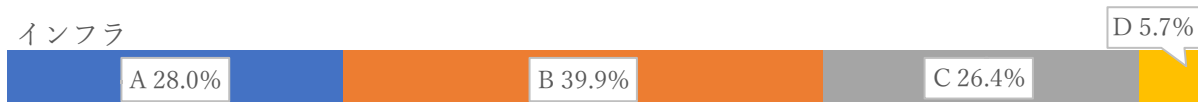
開発途上国



労働問題



インフラ



格差



Q 4 上の質問の中にある用語の他に、あなたが知っているSDGsに関する言葉があれば書いてください。（回答数 165 件）

[主な回答]

LGBTQ、持続可能、再生可能エネルギー、ジェンダー、貧困
 水質汚染、地球温暖化、フードロス
 その他（フェアトレード、オゾン層、エコバッグ、プラごみ、海面上昇
 差別、マイノリティ）

※回答で最も多かったのは「なし」「特になし」「わからない」などの回答

Q 5 今の地球の住みやすさは5段階のうちどのくらいだと思いますか。
 (1.住みにくい～ 5.住みやすい)

資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】



Q 6 そのように考えた理由を教えてください。(回答数 1,479 件)

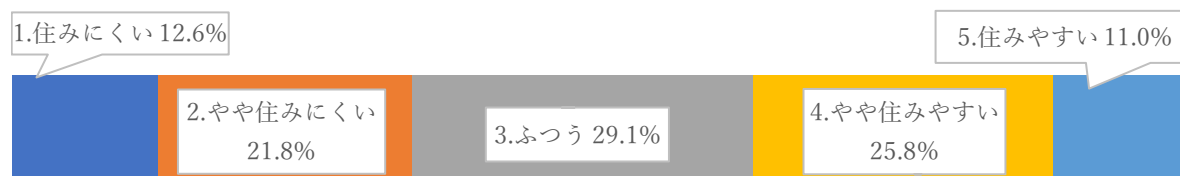
[主な回答]

住みにくい理由：地球温暖化、 災害や異常気象、 格差、 戦争、 税金が高い

住みやすい理由：技術が発達している、 今のところ不自由がない、 便利

Q 7 未来の地球の住みやすさは5段階のうちどのくらいだと思いますか。

(1. 住みにくい～ 5. 住みやすい)



Q 8 そのように考えた理由を教えてください。(回答数 1,479 件)

[主な回答]

住みにくい理由：地球温暖化、 環境問題、 少子高齢化、 格差、 戦争、 物価高騰

住みやすい理由：AI や技術の進歩、 SDG s の実現、 医療の発達

Q 9 日本のSDG s の取組みは世界の中で進んでいると思いますか。



資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】

Q 10 上の質問で、回答した選択肢を選んだ理由を書いて下さい。（回答数 1,041 件）

[主な回答]

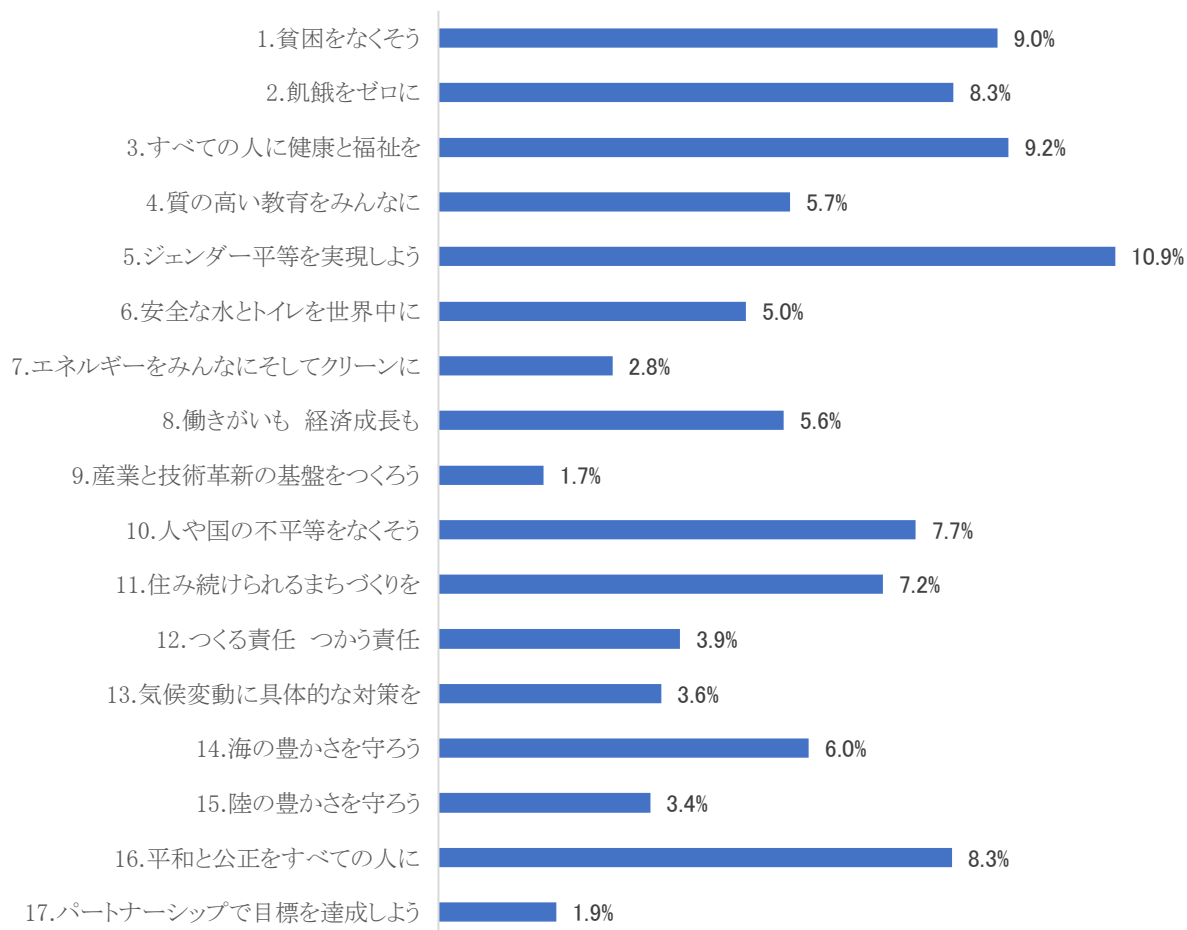
- ・他の国のSDGsの取り組み具合がわからない
- ・意識の差、実践の差が感じられる
- ・テレビやSNSでよくSDGsについて聞く
- ・ジェンダーレスやフードロスが遅れている
- ・どのくらいまでやれば達成となるのか基準が分からない
- ・SDGsに取り組んでいるお店が増えてきていると思う

Q 11 SDGsに取り組むことで、地球の未来はどう変わるとお考えですか。最も近いものにチェックを入れてください



Q 12 次のSDGsの目標の中で、あなたが将来特に関わっていききたいと思う目標を選んで、チェックして下さい。（最大3つまでにして下さい。）

資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】



高等学校 教員 回答

回答数 105名

Q 1 あなたの学校のある、市や町はどこですか。

回答結果は省略します。

Q 2 ご担当の教科は何ですか。複数の場合主なものにチェックして下さい。

回答結果は省略します。

Q 3 先生の勤務年数についてご回答下さい。

回答結果は省略します。

Q 4 今までにSDGsを取入れた授業や活動をされましたか。



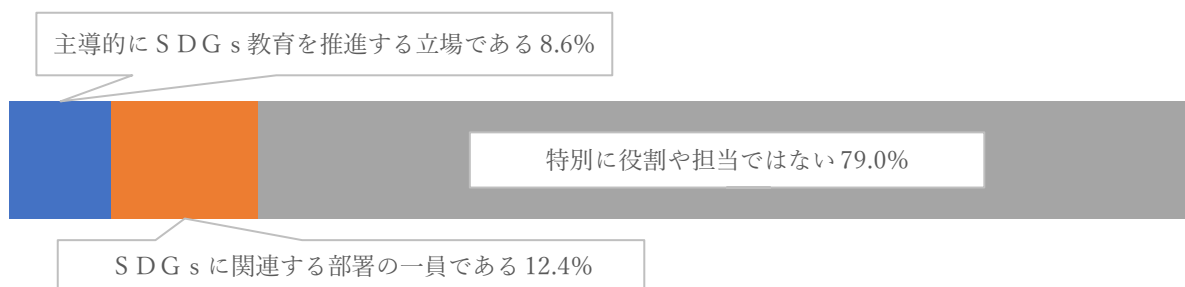
Q 5 上の質問で「したことがある」と回答された先生にお聞きします。それはどんな授業または活動ですか。教えてください。（回答数 41 件）

[主な回答]

授業：総合的な探究の時間、 現代社会、 産業社会と人間、 食品流通、 保健
地理、 ビジネス基礎、 英語、 課題研究、 小論文

活動：文化祭、 LHR、 地域の川の清掃活動、 SSHS事業の中、 古着の回収
SDGsに取り組む企業の調査

Q 6 学校内でSDGsに関連する役割として次のうちどれでしょうか。



Q 7 SDGsの目標を、授業と関連付けて扱う頻度は次のどれですか。



Q 8 上の質問で「頻繁に」と回答された先生にお聞きします。扱う内容を教えてください。

(回答数 1 件)

総合的な探究の時間での課題研究

Q 9 SDGsの目標を授業以外で扱う頻度は次のどれですか。



Q 10 上の質問で「頻繁に」と回答された先生にお聞きします。扱う内容を教えてください。

(回答数 1 件)

家事

Q 11 下の1～17の目標はSDGsで掲げられているものです。それぞれの目標について、あなたの状況はA～Dのどれですか。最も近いものにチェックを入れてください。

- A これがSDGsの目標に入っていて、どのような課題があるかも知っている
- B これがSDGsの目標に入っていることを知っている
- C このテーマがあるということを見たり聞いたりしたことがある
- D このテーマについて、今初めて知った

1. 貧困をなくそう



2. 飢餓をゼロに



3. すべての人に健康と福祉を



4. 質の高い教育をみんなに



5. ジェンダー平等を実現しよう



6. 安全な水とトイレを世界中に



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに



資料データ編【高等学校（児童・教員・学校）】

8.働きがいも経済成長も



9.産業と技術革新の基盤をつくろう



10.人や国の不平等をなくそう



11.住み続けられるまちづくりを



12.つくる責任つかう責任



13.気候変動に具体的な対策を



14.海の豊かさを守ろう



15.陸の豊かさを守ろう



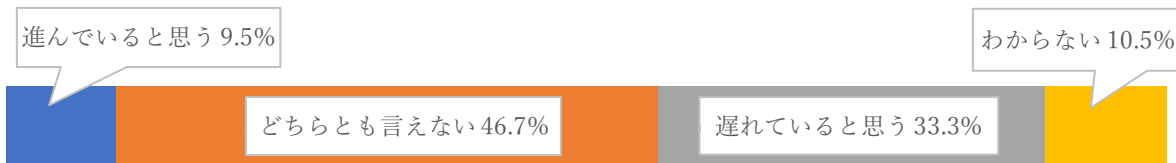
16.平和と公正をすべての人に



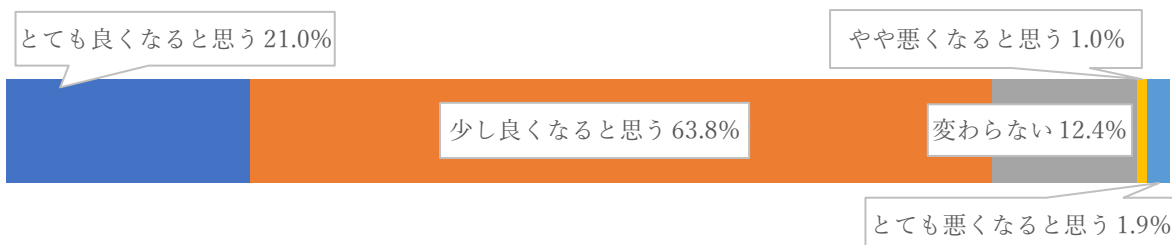
17. パートナーシップで目標を達成しよう



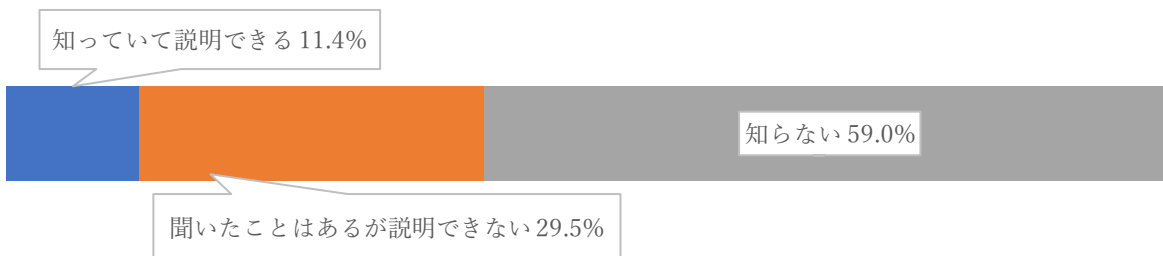
Q 12 日本のSDGsの取組みは、世界の中で進んでいると思いますか。



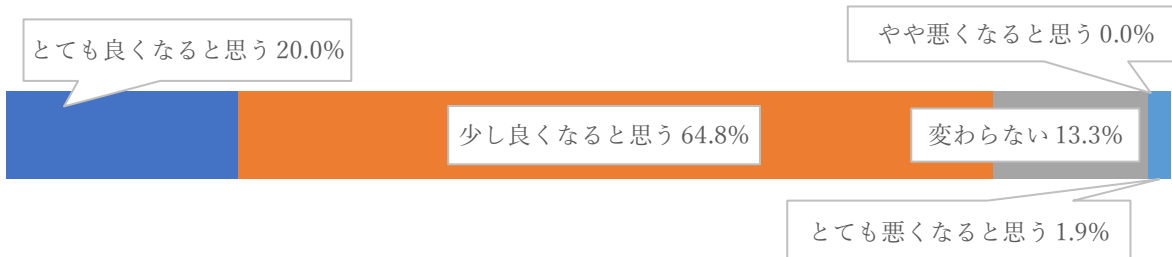
Q 13 SDGsに取り組むことで、地球の未来はどう変わると思いますか



Q 14 SDGsについてはどれくらいご存知ですか。



Q 15 ESDは、Educational for Sustainable Development の略で「持続可能な社会の創り手を育む教育」のことです。ESDに取り組むことで地球の未来はどうなると思われますか。



高等学校 学校 回答

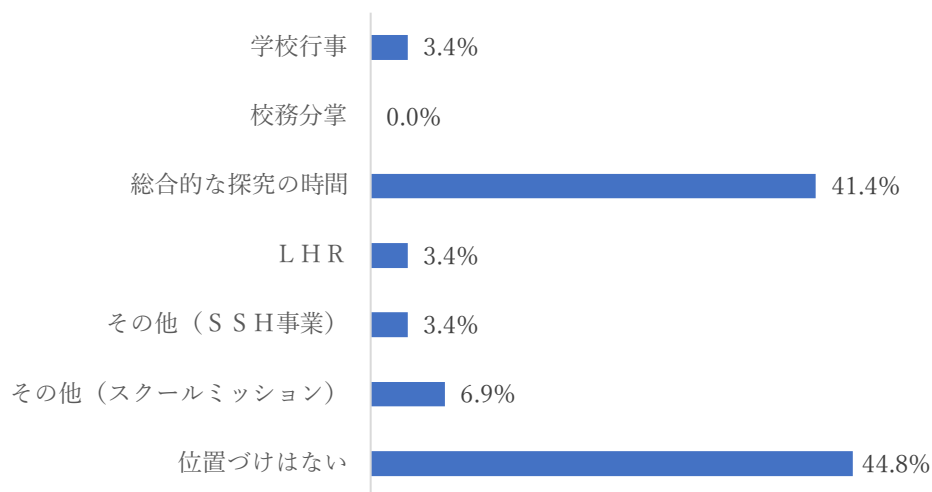
回答数 29 校

Q 1 御校の所在地の地区はどこですか。
回答結果は省略します。

Q 2 ご回答頂いている方の職名をお答え下さい。
回答結果は省略します。

Q 3 ご回答頂いている方の勤務年数をお答え下さい。
回答結果は省略します。

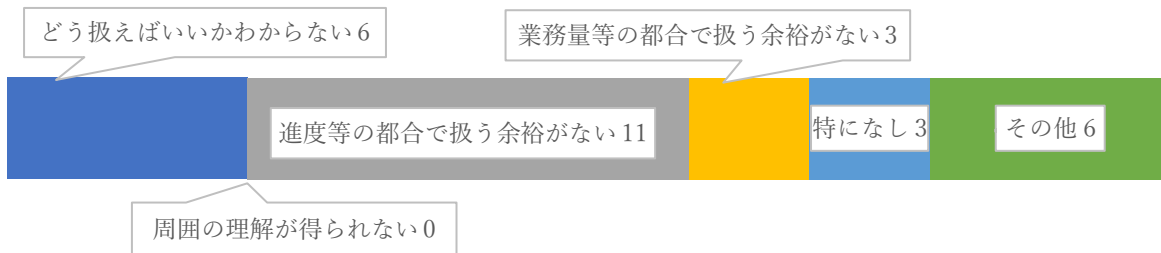
Q 4 御校ではSDG sに関する指導について、学校全体のどこに位置付けられていますか



Q 5 Q4 の回答で「校務分掌」にチェックした学校の方は、分掌名をご記入下さい。
「校務分掌」にチェックした学校はないため省略します。

Q 6 Q4 の回答で「学校行事」にチェックした学校の方は、行事名をご記入下さい。
(回答数 1 件)
他の学校との交流会

Q 7 御校で、SDG sに関する内容を扱う場合に、学校として困難な点はどのようなことでしょうか。（数字は回答数）



Q 8 御校でSDG sにする内容を扱ったことがある場合、学校として良かった点はどんなところですか。（回答数 20 件）

[主な回答]

- ・ 生徒のSDG sに対する意識や取り組みに対して向上しようとする姿勢が見られた。
- ・ 環境教育や国際理解の学習に深まりが見られた。
- ・ 個人から集団を意識するようになった。
- ・ 時代とか、地球全体とかという大きな視点を持つようになった。
- ・ 地域交流を通して地域活性化の姿勢が見られた。

Q 9 その他、SDG sの指導に関する取り組みやご意見をお書き下さい。（回答数 22 件）

[主な回答]

- ・ SDG s カードゲーム、SDG s に関する動画視聴後、新聞記事を活用し、SDG s について学習を行った。
- ・ 本校独自の探究冊子を作成し、チェンジメーカーを目指して世の中の課題解決を自分ごととして捉えている。
- ・ フードバンクボランティアや節電のお願いなど、校内外で家庭クラブが取り組んでいる。
- ・ 課題研究を進める際にご協力いただける行政機関、企業、大学、研究所等の情報がほしい。
- ・ 県内外の他校での取り組みや参考になる事例を知りたい。
- ・ 女性の自立をSDG sに関連させた授業の際、興味深く取り組んだ。
- ・ 諸外国の問題を身近に感じられるようなSDG sの事例が効果あり。
- ・ 生徒たちと今後の課題に目を向け、「粘り強さ」が大切。目に見る結果に焦ることなく、考えさせたい。
- ・ 探究活動をする前に、外部講師からの講話を依頼している。
- ・ 普段の活動がSDG sに繋がることはあると思いますが、SDG sを全面に出して学校として動くことはない。
- ・ 学校任せだと、業務に追われてなかなか実行できない。日常生活指導の中で取り入れることが効果的ではないか。
- ・ 総合的な探求の時間で扱いたいですが、生徒全員に端末の配備がなく、困難を感じる。

SDGsの視点からの学習活動研究部会 研究活動記録

中間報告書 資料データ編
特別支援学校

一般財団法人栃木県連合教育会
令和6年9月

SDGsの視点からの学習活動研究部会 アンケート回答結果

このアンケートは令和5年度に実施したものです。

県内の多くの学校、教員の方々、児童・生徒の皆さんからご回答いただきました。

この回答結果には質問項目すべてが入ってはありません。回答頂いた学校や個人が特定されるおそれのある部分は省きました。また、自由記述回答のうち回答数が多く掲載しきれないものは省きました。

- ・アンケート期間 令和5年6月13日～7月7日
- ・調査対象 県内小・中・高校・特別支援学校とその学校の教員、児童・生徒
- ・調査方法 高等学校はMicrosoft Forms、小・中学校はGoogle フォームを使用。
特別支援学校はGoogle フォームと質問用紙を使用。

回答結果

小学校

回答児童数 5,397名 回答教員数 534名 回答学校数 205校

中学校

回答生徒数 4,982名 回答教員数 184名 回答学校数 79校

高等学校

回答生徒数 1,482名 回答教員数 105名 回答学校数 29校

特別支援学校

回答児童生徒数 61名 回答教員数 30名 回答学校数 8校

合計児童生徒数 11,922名

合計教員数 852名

合計学校数 321校

※この結果についてのお問合せは下記にお願いいたします。

栃木県連合教育会 研究担当

TEL 028-621-7216

Email kenkyu@tochigi.rk.jp

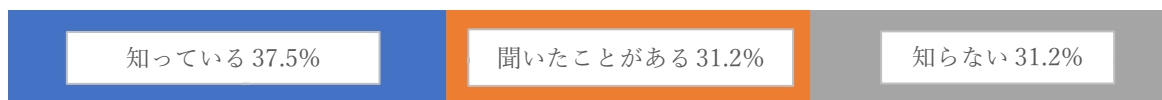
特別支援学校 児童・生徒 回答

※ 小学部・中学部・高等部いずれも学校名や学部・学年などの質問・回答は省きました。

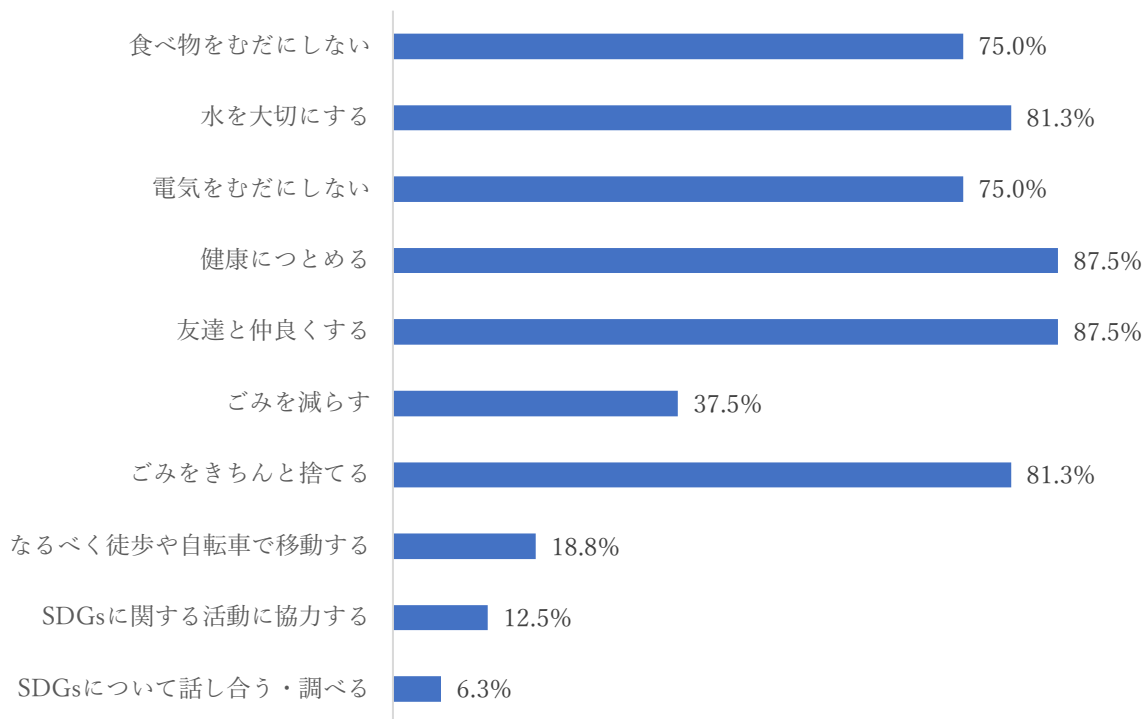
小学部

回答者 16名

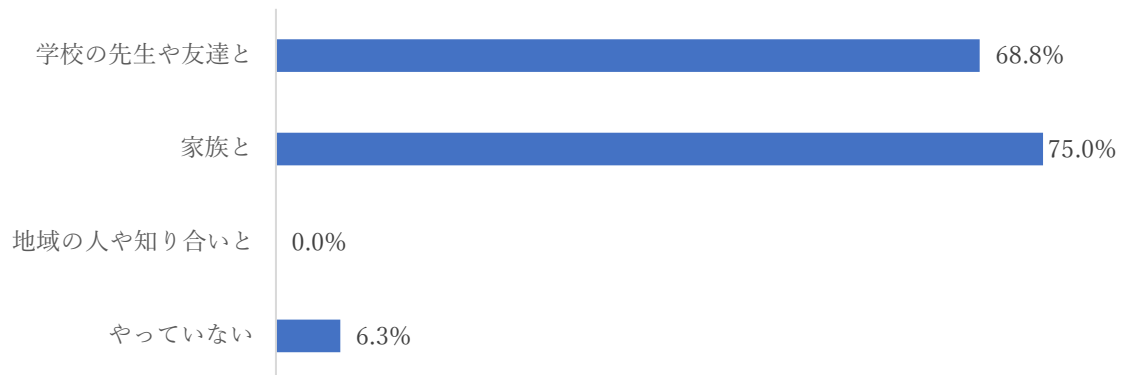
Q 4 SDGsという言葉を知っていますか。



Q 5 SDGsのとりくみで、あなたがやったことのあるものはどれですか。あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）



Q 6 SDG s のとりくみは、だれとやっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。
(複数回答可)



Q 7 SDG s のとりくみをこれからも続けていこうと思いますか。



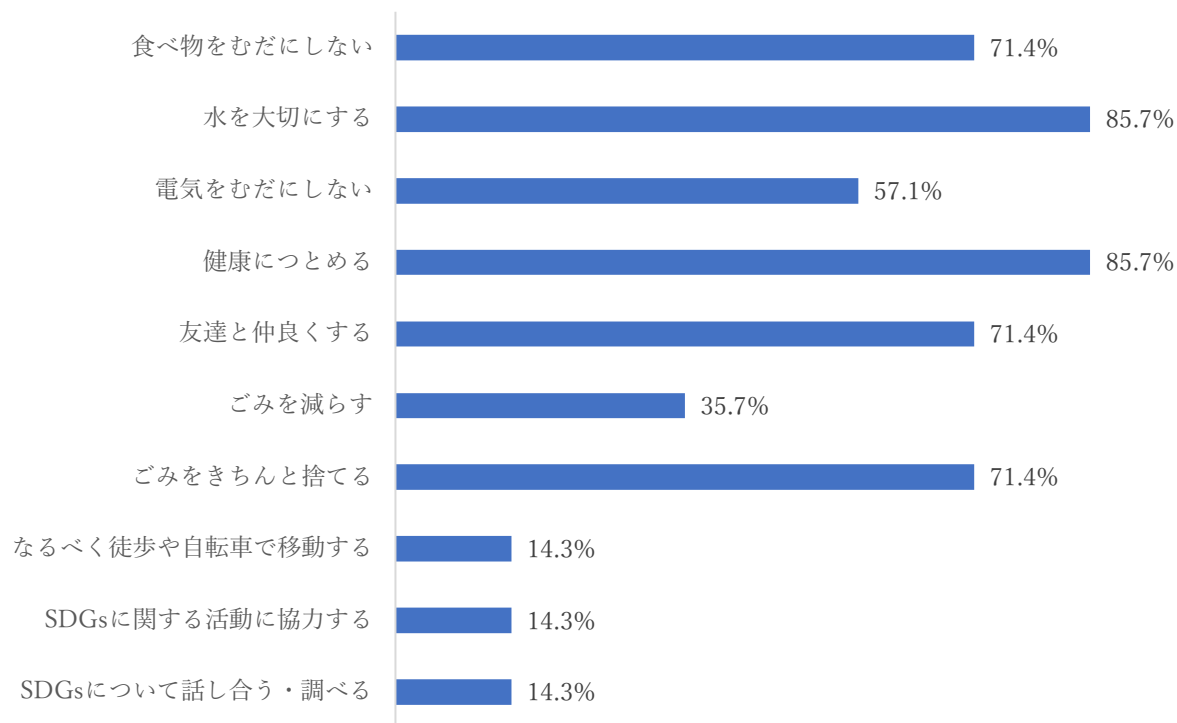
中学部

回答者 14名

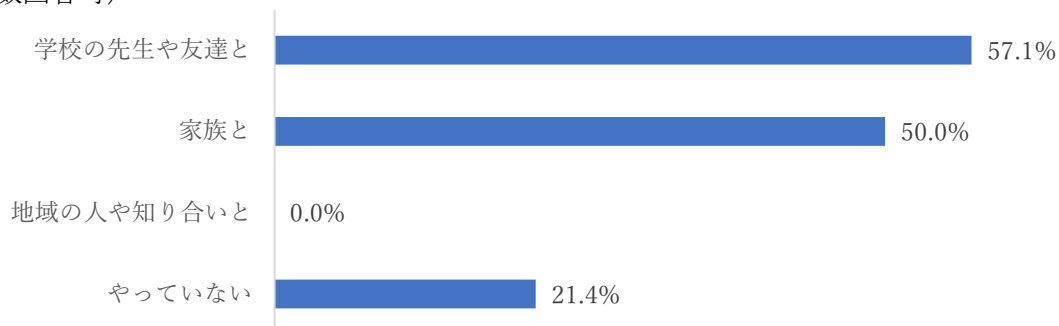
Q 2 SDGsという言葉を知っていますか。



Q 3 SDGsのとりくみで、あなたがやったことのあるものはどれですか。あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）



Q 4 SDGsのとりくみは、だれとやっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）



資料データ編【特別支援学校（児童・教員・学校）】

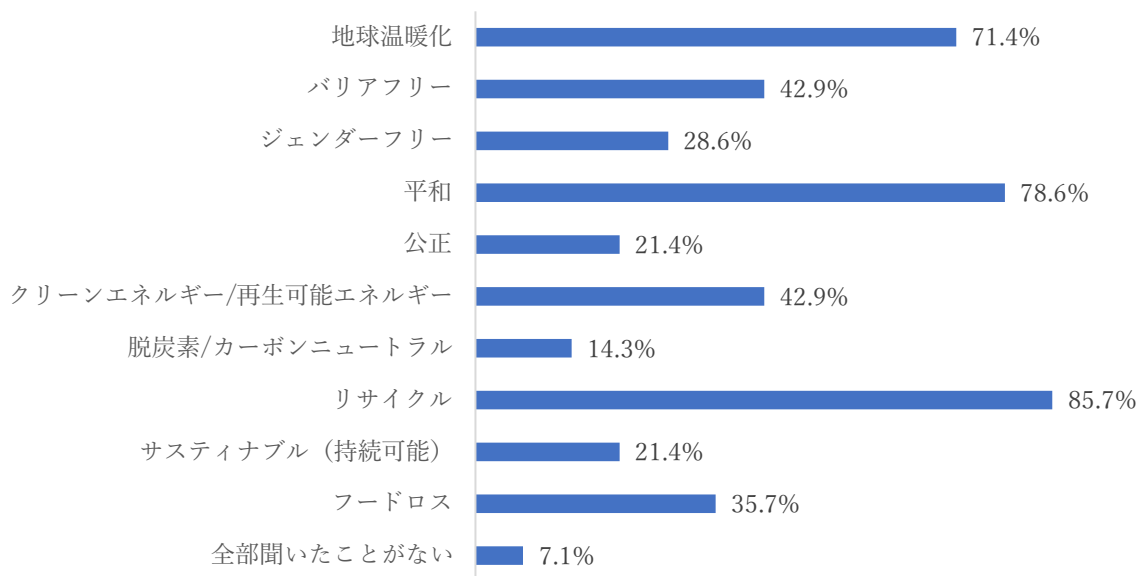
Q 5 SDGsのとりくみをこれからも続けていこうと思いますか。



Q 6 あなたは地球の未来が心配になることがありますか。



Q 7 次の言葉で聞いたことがあるものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



Q 8 今、自分が住んでいる市や町は住みやすいですか。



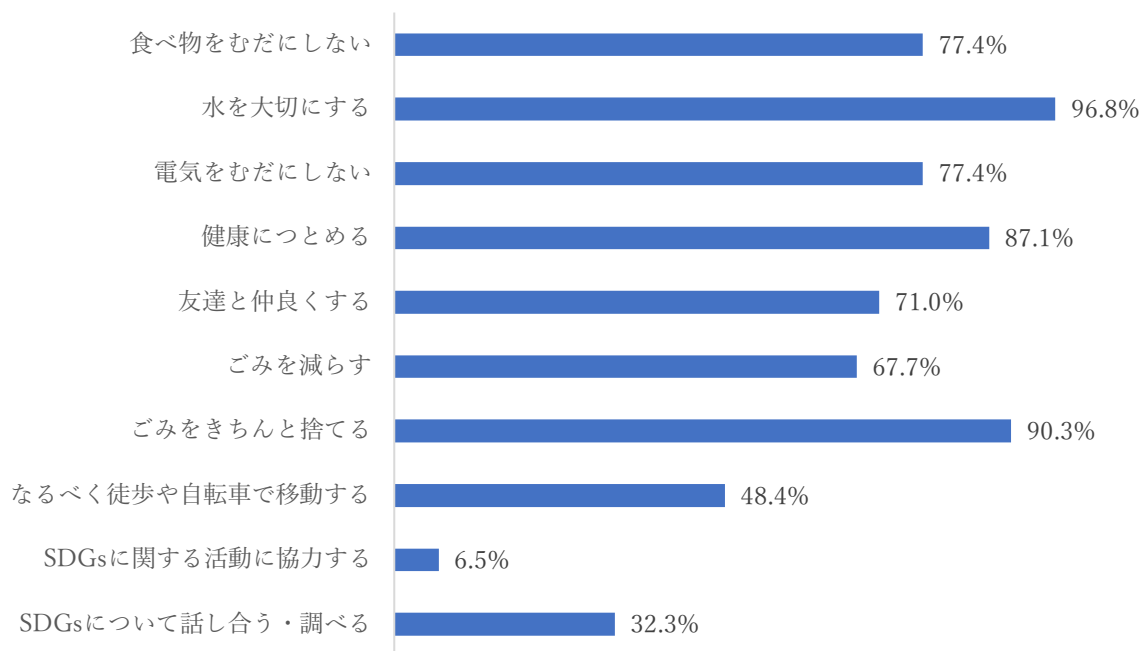
回答者 31名

高等部

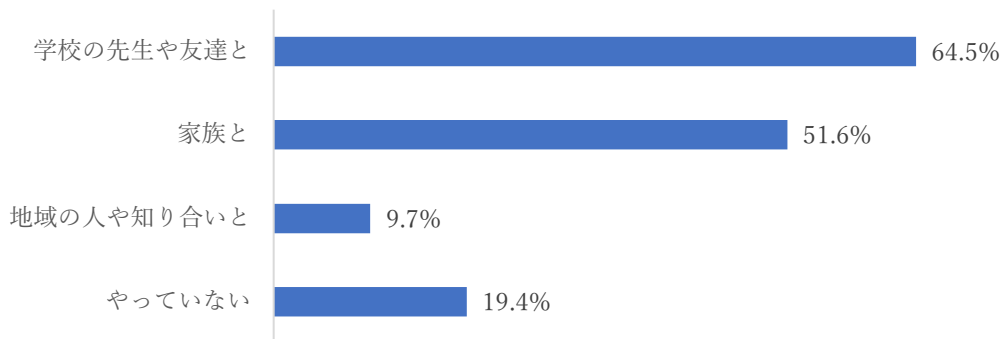
Q 2 SDGsという言葉を知っていますか。



Q 3 SDGsのとりくみで、あなたがやったことのあるものはどれですか。あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）



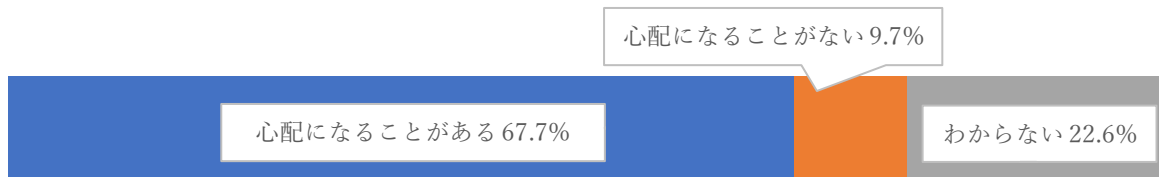
Q 4 SDGsのとりくみは、だれとやっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。（複数回答可）



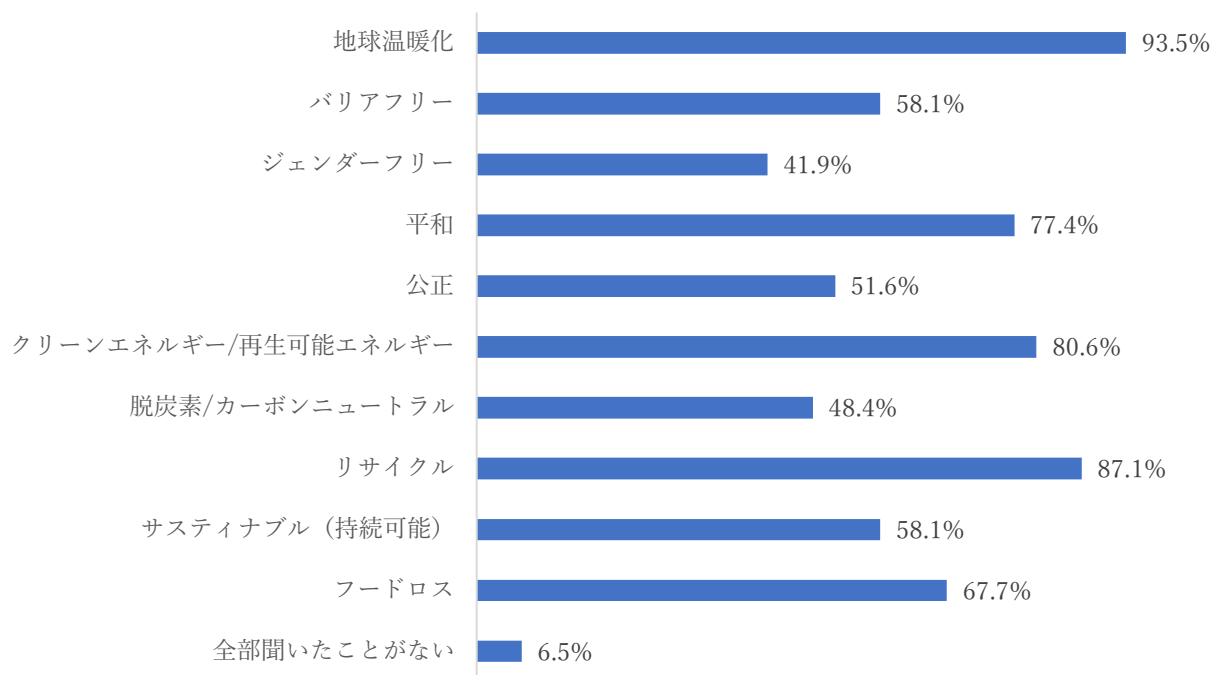
Q 5 SDG s のとりくみをこれからも続けていこうと思いますか。



Q 6 あなたは地球の未来が心配になることがありますか。

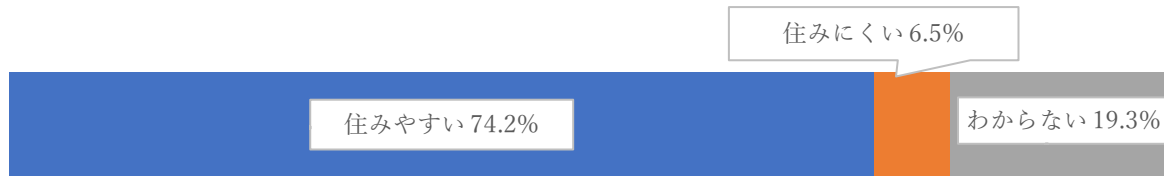


Q 7 次の言葉で聞いたことがあるものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



資料データ編【特別支援学校（児童・教員・学校）】

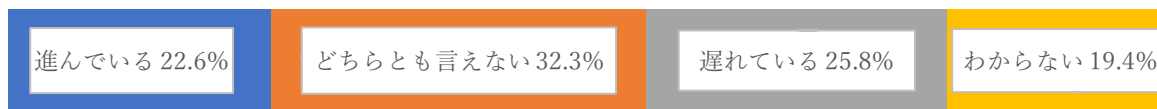
Q 8 今、自分が住んでいる市や町は住みやすいですか。



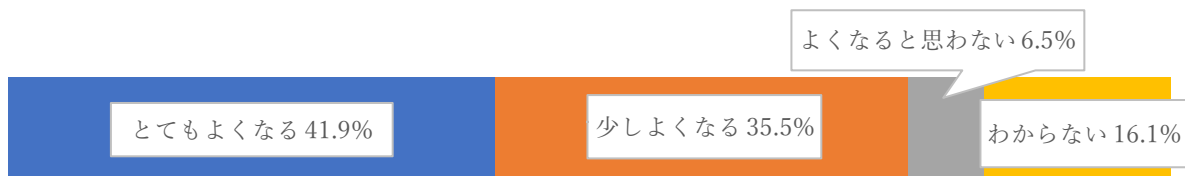
Q 9 あなたが 60 歳になった未来に、今住んでいる市や町はどうなっていると思いますか。



Q 10 日本のSDGsのとりくみは、世界の中で進んでいると思いますか。



Q 11 SDGsにとりくむことで、未来はよくなると思いますか。



特別支援学校 教員 回答

回答者 30名

Q 1 学校名をご記入ください。
回答結果は省略します。

Q 2 担当する学部を教えてください。



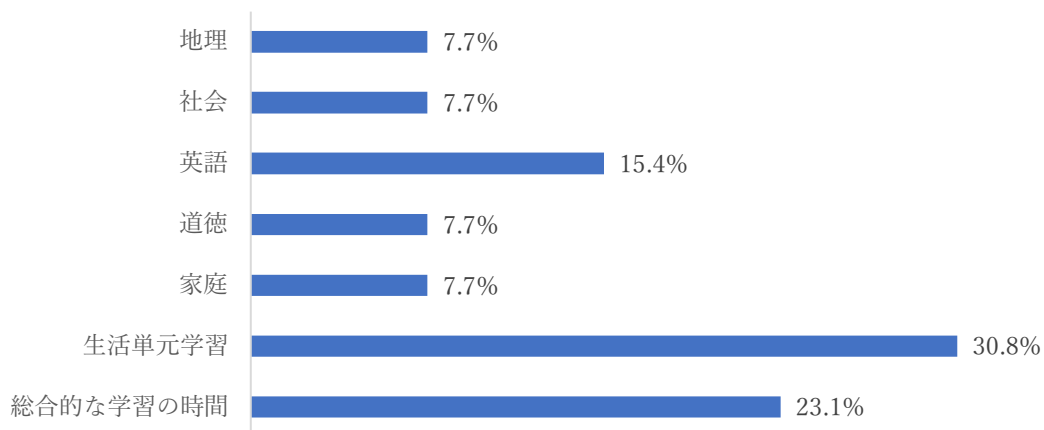
Q 3 SDGsについてどれくらいご存知ですか。



Q 4 SDGsを授業で扱っていますか。



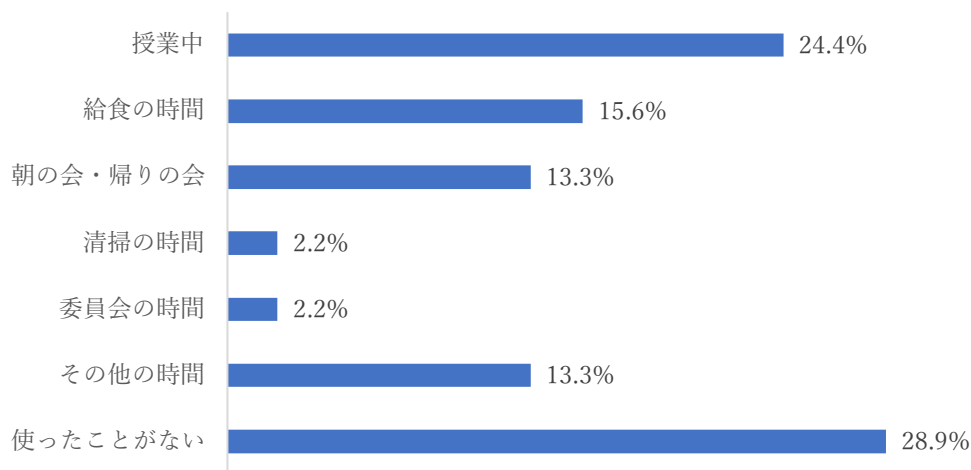
Q 5 どの教科、授業で扱っていますか。



Q 6 SDGs を授業で扱う頻度はどれくらいですか。



Q 7 学校で児童・生徒に「SDGs」という言葉を意図的に使ったことがありますか。それはどのような場面ですか。あてはまるものすべてにチェックしてください。（複数回答可）



Q 8 学校でSDGsを指導するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

[主な回答]

- ・教員の働き方改革を進め、生徒に胸を張ってSDGsの取り組みをしていると示せるようにする。その為にも古い考えにとらわれない教員の意識改革が重要。
- ・教員、児童生徒ともに、住みやすい世の中にしていこうとする意識
- ・普段からの意識づけ
- ・正しい知識
- ・自身の理解
- ・身近な実践とSDGsのつながりを伝える
- ・SDGsの内容を理解させ、日常にかかわっていることを伝える
- ・身近なこととして、生徒の生活に関連付けて扱う。
- ・自身がSDGsについて正しい知識を身に付けること。
- ・SDGsや世界の状況について教員が十分に理解しておくこと
- ・学習活動の中で、SDGsに当てはまる取り組みを実際に経験する機会を増やしていくとともに、現在の指導の中で、SDGsに該当するものを確認して指導の重要性を認識できるようにする。
- ・SDGsを授業内容に組み込むこと
- ・普段からSDGsに関する事象に遭遇したときに話題にすることが必要。そのためにSDGsの項目について教員が知っておく必要がある。
- ・日常的に取り組みするような簡単で分かりやすい事例を取り上げること。
- ・物を大切にするなど、SDGsに関する姿勢や態度を児童の前で意識的に示すこと

資料データ編【特別支援学校（児童・教員・学校）】

- ・教師がSDGsについて学び理解を深め、身の回りの実践例を見つけ、児童生徒に指導や教材で伝えていくこと。
- ・教員が意識をする、意識を高めておくことが必要。
- ・学校でできる(指導できる)SDGsについて教員が理解すること
- ・SDGsの正しい知識やどうすればよいかを考えるための力が必要
- ・児童が普段行っている活動や学習の中でもSDGsが関連していることがあることを意識させること。
- ・聴覚障害に起因する語彙の不足を解消するとともに、指導者側が意識的に語句を使って行くことが必要だと思う。
- ・SDGsについて先生が知識をもつこと。
- ・教師自身がSDGsへの理解を深め、幅広い視点から指導を行えるようにする。
- ・SDGsについて知ること
- ・環境問題を知り、身近なものと結びつけて考える時間を設けること。
- ・まずは教員がSDGsについて知識を深める必要があると思います。
- ・SDGsとは何か、といった初歩的な内容からの教員向けの研修。
- ・児童・生徒へ継続的な情報提供と意識啓発のため、関係機関と連携できる体制が必要
- ・様々な教科の単元の内容自体で扱うことが必要だと思います。
- ・教員が意図的に取り上げる。誰でも取り上げることができるようにするための資料などが多数あると、実態に応じて取り上げやすいと思う。

Q 9 今後SDGsをどのように取り上げ、どのように進めていきたいですか。

思いや考えがあればお書きください。

[主な回答]

- ・授業資料の見直しや電子化を図る。そのためにはパートナーシップなどが大切。小さなことも全てがSDGsに繋がっていき、地球の環境保全になることを理解し、思いやりの気持ちを育てたい。
- ・SDGsは範囲が広いので、ポイントを絞って取り上げていきたい。
- ・身近な問題として捉えられる工夫をしたいと思います。
- ・子供たち自身が主体的に考えて行動できるように、継続して取り上げていく。
- ・教師や生徒同士で話し合う。
- ・生徒に対して、自分の将来のこととして捉えてもらえるよう、進路指導と関連付けて伝えていきたい。
- ・生徒の生活に基づいている分野から取り上げ、生徒にもできることを具体的に上げていきたい。
- ・もし、SDGsについて取り上げるのなら、学校全体で行えるといいかと思います。子どもたちや教職員には、「特別なことをしなくてはいけない」と考えている人もいるかなと思います。そのことを浸透させつつ、今行っている授業や学校行事、各校務分掌部に関連したSDGsの目標(項目、分野)を関連づけていけたら、と考えています。
- ・児童にとってSDGsという用語、概念は難しいため、SDGsに当てはまる取り組みを推進することの大切さを伝えられていけたらと思います。
- ・身近な話題でないと興味関心がわかない傾向にあるので、身の回りで起こることを中心に取り上げて自分にはどうすることができるのか、という学習展開をしていきたい。
- ・動画等で児童に分かりやすいように取り上げていく。
- ・小学部だが、家庭科を受けもっているため、授業の中で触れられればと考えている。また、児童の中には、海の生物等に興味関心をもっている児童もいるため、折に触れて話ができるとうい

資料データ編【特別支援学校（児童・教員・学校）】

思っている。

- ・改めてSDGsということではなく、水や電気など普段の生活でできることをその都度繰り返し伝えていこうと思います。
- ・分かりやすい言葉で分かりやすい例を挙げて取り上げていきたい。
- ・作業学習（リサイクル班）などで、自然環境や資源を守る大切さを、視覚支援を用いてわかりやすく授業で取り入れ、実践していきたいと思う。
- ・SDGsの項目はどれも大切な内容なので、いろいろな場面で話題にしていきたい。
- ・地域や社会との連携を通じて廃品リサイクルや地域清掃活動などSDGsの実践を深めていきたい。
- ・SDGsの話題をとおして、他校等と交流活動ができるとよい。
- ・生徒が自分事として、自分でできることを考え、実践できるように意識や行動の変容につなげられたら良いと思う。

Q 10 日本のSDGsの取り組みは、世界の中で進んでいると思いますか。



Q 11 上の質問で、その答えを選んだ理由についてお聞かせください。

「進んでいると思う」と答えた方

- ・教育番組等でも取り上げられているから。
- ・様々なところで話題となっているため。
- ・様々な場面で啓発資料を目にするから。
- ・情報が世界に広まり、具体的な取り組みの方法なども共有することができるようになってきているから。

「どちらとも言えない」と答えた方

- ・進んでいる分野と遅れている分野があると感じる。
- ・SDGsの取り組みへの評価が十分ではない。
- ・実際をよく知らない。
- ・意識と取り組みに個人差、地方による格差がある。
- ・SDGsの考え方・取り組みは各国によって差があると思います。それを考えると、安易に日本が進んでいる・遅れているとは言い難いのではないかと考えたからです。ただ、日本の歴史を振り返ると、物を大切に使う、再利用するという文化が江戸時代頃から（分野によっては、さらに前から）根付いていて、SDGsの考えや取り組みが今に始まったことではないと考えます。このような視点に立って考えると、どちらとも言えません。
- ・少しずつ進んでいると思うがまだ改善の余地があると思われるから理解度や取り組み方に

資料データ編【特別支援学校（児童・教員・学校）】

個人差があると思う。

- ・世界と比べたことがない。
- ・近年、目にすることも、耳にすることも増えたようには感じるが、世界の中でという点で考えると、悩ましい。
- ・企業レベル、個人レベルでできることはやっているが、全体として十分にはSDGsの理解を共有できていないと感じるため。
- ・よく耳にする機会はあるが、実際の取り組みはそこまで進んでいるように思えないから
- ・SDGsのロゴマークを見かけることがあるが、自分自身も含めてSDGsを意識することがあまりないため。
- ・学校の中でも、詳しい教員が少ないと思われるため。
- ・できていない項目がある。
- ・政府主導でSDGsの実現に向けた取組をしていると思うが、他国の動向を知る機会が少ないため。
- ・進んでいるかどうか分かる情報がありません。

「遅れていると思う」と答えた方

- ・電子データで済む資料の多さ、効率化が図られないためにずっと学校で残業をする教員、税金である光熱費や設備費浪費への意識が低い。
- ・ひとりひとりの意識のなさ。
- ・他国と比較してマイバッグの浸透率が低いことなど
- ・外国と比べて、すぐに消費してしまう農作物の規格が厳しかったり、商品のきれいな包装は当たり前だから。
- ・頭では分かっているけど、実際に変えていくことには時間がかかりそう。
- ・特別支援学校において学校現場で指導するのが、難しいと思う。
- ・SDGsというワードは、ここ数年で普及してきていると思うが、その単語ばかりに注目がいって肝心の中身、例えば各項目で掲げている目標については多くの人知らない状況にある。
- ・SDGsという言葉に関して3年前に初めて聞いた。少しずつSDGsの取り組みについて学校や、飲食店、企業などで情報が発信されるようになってきたが、世界と比べるとまだ遅れていると感じる。
- ・こういった調査が必要なくらい、まだまだ考えや取り組みが浸透しているとは思えないから。

「わからない」と答えた方

- ・比べることが難しい。
- ・比較したことがないから。

Q 12 今SDGsに関する事で何かご意見があればご記入ください。

[主な回答]

- ・自分にもできる身近な行動を知り、生徒に伝えたり、授業で取り上げてみたい。
- ・特別支援学校における具体的な指導事例が共有できると良い。
- ・大切な内容なので、もっと授業等で扱えるとよい。誰でも使えるコンテンツが増えていくとよい。

特別支援学校 学校 回答

回答校 8校

※ Q 1、Q 2、Q 3 の回答は省きました。

Q 4 あなたの学校では、SDGsに関する指導について、校務分掌に位置付けられていますか。
8校の全て「位置付けられていない」と回答。

Q 5 位置付けられている分掌名をお書き下さい。
「位置付けられている」の回答校が無いため省略。

Q 6 SDGsと学校行事を関連させた取り組みを行っていますか。



Q 7 それはどのような取り組みですか。行事などでお答えください。

[主な回答]

- ・「つくる責任 つかう責任」と関連して、給食感謝の会を実施している
- ・奉仕活動
- ・修学旅行

Q 8 SDGsに関する内容をあなたの学校で扱う場合、学校として困難な点があったらお書きください。

[主な回答]

- ・重度重複の児童生徒が多く、どんなことを、どのように指導すべきであるか、検討していく必要がある。
- ・小学部から高等部までであるため、児童生徒の実態に即した活動が難しい。

Q 9 SDGsに関する内容をあなたの学校で扱ったことがある場合、学校として良かった点はどんなところかお書きください。

[主な回答]

- ・特別な時間を設定したわけではないが、係の仕事として教室を出る際に電気を消すことや水を出しっぱなしにしないことなど、生活の中で学ぶことができています。
- ・学部の行事ではあるが、植樹の際に森の大切さについて講話をいただくことで、環境を守る意識が高まった。
- ・牛乳パックのリサイクルや空き缶のリサイクルなど作業学習と関連して学ぶことができた。
- ・児童、生徒が社会の一員として生きるための、ひとつのきっかけになること。

Q 10 SDG s の内容の指導に関する取り組み全体について、ご意見がありましたらお書き下さい

[主な回答]

- ・特別支援学校で取り組んでいるSDG s の指導の状況を知り、本校でも取り入れられる部分を検討していきたい。
- ・授業への活用例について研修等があると良い各校の取組を参考にしながら、本校で実践できることを検討していきたいと考えている。
- ・先進的な取組があればそれを参考に実施したい。障害種にあった実践を知りたい。
- ・本校でも地域とのゴミ拾いや生徒会のリサイクル活動、重複障害学級におけるリサイクル関連の作業などSDG s に関連する取組は複数行われているが、SDG s の視点からの学習活動であるという教員側の意識が十分でなく、SDG s と関連させていると言えない現状がある。
- ・児童生徒の興味関心は知ることから広がっていくと思うので、まずは教員側の意識を高めることが必要であるように思う。

一般財団法人栃木県連合教育会
研究紀要 第156集

「SDGsの視点からの学習活動研究部会」
—児童生徒・教職員・学校へのアンケート調査結果から—

発行日 令和6（2024）年9月
発行者 （一財）栃木県連合教育会
発行所 同上
〒320-0066
栃木県宇都宮市駒生1-1-6
TEL 028-625-5228
FAX 028-625-5224
E-mail kenkyu@tochigi-rk.jp